

編集
発行

金沢市広岡町イ25-10（石川県薬事センター内）
公益社団法人 石川県薬剤師会 会長 中森 慶滋

2025.1
No.92

いしかわ

県薬レポート



【唐崎松（からさきまつ）について】

加賀藩13代藩主・前田斉泰が近江八景の一つ、琵琶湖畔の唐崎松から種子を取り寄せて育てた黒松。兼六園のなかで最も枝ぶりの見事な木です。雪の重みによる枝折れを防ぐため、冬にほどこされる雪吊りは兼六園ならではの風物詩で、湖面に映し出される円錐形のシルエットは美しく、趣深い風情を紡ぎ出しています。

目 次

◆新年のご挨拶「均衡そのものが善」	石川県薬剤師会 会 長	中森 慶滋	1
◆新年のご挨拶	日本薬剤師会 会 長	岩月 進	3
◆新しい年を迎えて	参議院議員・薬剤師	本田 顕子	4
◆新年にあたって	参議院議員・薬剤師	神谷 政幸	5
◆受賞おめでとうございます			6
◆能登半島地震から1年 ～薬剤師が見た被災地とその支援、つなぐ医療、支える地域～			
●石川県とともに。これからも。 日本薬剤師会災害対策委員会 委 員 長	越智 哲夫		6
●令和6年能登半島地震における石川県の薬事衛生に係る対応について	石川県健康福祉部薬事衛生課 専 門 員	吉田 正暢	8
●能登半島地震における薬剤師活動の概要について2	石川県薬剤師会 副 会 長	柏原 宏暢	13
●避難所支援を通して考える災害支援の一考察	奥羽大学薬学部 医療薬学分野 教 授	杉田 尚寛	26
●明かり消えた港町を照らす「灯火」～安心を届け続けるために～	にじいろ薬局	岩崎 富和	29
●能登半島震災時の学校薬剤師活動と環境衛生	笠原健招堂薬局	笠原 友子	31
◆学会報告			
●第57回日本薬剤師会学術大会「彩」に参加して	石川県薬剤師会 副 会 長	藤原 秀範	33
●第57回日本薬剤師会学術大会に参加しました	石川県薬剤師会 理 事	塩谷 明美	37
●「彩」第57回日本薬剤師学術大会（埼玉県）に参加して	笠原健招堂薬局	笠原 秀行	39
●第26回日本骨粗鬆症学会を終えて	北陸大学薬学部 教 授	高橋 達雄	40
●FAPA2024 in Seoulに参加して	石川県薬剤師会 副 会 長	橋本 昌子	43
◆石川県中高生薬剤師セミナー2024			
●石川県中高生薬剤師セミナー2024について	石川県薬剤師会 常務理事	今庄 恵子	45
●「石川県中高生薬剤師セミナー2024」サテライト会場として参加して	フラワー薬局南ヶ丘病院店	岩木 浩平	47
◆薬剤師国家試験にチャレンジ	北陸大学薬学部 実践実学系 准 教授	杉山 朋美	49
◆金沢マラソン2024「もてなしメッセ」におけるブース出展活動報告	石川県薬剤師会・金沢市薬剤師会・スポーツファーマシスト委員会合同		
石川県薬剤師会 常務理事、金沢市薬剤師会 専務理事、スポーツファーマシスト	伊藤 昭一		52
◆2024いしかわ介護フェスタに参加して	株式会社スパータル	四反田耕司	54
◆令和6年度（第65回）石川県防災総合訓練レポート	石川県薬剤師会 河北支部長	中村 安博	55
◆令和6年度石川県災害薬事コーディネーター養成研修	石川県薬剤師会 副 会 長	綿谷 敏彦	57
◆「G08認定薬剤師研修システム」の導入について	石川県薬剤師研修センター長	藤原 秀範	60
◆令和5年度県民啓発講座のアンケート結果	県民啓発講座実行委員会	石浦祐喜子	63
◆白山市福祉健康まつりに参加して	白山ののいち支部 副支部長	中谷 光博	65
◆「ビニールひもで括り付けてある貧弱ないかだ」～ゴールとは何	石川県薬剤師会	中森 慶滋	67
◆生と死を考えるオンライン講演会（第75回地域緩和ケアカンファレンス）の紹介	金沢大学附属病院 緩和ケアセンター長	山田 圭輔	69
◆薬局を飛び出してこども達に薬剤師の仕事を知ってもらおう！！	株式会社スパータル	村井 陽子	73
◆イギリスの医療事情、薬局・薬剤師事情について	瑠璃光薬局碓石ヶ峰登り口店	山崎 敏誉	74
◆第10回石川県パドルテニス選手権大会「復旧」・「復興」・「復活」に出場して	石川県薬剤師会	藤原 秀範	77
◆冷蔵庫の奥に長いあいだ放置されていた魚の干物がまだ食べられるかどうかを精査する		中森 慶滋	79
◆第64回北陸信越薬剤師大会・第57回北陸信越薬剤師学術大会「開催要綱」			82
◆会務・事業予定（令和7年1月～3月）			83
◆連盟だより			
●北陸三県若手薬剤師指導者育成フォーラム2024開催報告	石川県薬剤師会 開局部会 常任幹事	北 一晃	85
●北陸三県若手薬剤師指導者育成フォーラム2024に参加して	笠原健招堂薬局	笠原 秀行	86
●本田あきこ オレンジ日誌	参議院議員・薬剤師	本田 顕子	87
●政幸だより	参議院議員・薬剤師	神谷 政幸	90
●政治家個人の政治力とは	金沢市議会議員・薬剤師	宇冢 裕基	92



新年のご挨拶

均衡そのものが善

公益社団法人 石川県薬剤師会
会 長 中 森 慶 滋

令和6年1月1日16時10分、能登半島でM7.6、輪島市と志賀町で最大震度7を観測した地震が発生しました。多くの家屋は倒壊し、輪島の朝市通りは焼失した。亡くなられた多くの人たちのご冥福を祈るとともに被災された方々にお見舞いを申し上げます。

全国から延べ4,759人の様々な職域の薬剤師が駆け付け懸命に医療の復旧に尽くしました。隊員たちはみなご自身の持てる力の真価を発揮し多くの困難に果敢に立ち向かいました。雪が降る中カップラーメンをすすり、避難所やモバイル・ファーマシーで活動を行い、簡易宿泊所で寝泊まりした。そんな劣悪な環境の中、必死になって活動いただいた多くの先生方に感謝を申し上げます。

能登ではいまだに多くの人たちが失われた日常の中で過ごしています。我々には薬剤師が偏在する能登の医療事情を踏まえ新たな医療体制を構築する使命と、薬剤師活動により自覚した薬剤師の存在価値を次の世代に伝えていく責務があります。今後、石川県薬剤師会は復興活動を継続していきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

昨年、同級生であるY君が金沢に帰省したというので金沢の繁華街に飲みに出ました。彼は東京だけでなく日本で名の知れた高級住宅建築の第一人者であります。現在数多くのメディアに取り上げられ、破竹の勢いで活躍しています。そんな彼が高円寺の再開発を任されたため小説の中からそのアイデアを探ろうと高円寺について資料を集めようとしたのですが高円寺に関して取り上げている文学作品はほとんどなかったらしく、かろうじて引っかかったのは村上春樹氏の「1Q84」でありました。この物語の中に高円寺が出てくるそうです。

以前僕が東京へ出張の際、虎ノ門で彼と飲んでいて時、三島由紀夫の美学について僕が熱く話した後に、村上春樹の話が出て来たためなのか彼は僕に「1Q84に出てくる高円寺」について聞いてきました。しかし僕はストーリーについておぼろげながら覚えてはいるものの高円寺には全く記憶がありません。

そこで1Q84を本棚から探し読もうとしたのですが約5,000冊の蔵書中から探し出すのは極めて難しくしかも僕の本棚の奥行きは深く、奥、中、手前と三列で収めています。さらに能登半島地震の際、本棚から本が相当数落ちて来て本の中に体が埋まっ

てしまいそれを時間をかけて戻したのですが、それはただ戻すだけの作業であり規則性を持たせなかったため、読んだ本がどこに行ったのかは全く分からなくなってしまっていました。

そこでBookOffに行き一冊110円で6冊買ってきて再び読み始めました。高円寺はなかなか出てこなかったのですが、あるところまで読み進んだとき主人公の青豆が宗教団体さきがけのリーダーを殺害した後に高円寺のマンションに身を隠すシーンが出てきました。さらにもう一人の主人公である天吾の住んでいる場所は高円寺でありました。

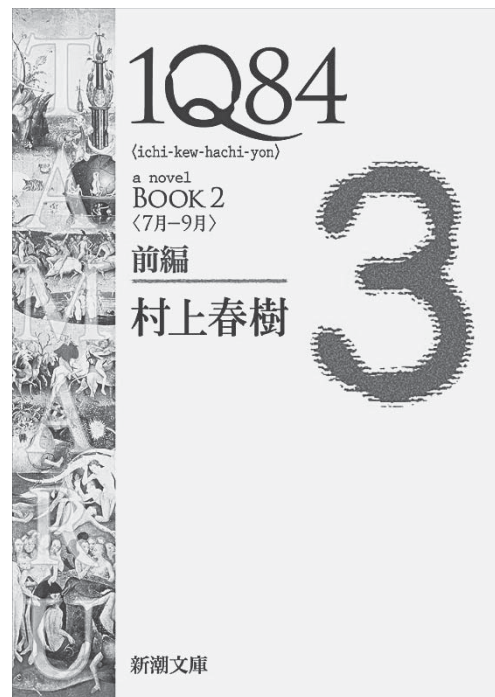
そして1Q84の三巻目を読んだとき、その文章を覚えている事に気がつきました。以前その箇所は僕がとても共感し納得したのでありました。

「この世には絶対的な善もなければ、絶対的な悪もない」と男は言った。「善悪とは静止し固定されたものではなく、常に場所や立場を入れ替え続けているものだ。ひとつの善は次の瞬間には悪に転換するかもしれない。逆もある。ドフトエスキーが『カラマーゾフの兄弟』の中で描いたものもそのような世界の有様だ。重要なのは動き回る善と悪のバランスを維持しておくことだ。どちらかに傾きすぎると、現実のモラルを維持することがむずかしくなる。そう、均衡そのものが善なのだ。

「1Q84」BOOK 2 前編
村上 春樹 著

今さまざまなところで均衡が崩れてきています。ウクライナ・ロシア・NATO・北朝鮮そしてイスラエルとガザをはじめとするその近隣国家。マスメディアの報道に対して個人が発信するSNS。結婚することや子供を産み育てることが人の最大の幸せでなくなった社会。薬剤師の医療の中での立ち位置、医療の効率化と経済的な誘導。薬剤師の作業の効率化とAIの台頭。

そんな新しい社会の中で石川県薬剤師会では均衡をとっていくことを重視していきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。





新年のご挨拶

公益社団法人 日本薬剤師会
会 長 岩 月 進

新年明けましておめでとうございます。
石川県薬剤師会会員の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素から日本薬剤師会の会務に格別のご理解とご支援をいただき、心より御礼申し上げます。

昨年は、能登半島を震源とする地震や各地での豪雨などによる災害が続いた一年となりました。犠牲になられた皆様に深く哀悼の意を表するとともに、被災地の皆様に心より謹んでお見舞い申し上げます。一日も早く日常生活を取り戻せるように、そして本年が穏やかな年となることを心よりお祈り申し上げます。

さて、令和7年は、地域包括ケアシステムの構築目標年とされています。住み慣れた地域で、住まい・医療・介護・予防・生活支援のサービスが一体的に提供されるシステムを構築し、その中ですべての薬局がかりつけ薬局としての機能を持つことが求められています。また、昨年4月から、各都道府県において第8次医療計画がスタートしたところです。こうした地域包括ケアシステムの構築や医療計画の策定・実施にあたっては、各地域・都道府県において、当該地域の実情を踏まえ、医療・介護に携わる関係職種や行政等の関係者と密に連携を図りながら作り上げていくことが基本となります。まずは、地域薬剤師会が中心となって地域住民が医薬品提供サービスを確実に享受できる環境を作り、その上で、都道府県薬剤師会には、より広域での

医薬品提供体制を構築するなどその地域での活動だけでは解決できない課題を検討し、地域薬剤師会の活動を支えていただきたいと考えており、地域の自主性や主体性に基づいた積極的な取組みに期待をしているところです。

日本薬剤師会としては、地域の薬剤師・薬局がその役割を果たすための環境づくりを進めていきたいと考えています。地域住民の医薬品アクセスを確保し、安全・安心な医薬品提供システムの確立に向けて、本会の政策提言である「地域医薬品提供計画」の策定・実現を目指し、全力で取り組んでいきたいと考えています。

さらに、昨年は、厚生労働省の検討会において、次期制度改正に向けた議論が行われました。本会としては、①安全性の確保と実行性を両立した医薬品販売制度、②地域に必要な医薬品提供体制の構築・確保、③医薬品の安定供給、ドラッグ・ラグ/ロスの解消を実現すべく、必要な制度改正が行われるよう意見を述べてまいりました。今年も、関係法令の改正や施行のための具体的な準備が進められることと思いますが、薬剤師・薬局が薬学的知見に基づき国民の生活を守る医療職種として活躍するよう、関係の皆様のご協力をいただきながら、引き続き適切に対応をして参る所存です。

結びにあたり、石川県薬剤師会会員の皆様にとって実り多い一年となりますよう祈念し、新年の挨拶といたします。



新しい年を迎えて

参議院議員・薬剤師 本 田 顕 子

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

会員の皆様におかれましては、穏やかに新たな年を迎えられたことと存じます。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年は元日に能登半島地震が発生しました。復旧・復興に向けた活動は、被災地の皆様のご努力と全国からの温かいご協力に支えられながら今も続けられています。その日から1年、大規模災害に見舞われた全国各地の一日も早い復旧・復興を願うにあたり、改めて防災対策の強化・徹底の必要性を痛切に感じます。

また、昨年は第8次医療計画の下で地域の実情に即した医療提供体制が動き出した年でもありました。報酬上の評価と連動させた形で医療政策の実効性を高め、地域医療構想を実現へと導く大事な時期を迎えています。そのため、引き続き本年も物価高対策や賃上げ対応につながる経済対策を講じつつ、地域医療介護総合確保基金の活用等を通じて必要な医療人材を確保のうえ、5疾病6事業および在宅医療の全てにおいて薬局の機能および薬剤師の職能を遺憾なく発揮して、地域医療を支えていただくことを祈念します。

本年は巳年。

脱皮を繰り返すへびの特性が常に「生まれ変わる」ことを連想させ、餌を食べなくても我慢強く生きながらえるため、「生命(いのち)」や「生命力」を象徴する動物として医療との縁が深いとされており、薬学のシンボルとも言われる「ヒュギエイア(Hygieia)の杯(さかずき)」にはへびが巻き付いています。

医薬品を濫用等させないための販売方法の確立、必要な医薬品・医療機器の開発および品質確保などを念頭に置いた薬機法改正や、電子処方箋の普及などに伴う薬局の更なるDX化、そして医薬品供給不足の解消など、本年も喫緊の課題への対応が控えております。

そのような中、「健康」、「衛生」といった言葉の語源とも言われる女神ヒュギエイアに倣い、国民のいのちと暮らしを守るために、参議院議員としての5年余りの経験と、その間の約2年に及ぶ大臣政務官としての実績を生かし、これからも薬剤師や薬業界を取り巻く現下の課題解決と政策実現に向けて力を尽くしてまいります。

現在は自民党女性局長として、全



国の党员の方々と語る機会を通じて党の信頼回復に努めているところ、自民党は結党70年を迎えた今こそ、立党の精神「政治は国民のもの」に立ち返らなければならないと考えています。

結びに、会員の皆様にとりまして本年が実り多き1年となりますことをお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

2025年も変わらぬご指導をよろしくお願い申し上げます。



新年にあたって

参議院議員・薬剤師 神谷政幸

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、お健やかに輝かしい新年を迎えられたことと、心よりお慶び申し上げます。また、日頃より温かいご支援を賜っておりますこと、この場をお借りいたしまして、深く御礼を申し上げます。

医療DXの推進について政府は、今後さらに進む少子高齢化や人口減少社会において、より質の高い医療やケアを効率的に提供する体制を構築するとともに、医療分野のイノベーションを促進し、その成果を国民に還元していく環境整備を進めることとしています。薬剤師を取り巻く環境の変化の中で、現在、電子処方箋の発行を含む、全国医療情報プラットフォームの整備が進んでいます。これは、医療機関や介護施設、公衆衛生機関等でそれぞれに保存・管理されている患者の医療関連情報を、一つに集約して閲覧共有・管理するための新しいシステムであり、全国でリアルタイムに共有できる状況を目指しています。リアル

タイムに処方・調剤情報が把握できることで、重複投薬や併用禁忌チェック、適切な服薬指導の実施、効率的なフォローアップの実現、さらには電子処方箋ネットワークを活用した医療機関への効率的なフィードバックも可能となることが期待され、薬剤師に対する評価はさらに高まるものと考えます。

昨年2024年の骨太の方針に、調剤録等の薬局情報のDX・標準化の検討を進めることが明記されました。薬剤師・薬局情報のDX化や地域における医薬品提供体制の構築に積極的に取り組んでまいります。

本田あきこ先生と共に皆様の声を国政の場に届け、国民や患者さんに対し、安心・安全な薬物療法の提供等にご尽力されておられる先生方のお役に立てるよう、今年もしっかりと仕事をしてまいります。

結びに、会員の皆様の益々のご活躍と、本年が素晴らしい一年となりますよう祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。

受賞おめでとうございます

◇ 叙 勲

瑞宝双光章

川 岸 康 男 先生

◇ 令和6年度薬事功労者

○ 厚生労働大臣表彰

橋 本 昌 子 先生

◇ 令和6年度薬物乱用防止功労者

○ 厚生労働大臣感謝状

佐 倉 有 紀 先生

○ 厚生労働省医薬局長感謝状

高 井 裕 美 子 先生

○ 石川県知事感謝状

金 谷 馨 嗣 先生

◇ 令和6年度学校保健に関する表彰

○ 学校薬剤師制度創設70周年記念事業
文部科学大臣表彰

竹 端 裕 先生

○ 石川県学校保健会功労者表彰

佐 倉 有 紀 先生



先生方のご栄誉をたたえ、今後ますますのご活躍をお祈りいたします。

能登半島地震から1年

～薬剤師が見た被災地とその支援、つなぐ医療、支える地域～

石川県とともに。これからも。

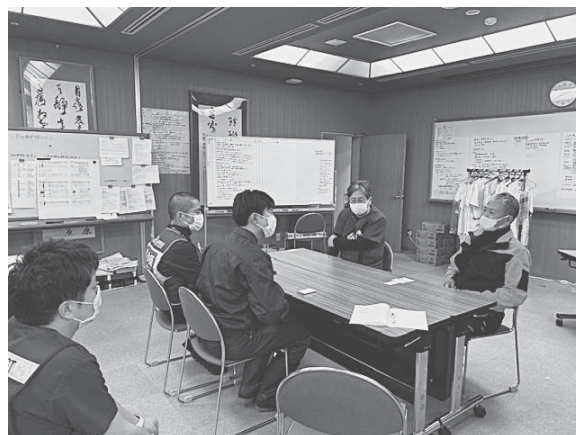
日本薬剤師会災害対策委員会 委員長 越 智 哲 夫

石川県薬剤師会の皆様におかれましてはこのたびの能登半島地震のご対応について、長きにわたって地域医療のためにご尽力されておりますこと、厚く感謝申し上げます。復旧に向かって進んでいる中、たびたび地震、豪雨などがあり、不安が絶えないことと察します。

さて令和6年を私の漢字一文字を勝手ながらに発表させていただきます。「輪」です。輪島など能登半島の多彩な魅力ある地が大きくダメージを受けたが、現在復興に向けて進んでいること。被災地域の先生方は懸命に活動され、「大車輪」の活躍をされていること。石川県薬剤師会は仲が良く



石川県薬剤師会災害対策本部にて



珠洲市健康増進センターにて

チームワークがよい「輪」、支援に関わった我々を巻き込んでくれた「輪」、全国に支援の「輪」ができました。私自身は活動で日薬班の撤収までに5回入りました。以降の能登半島地震報告会、日薬災害対策委員会、金沢マラソンを合わせますと8回です。私の地元は北海道北見市です。1月から3月までの半分以上は石川県で過ごしました。そこでご一緒に察したことは、被災地はもちろん、被災地外であっても先生方はそれぞれに災害によって大きな影響、負担を強いられ、非日常のなかで過ごされ活動されていることでした。そんな多忙を極める中でも、初期より日薬現地本部、日薬スキーム班に懇切丁寧な対応をいただきました。特に1月初回の本部活動では、現地のニーズや医療資源、危険情報など様々な種類の膨大な情報が日薬本部に報告があり、また発信したりする必要がある状況でした。これらの情報を適切に対応できていたとは思いませんが、ひとつひとつ一緒に取り組んでいただきました。大きな混乱を生じかねない時期であったと思います。3月の日薬班の撤収まで視点を合わせ、一緒に活動できましたことは今後忘れることができないほどの思い出となりました。

さて私ごととなりますが、地元に戻って

いる時にはしばしば、皆様と出会えたことを思い出しております。活動から遠ざかった4月以降は何もできはしませんが、少しでも元気をお届けできればと、折に触れ石川県で関わった方々のことを思い出しております。

私は走ることが大好きです。以前より出場を目指していた金沢マラソンが毎年開催されており令和6年においても実施されるとのを知りました。出場は躊躇っておりましたが、そんな思いにまで気づいて、「ぜひともお越しください。」とお声掛けいただきました。走ることしかできないけど元気につながるならと出場しました。

大会中は沿道ではボランティアスタッフのサポート、切れ目のない応援で元気をもらい、石川県のグルメが並ぶ補給所「食べまっしステーション」のおかげで、念願叶いおかげさまで完走できました。（人生で初めて走りながらカレーライスを食べました。）石川県薬の先生方も走られ、応援され、サポートされました。また大会前に、もてなしメッセ（地下イベント広場）においてスポーツファーマシストブースを展開され、薬剤師の先生方が選手をお迎えされている大盛況の様子を拝見しました。地域のイベントを皆様で盛り上げておられまし



金沢マラソンに参加して (10/27)

た。金沢マラソンでも「輪」ができていました。

珠洲においてトライアスロン大会が長年開催されていたと承知しております。能登の復興があり再開されたときにはぜひ参加したいと思います。



金沢マラソン2024シールをマイPCへ貼付

最後になりますが風光明媚な景観、輪島塗に代表される伝統工芸や輪島朝市、祭り、温泉などの多彩な魅力がある能登エリアが復旧され、1日も早く先生方の日常、暮らし、地元の「輪」が戻りますことを祈念しております。

令和6年能登半島地震における石川県の薬事衛生に係る対応について

石川県健康福祉部薬事衛生課 専門員 吉田正暢

皆様には日頃から、石川県の薬事行政の推進に多大なるご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

令和6年1月1日に発生した能登半島地震は、県内各地に甚大な被害をもたらし、多くの方が犠牲となりました。震災の発生から間もなく1年が経とうとしている現在(本稿執筆は令和6年12月)でも、多くの方々にとっては震災前の日常を完全に取り戻しているとは言い難い状況かと思いますが、被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

また、発災後の災害支援活動におきましては、石川県薬剤師会の皆様をはじめ、県内外の様々な団体の皆様から多大なご支援を賜りましたこと、この紙面をお借りして、心より感謝と御礼を申し上げます。

さて、発災当初に県が実施した保健医療福祉救護活動において、当課としてどのような対応を行ってきたのか、以下にその概略をご紹介させて頂きたいと思っております。

県では、地震発生直後に知事を本部長とする災対本部が設置されており、その下に保健医療分野の司令塔役として保健医療福祉調整本部が位置づけられています。

薬事衛生を所管する当課もこの調整本部の一員を担っており、県内における医薬品等の供給体制を確保することを主な責務として、薬事に係る支援全般に対する調整活動を実施しております。具体的な内容としては、医薬品等の支援要請があればその配送の手配、避難所等において調剤や服薬指導を行う人員が必要な場合は、支援薬剤師

の派遣要請や調整を行うほか、活動の根拠となる法令等の裏付けや必要な予算の確保など、支援者が現地で円滑に活動できるよう様々なサポートが求められます。その他、薬事に係る各種問い合わせの対応や発生した問題への対応等を行うこととなります。

【発災初期の対応】

発生当日、私自身は震災対応に当たるために17時頃に当庁しましたが、直前に大津波警報が発令されていたことから、津波被害を懸念した近隣住民の方が多数県庁舎に避難されており、ただならぬ事態が発生している事を否が応でも実感させられたことが印象に残っています。

発災直後は、関係団体の協力の下、まず所管する薬事関連事業者における被害状況と、医薬品の供給体制（特に医薬品卸売業者の状況）の把握と確認を行いました。同時に、調整本部に寄せられる医薬品の支援要請に対応するため、医薬品卸売業者に被災地への緊急医薬品の配送依頼を行っておりますが、当時、奥能登地域では至る所で道路が寸断（1月2日時点で通行止め22路線39箇所）しており、輪島市や珠洲市

等への通行可能な道路の把握が最大の課題でした。復旧作業等による道路啓開の状況も刻一刻と変化しており、県災害対策本部の情報も常にリアルタイムでの状況を反映していないこともあったため、実際に配送された卸売業者から現地の情報をフィードバックして頂き、相互に情報を共有しながら対応するといった状況でした。

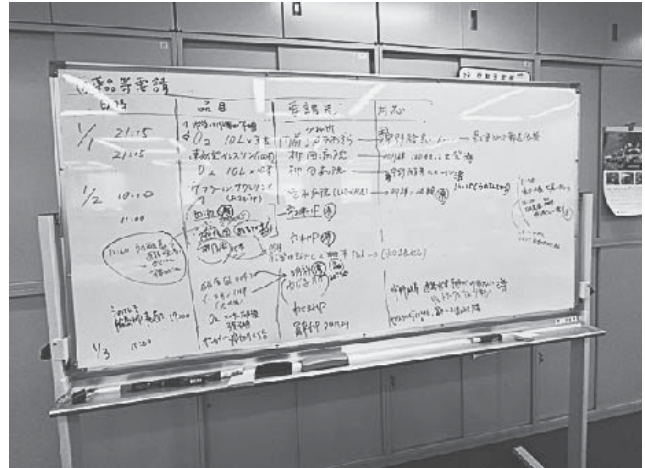
発生当日は、元日ということもあり医療機関も休診であったため医薬品の通常配送が無く、この時点では医療機関からの緊急要請は予想したほど多くはありませんでしたが、年末年始の休暇が明けの1月4日から、基幹病院への医薬品供給体制を確保できるかが最も懸念されました。七尾支店を有する医薬品卸売業者4社の営業所がいずれも被災している中、金沢営業所からの配送で対応するなど、医薬品卸各社のご尽力により、幸い休み明けの4日からの基幹病院への通常配送には対応することができましたが、これがもし平日に発生していた場合は、また状況は異なっていたかもしれません。改めて、医療機関においては、災害発生から3日間程度は外部から医薬品の供給が為されない可能性を踏まえ、必要最低限の輸液等の院内備蓄の確保を検討頂きた



深夜のDMAT本部の様子（石川県庁内）



1月9日時点の交通規制の状況



医薬品等の緊急支援要請に係るクロノロ

いと思います。

その他、発災直後の交通障害の影響として懸念されたのが、透析患者の治療継続と医療用酸素ガスの供給対応でした。いずれも、医療機関への供給が途絶えた場合、直ちに患者の生命に関わってくる緊急性の高い医療資源のため、迅速な支援が重要となります。透析患者については、断水の影響もあり、全員金沢の医療機関等に搬送することが調整本部において早々に判断され、透析用医薬品に関する懸念は生じませんでした。一方で医療用酸素ガスについては、奥能登のほぼすべての基幹病院で酸素ガスのタンクに傾きが生じていることが確認され、場合によってはDMATや医療主管部門など調整本部全体での対応が必要となる可能性も想定しつつ、医療用ガス卸事業者と緊密に連絡をとりながら対応していました。各病院における使用量とタンク内残量から猶予期間がどれくらいあるか、タンクの損壊状態が酸素ガスの充填に耐えうるレベルか、当時の道路状況下で充填用の大型タンクローリー車（20t）を被災病院に配車することが可能か、といった懸念事項を逐次確認しながら対応する必要がありました。

幸い、重症の入院患者は金沢以南の医療機関に搬送されていたことで、酸素ガスの消費量はそれほど多くなく、またタンクローリー車の通行ができなかった市立輪島病院については、一時的にポンベの酸素をトラックで搬送することで対応が可能でしたが、普段あまり使用しないポンベのため数に限りがあるとのことから、不測の事態に備え、過去の災害事例を参考に工業用酸素ガスポンベを医療用酸素ガスに用いる取扱通知の発出を厚労省に要請し、工業用ガスポンベの流用により対応することとしました。

今回のような大規模災害においては、事業者や一般の方から善意で支援物資の提供の申し出を頂くことが多く、それらの申し出への対応や、頂いた物資と被災地における需要とのマッチング調整、物資の一時保管、仕分け、配送等の手配についても行政による対応が求められます。当課でも提供頂いたOTC医薬品を、364箇所（当時）あった避難所にどのように配布をするかが課題でした。専門家の関与が必要な医薬品の支援物資については、通常の支援物資のように自衛隊による配送スキームを利用することができないことから、当課だけでは

対応が難しく、最終的には厚労省と石川県薬剤師会の協力のもと、どうにか避難所に配布することができましたが、今後も支援物資によっては取り扱いが課題になると思われました。

【災害救助法への対応】

大規模災害時における救助活動に要した費用については、県独自の予算のみで対応できるものではないため、災害救助法に基づいて国が大半を負担することとなりますが、同法の適用対象となる経費は「災害救助事務取扱要領」として詳細に規定されており、救助費の支弁を受けるためには本要領に準じた適切な救助活動と厳密な事務処理を行うことが求められます。今般の能登半島地震は当県にとって未曾有の大災害であり、当課としても初めて災害救助法に基づいた救助活動を実施した災害でした。

私自身も、今般の震災対応で初めて災害救助法に触れることとなりましたが、災害対応を行うにあたり、行政の立場としては同法の解釈と災害救助事務要領の内容を十分理解しておくことが、円滑な災害支援活動の実施において非常に重要であることを、今回の経験を通じて痛感しました。特に今回、災害処方箋を運用するにあたり、



支援物資の搬送拠点となっていた石川県産業展示館

保険診療体制が機能している環境では原則として災害処方箋を発行しないことや、災害処方箋を運用した場合であっても可能な限り早期に保険診療に戻すことを念頭に活動すべきであることなど、運用に係る方針やルール等を医療支援チーム全体の共通認識として把握しておくことが重要であることを実感しました。

また当県では、災害処方箋の調剤に係る薬剤師の労務費について、費用支弁の取扱いが具体的には定められていなかったため、調剤薬局への周知等の対応が遅れる結果となってしまいました。他職種に係る労務費との整合を図る必要があったこと等により速やかに決定できなかったことが一部背景としてありましたが、今回の経験で必要な手続きがある程度明確になったことから、今後はより迅速な対応が可能になるものと考えています。

【広域避難への対応】

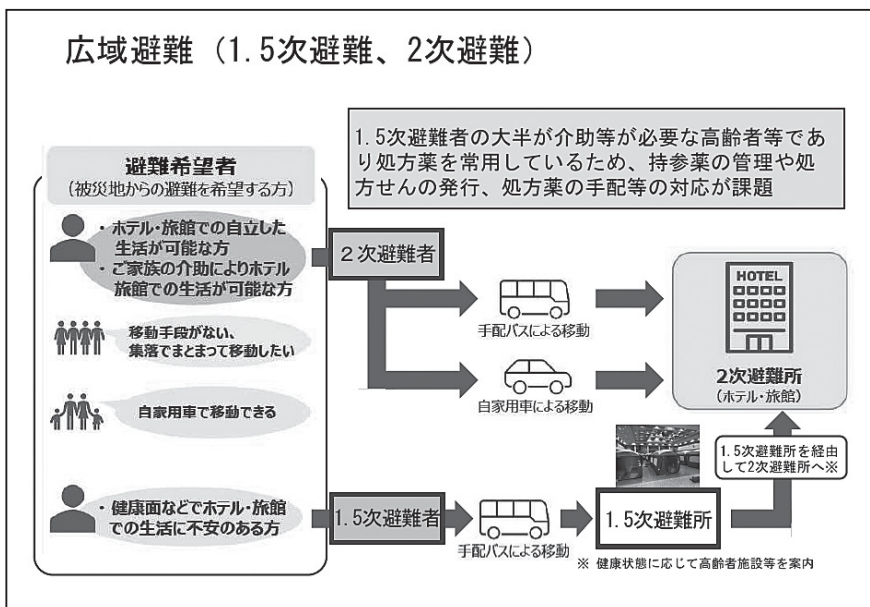
今般の能登半島地震における災害支援の特徴の一つとして、大規模な広域避難が実施されたことが挙げられます。さらに、奥能登は高齢化率が全国的にも高い地域であることから、広域避難の対象者としては、普段から何らかの医薬品を服用している方や、介助等が必要な高齢の避難者が大半を占めており、避難者の医療支援をより複雑なものとしていました。特に、2次避難先での受入れが困難な要配慮者の受け皿として、いしかわ総合スポーツセンターに1次と2次をつなぐ1.5次避難所が設置されましたが、運営に際しては、やはり服用薬の対応が大きな問題となりました。

1.5次避難所の立ち上げに際し、まず避難者の医薬品をどのように確保するかとい

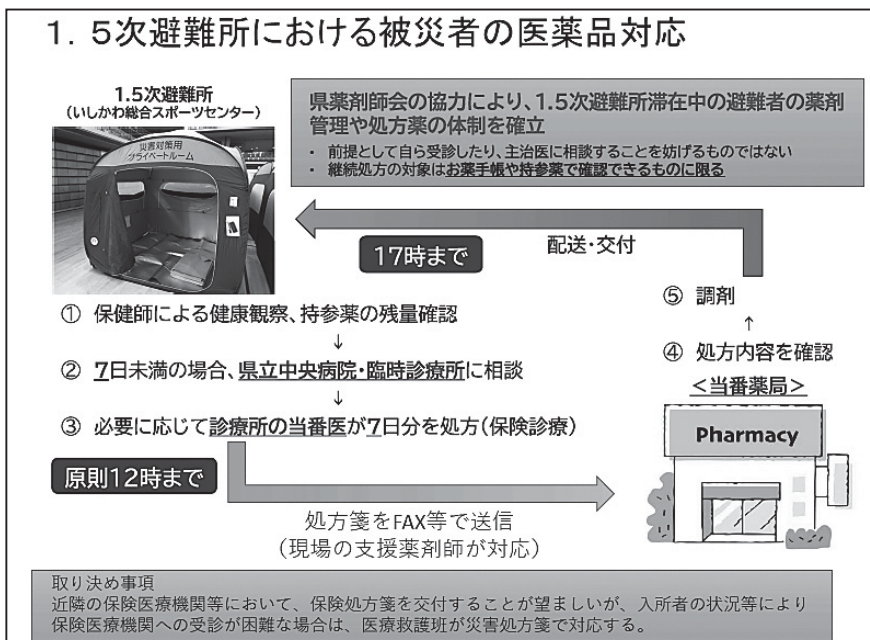
う段階から問題が生じました。支援医師により災害処方箋を発行するという運用が最も簡単な方法ではありましたが、保険医療体制が整っている金沢市で災害処方箋を発行することは法令の主旨に照らして妥当ではなく、また災害救助法が適用されている期間しか運用できないため、比較的被害の小さい金沢市は早期に適用からはずれる可能性があります。

しかしながら保険処方箋を発行すると、保険医療機関の登録やレセプト請求

に係る体制整備など、設備や事務手続き上のハードルが非常に高く、迅速な対応が求められている状況下で、避難所に臨時の保険診療所を開設することは現実的ではありませんでした。金沢市内の医療機関等から往診として医師の派遣を依頼するといったことも検討されていましたが、運用の是非について厚労省の医政局や保険局等と制度上の調整が必要であり、また派遣元医療機関でカルテ記載や処方入力をしてもらう等の負担が発生することや、そこで発行され



広域避難の概要



1.5次避難所における処方薬の供給スキーム

た処方箋の受け渡しをどうするかといった問題もあるため容易ではありませんでした。こういった経緯から、最終的には厚労省の保険局及び県立中央病院との調整のもと、県立中央病院の巡回診療施設として位置づけ、必要に応じて、派遣された支援医師が現地で保険処方箋を発行する運用がとられました。

1.5次避難所で発行される処方箋の運用については、体制作りの段階から石川県薬剤師会の支援薬剤師に全面的に協力して頂き、処方発行から配薬までのスキームを構築して頂きました。先述のとおり1.5次避難所では要介助者等の支援を要する方が多く、支援薬剤師には介護型医療施設並みの、いわゆる災害支援活動とは一線を画す活動が主な支援内容となっていました。

また、金沢市や南加賀地域への2次避難者の医薬品対応については、主にJMATの支援医師が巡回診療等を実施していました。基本的に処方等が必要な方については保険診療に繋げることとなりますが、医療機関に受診するまでの必要最小限の医薬品

等、一部災害処方箋を発行する場面もありました。保険診療体制が整っている環境では災害処方箋は使用しないことが原則ではありますが、累計で1万人を超える大規模な2次避難を実施した中では、移動手段や情報収集のすべを持たない高齢者世帯等も一定数存在しており、そのような方々が慣れない地域で医療にアクセスすることは容易ではなく、災害処方箋の運用の可否を一律に判断することは非常に難しいと感じました。実際当課へも、2次避難した高齢者から「どのようにお薬を入手すればよいか」といった問い合わせが寄せられました。

ここでご紹介した当課の対応等につきましては、すべて適切であったかと言えば、決してそうではないと考えておりますし、中には解決できなかった事案等もありました。そういったものも含めまして、今般の震災で経験し、感じたもの・ことを今後の災害対策の改善に繋げていければと考えております。

能登半島地震における薬剤師活動の概要について 2

石川県薬剤師会 副会長 柏原宏暢

前回の県薬レポートでは、石川県薬剤師会災害対策本部（以下、県薬本部）における薬剤師の支援活動の概要を1 活動組織、2 活動地域、3 活動内容の三つに整理して報告しました。その後、能登半島地震に関する発表、報告を学会等で行ったので、紹介します。

9月22日（日）23日（月・祝）に埼玉県さいたま市で日本薬剤師会が開催した「第57回日本薬剤師会学術大会」におい

て、ポスター発表「石川県薬剤師会能登半島地震対策本部の活動について」を行いました。10月6日（日）に横浜薬科大学で神奈川県薬剤師会が開催した「神奈川県薬剤師会学術フォーラム in ハマヤク」において、その中のシンポジウムで「能登半島地震対策本部の活動の概要と指揮命令系統の確立について」を講演しました。11月18日（月）に東京都千代田区霞が関で厚生労働省医薬局が開催した「令和6年度都

道府県災害薬事連携推進会議」において「石川県薬剤師会の支援について」を講演しました。12月8日（日）に大阪市で大阪府薬剤師会が開催した「災害対策研修会」において、「能登半島地震における石川県薬剤師会の活動について」を講演しました。その4つの発表・講演に使用した新たなスライドを中心に、1 被災状況、2 活動場所と活動期間、3 災害処方箋、4 1.5次避難所、5 講演での質問等に関する回答について報告します。

1 発災直後の被災状況等について

(1) 被災状況

県庁災害対策本部では、毎日、各市町の現地対策本部から情報提供を受けて、地域ごとの被災状況を取りまとめていました。後で県庁災害対策本部がまとめたものによると、6市町（珠洲市、輪島市、能登町、穴水町、志賀町、七尾市）の人口は、令和2年の国勢調査によると13万人、高齢化率は44.3%、一般世帯数は5万3千世帯でした。死者は6市町の災害関連死を含むと

令和6年11月22日の発表で446人、一時避難者は各市町のピーク時を合計すると約3万5千人、住家被害は約4万7千棟、全壊は約5千5百棟に上りました。

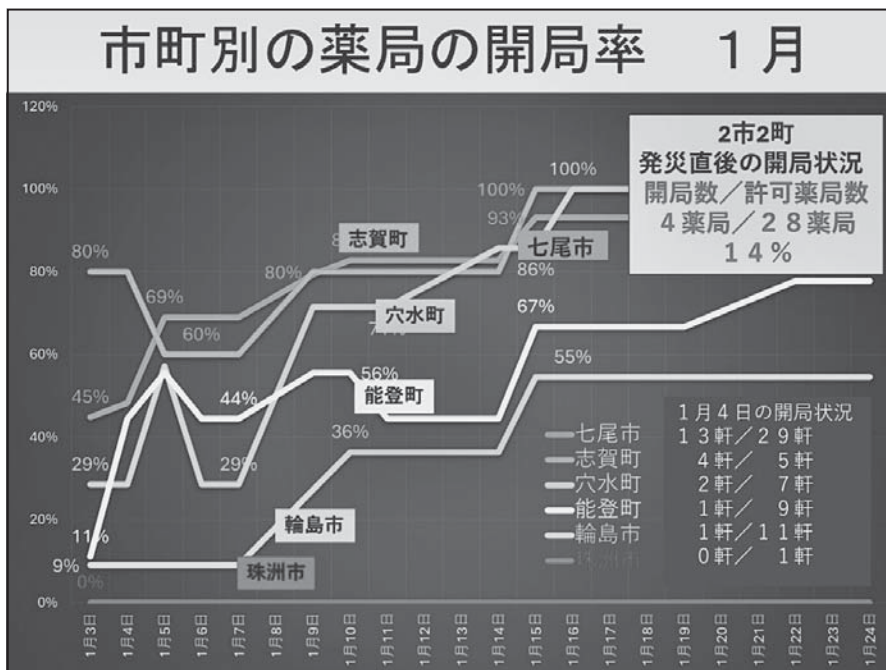
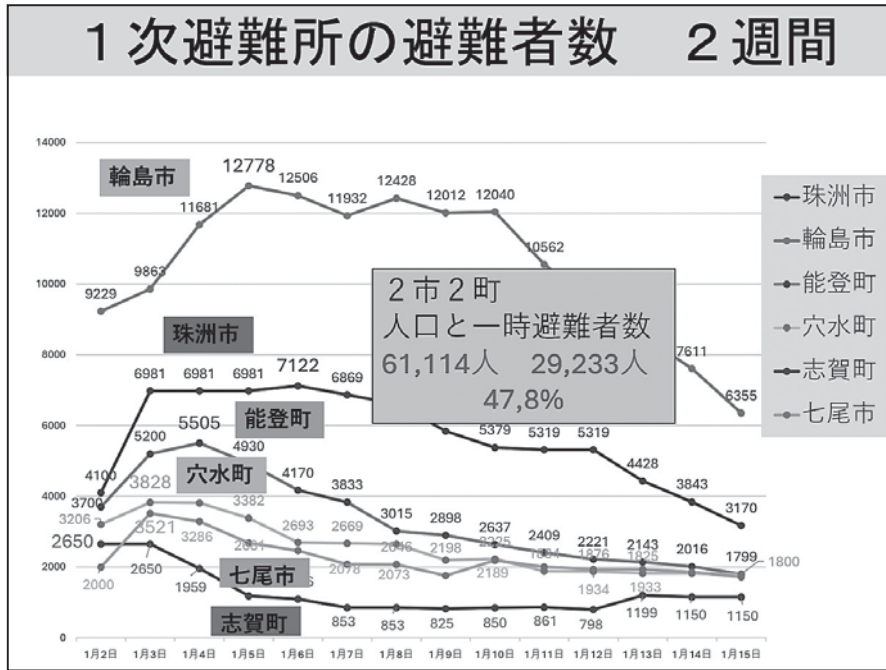
(2) 1次避難所の避難者数 2週間

発災直後から県庁災害対策本部会議が開催されていたので、県薬本部ではその資料から市町別の1次避難所の避難者数等を把握していました。3市3町の避難者のピークは、輪島市は5日に1万2,778人、珠洲市は6日に7,122人、能登町は5日に5,505人、穴水町は2日に3,828人、七尾市は3日に3,521人、志賀町は2日に2,650人でした。2市2町（珠洲市、輪島市、能登町、穴水町）では6万1千人の住民の内、半分近くの2万9千人が一時避難していました。

(3) 市町別の薬局の開局率 1月

県薬では薬局の被災状況やライフラインを毎日調査しました。1月4日の薬局の開局状況は、七尾市は29軒中13軒、志賀町は5軒中4軒、穴水町は7軒中2軒、能登町は9軒中1軒、輪島市は11軒中1軒、

令和2年国勢調査	人口(人)	高齢化率(%)	一般世帯数(世帯)	死者(人) うち災害関連死 R.6.11.22	一時避難者各ピーク時(人)	住家被害(棟) R6.8.13	全壊(棟) R6.8.13
珠洲市	12,929	51.6	5,490	137 40	7,122	5,511	1,725
輪島市	24,608	46.2	10,172	173 73	12,778	10,291	2,277
能登町	15,687	50.4	6,423	46 44	5,505	5,659	240
穴水町	7,890	49.1	3,267	38 18	3,828	3,371	395
志賀町	18,630	44.7	7,427	17 15	2,650	7,403	552
七尾市	50,300	38.7	20,253	35 30	3,521	15,568	392
合計	130,044	44.3	53,032	446 220	35,404	47,803	5,581



珠洲市は1軒中0軒でした。奥能登（能登北部医療圏）の2市2町では28薬局中4薬局しか開局していなかったため、薬局からの医療用医薬品の提供が危ぶまれ、通常地域医療の継続が困難な状況でした。

(4) 道路状況

1月2日の県からの情報では崩落している道路が多数あり、把握している通行止めが22路線39か所であるが、全容は不明でした。1月3日の情報では通行可能な道路

が限られ、道路が大渋滞で、通常1.5時間のところ6時間以上要するとのことでした。1月4日県薬剤師会の役員3人は、朝5時前に金沢の北部を出発して、珠洲市まで往復20時間かけて現地視察を実施しました。ナビはあてになりませんでした。

この地図は、毎日開催された県庁災害対策本部会議の資料として提供されたので、奥能登に向う都道府県薬剤師支援チームに県薬本部から提供しました。



2 支援薬剤師の活動場所と活動期間について

(1) 支援薬剤師の活動場所 1～3月

被災地の避難所で活動した薬剤師は、延べ2,433名、1.5次・2次避難所で活動した薬剤師は延べ900名、病院薬剤部を支援した薬剤師は314名、災害対策本部（県庁、県薬、日薬の現地本部）で活動した薬剤師は695名でした。ピーク時には1日100人を超える薬剤師が活動しました。

(2) 2市2町の支援薬剤師の活動期間 1～3月

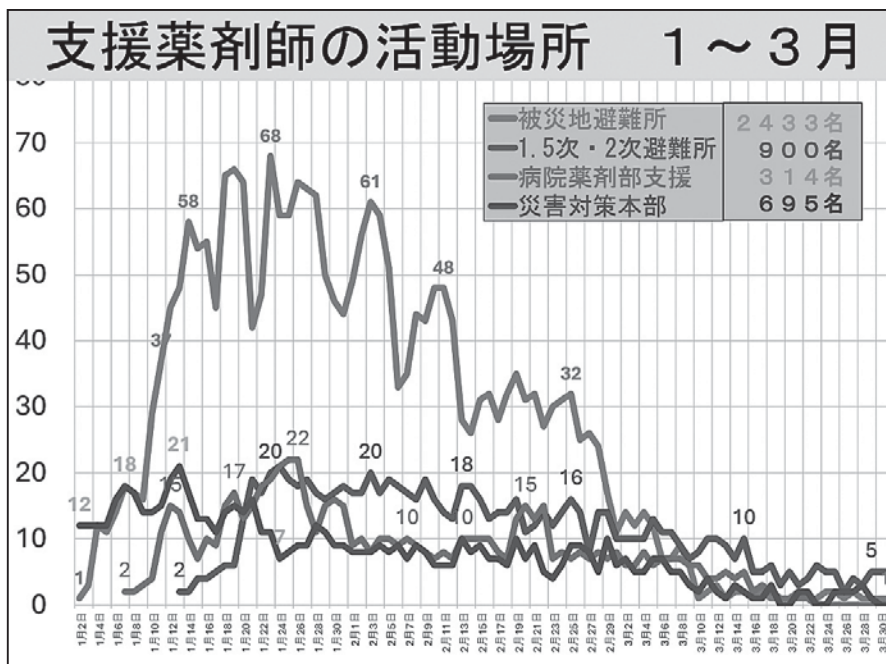
穴水町では1月4日から2月8日まで、能登町では1月4日から2月18日まで、輪島市では1月4日から3月4日まで、珠洲市では1月3日から3月9日まで活動しました。

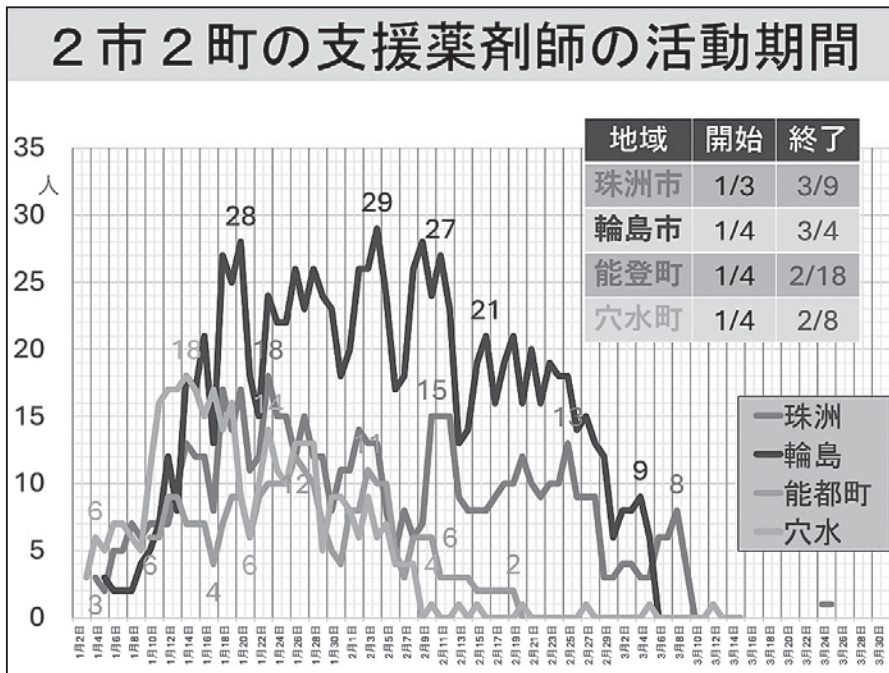
撤退するに当たっては、現地対策本部等との調整を図りながら実施しました。

3 災害処方箋による調剤について

(1) 3市3町での調剤

珠洲市ではDMATチームからの災害処方箋について、モバイルファーマシー及び珠洲市健康増進センターに設けた臨時調剤所で、都道府県薬剤師チームが中心となり調剤しました。輪島市中心部ではDMATチームからの災害処方箋は、開局できた薬局及びモバイルファーマシーで調剤しました。輪島市町野地区では避難所の臨時診療所に対応して、同じ避難所の臨時調剤所で調剤しました。輪島市門前地区では避難所の感染症に対してDMATチームが発行し





3市3町での調剤

珠洲市	モバイルファーマシーによる調剤 旧病院の臨時調剤所での調剤	保険薬局なし 全てのクリニックが被災で休診
輪島市	モバイルファーマシーによる調剤	保険薬局、DMATへの対応
旧町野町	避難所の臨時調剤所での調剤	1軒しかないクリニックと 薬局が全壊
旧門前町	モバイルファーマシーによる調剤	避難所の感染症に対応
能登町	FAXで金沢市での保険調剤 モバイルファーマシーによる調剤	複数の薬局が全壊状態
旧内浦町	避難所の臨時調剤所での調剤	薬局が被災
穴水町	モバイルファーマシーによる調剤	保険薬局、DMATへの対応
志賀町	薬局	被災からの復旧が早かった
旧富来町	処方箋なしでの保険調剤 オンライン資格確認による保険調剤	公立病院が被災 保険薬局
七尾市	薬局	沢山の保険薬局が開局できた
旧能登島町	避難所の臨時調剤所での調剤	薬局が被災

た災害処方箋をモバイルファーマシーや門前地区の薬局が調剤しました。能登町宇出津地区では金沢市内の薬局にFAXで処方箋を送信し、保険調剤して、卸が薬を宇出津まで配送しました。また、モバイルファーマシーや宇出津地区の薬局が災害処方箋を調剤しました。能登町内浦地区では避難所の臨時調剤所で調剤しました。穴水町では災害処方箋をモバイルファーマシーや地域の薬局が調剤しました。志賀町富来

地区では避難所にいる処方箋がない人に対して、富来地区の薬局が主治医に連絡を取って処方箋なしの調剤を行い、また、オンライン資格確認による調剤を実施しました。七尾市能登島地区では避難所の臨時調剤所で調剤しました。

(2) モバイルファーマシー及び臨時調剤所での災害処方箋の調剤

奥能登の2市2町における都道府県薬剤師会チームによる災害処方箋の調剤は、モ

MP及び臨時調剤所の災害処方箋 都道府県薬剤師会チームが調剤

	1月	2月	3月	合計
珠洲市	878	519	50	1,447
輪島市	166	5	0	171
旧門前	142	110	0	252
能登町	187	3	0	190
穴水町	36	0	0	36
合計	1,409	637	50	2,097

薬局の災害処方箋の応需枚数

市町	旧行政区・地域名	応需薬局数	災害処方箋枚数
珠洲市		0	0
輪島市	輪島市	5	128
	旧門前町	1	21
能登町	旧能都町・宇出津	3	58
	旧内浦町・松波	1	69
穴水町		6	142
	七尾市	2	2
志賀町	旧富来町	1	2
	羽咋市	6	61
	金沢市	15	90
	白山市	7	41
	小松市	2	18
	加賀市	7	157
	合計	56	789

パイルファーマシーと臨時調剤所を合わせて、1月に1,409枚、2月に637枚、3月に50枚の合計2,097枚になりました。

(3) 薬局の災害処方箋の応需枚数

全国から支援に訪れたDMATチームやJMATチームにより発行された災害処方箋は、県内各地の薬局で調剤されました。能登の薬局（羽咋以北）で483枚、金沢以南の薬局で306枚の合計789枚の災害処方箋

を応需しました。

県庁に設置されたDMAT調整本部は、DMATチームやJMATチームに対して、1.5次避難所や2次避難所として活用された金沢以南のホテル・旅館・体育館等の避難者については、その地域の医療機関が稼働していることから、通常の保険診療に繋げることを要請していましたが、実際にはJMAT等から災害処方箋が発行されまし

オンライン資格確認等システム

2024/02/09 10:02 07 [] 薬局 [] 1/5ページ

薬剤情報一覧 作成日: 2024年2月9日 1/5ページ

氏名 [] 住所 [] 電話番号 []

生年月日 [] 性別 [] 年齢 [] 職業 []

【処方箋情報】

薬剤名	数量	処方日
1. パロチン錠10mg	100	5/20
2. 胃腸薬	200	2/20
3. エピネフリン錠5mg	200	2/20
4. アムロジピン錠5mg	200	5/20
5. アムロジピン錠5mg	30	5/20
6. アムロジピン錠5mg	100	5/20
7. アムロジピン錠5mg	100	5/20
8. アムロジピン錠5mg	2	1/20
9. アムロジピン錠5mg	30	1/20
10. アムロジピン錠5mg	100	1/20

お薬手帳等を持たずに避難した方の処方に利用：

利用実績 32,600件

た。

(4) オンライン資格確認

オンライン資格確認は、能登から避難してきた初見の患者の処方や調剤に大変活用され、100日前までのレセプトデータを確認できました。薬局、病院・診療所での利用実績は延べ32,600件に及びました。

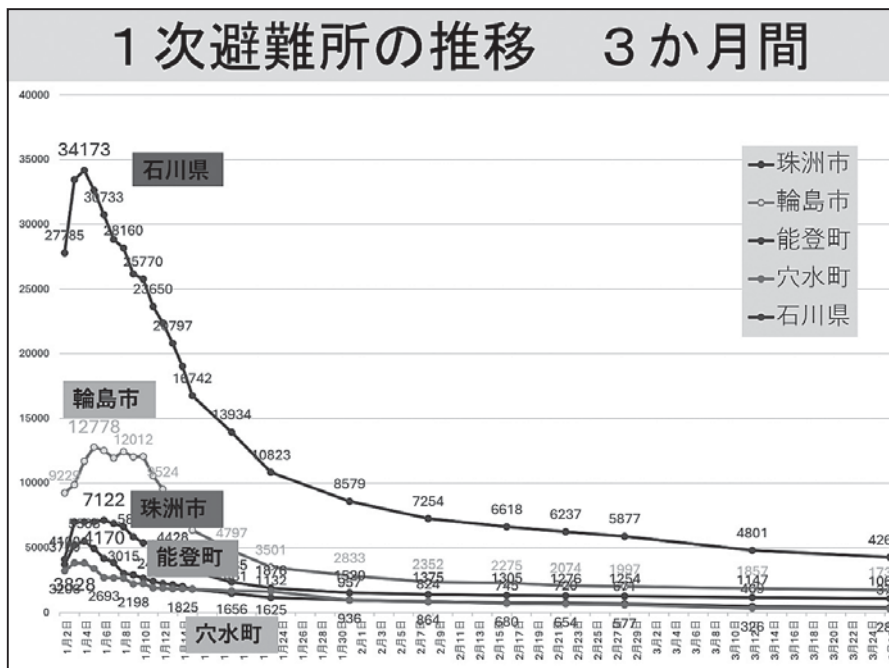
4 1.5次避難所について

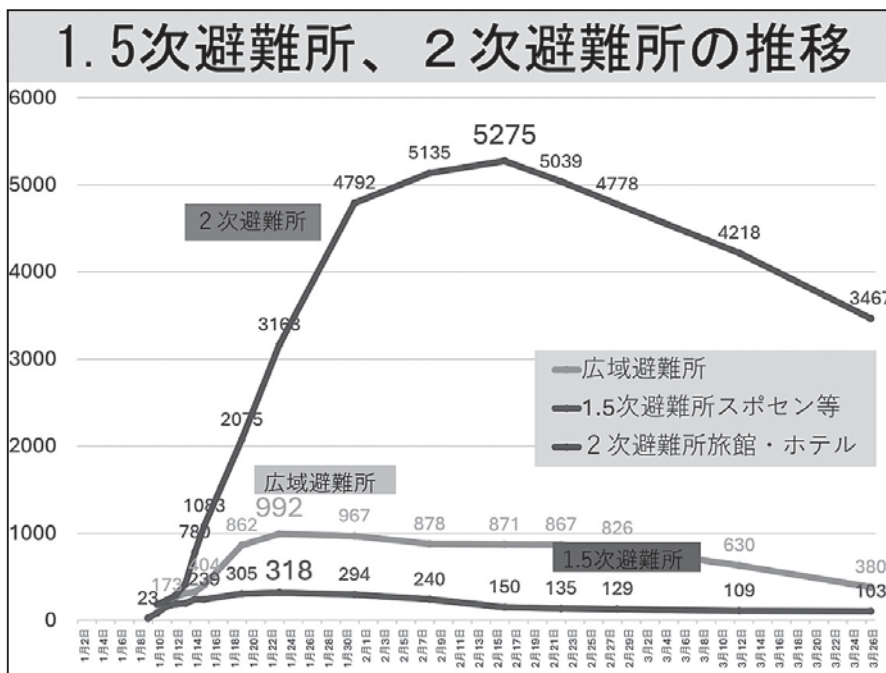
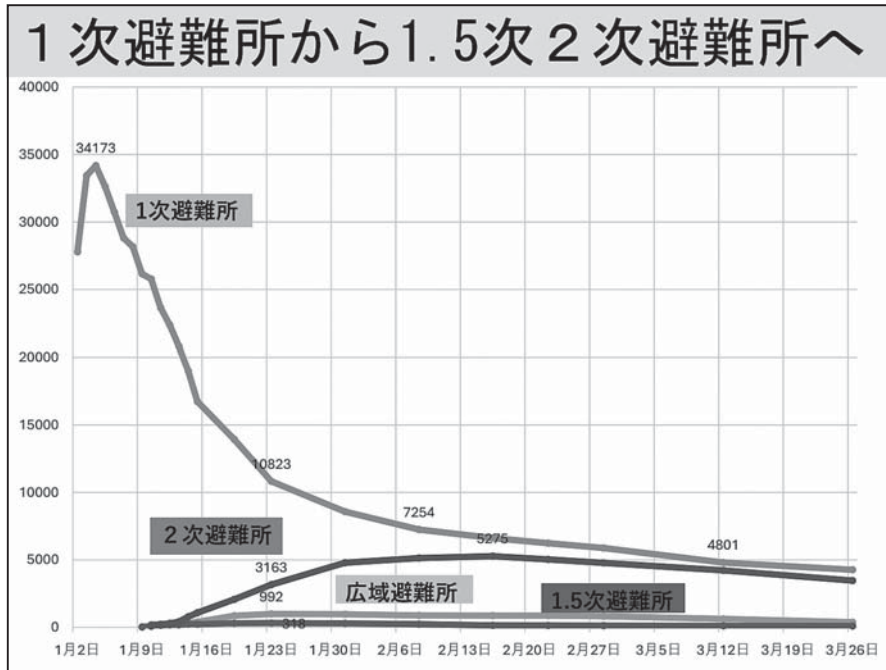
(1) 1次避難所の避難者数の推移

石川県全体でみると1月中旬には1次避難所から避難者が減り始めて、下旬にはピーク時の半分以下になってきました。

(2) 1次避難所から1.5次避難所 2次避難所へ

1次避難所の避難者が徐々に減り始めましたが、自宅へ戻る人以外は、1.5次避難





所や2次避難所、広域避難所へ避難していききました。

(3) 1.5次避難所、2次避難所の推移

直接2次避難所に向う避難者と1.5次避難所である「いしかわ総合スポーツセンター」等を経由して2次避難所や高齢者施設等に向う避難者がいました。2次避難所である「旅館・ホテル」に最大5,275人も避難していました。

(4) 1.5次避難所（いしかわ総合スポーツセンター）の保険処方箋枚数

1.5次避難者のうち処方薬を常用していた方がかなりおられたので、持参薬の管理、処方箋の発行、調剤の手配に薬剤師の関与が必要でした。1.5次避難所では1日平均8.8枚、1日最大31枚の保険処方箋が発行され、合計492枚に及びました。

また、いしかわ総合スポーツセンターで

1. 5次避難所の保険処方箋枚数

期間	週の合計	1日の最小枚数	1日の最大枚数	1日の平均枚数
1月21日(日) ～1月27日(土)	90	8	20	12.9
1月28日(日) ～2月3日(土)	69	6	15	9.9
2月4日(日) ～2月10日(土)	70	0	24	11.3
2月11日(日) ～2月17日(土)	70	0	18	10.0
2月18日(日) ～2月24日(土)	58	0	16	8.3
2月25日(日) ～3月2日(土)	59	0	31	8.4
3月3日(日) ～3月9日(土)	33	0	7	4.7
3月10日(日) ～3月16日(土)	34	0	16	4.9
合計	492	0	31	8.8

2024年2月10日時点

いしかわ総合スポーツセンター メインアリーナの業務進行表

<活動開始時>

- ・午前9時からの全体ミーティングに1名が参加する。(2階第2会議室)
ミーティング内容を当日のメンバーに共有し、必要に応じてホワイトボードやオープンチャット等に記載する。
- ・救護室(診療所)の流し台付近に保管している石川県薬剤師会と書かれた「半透明のBOX」及び「OTC医薬品等が入ったBOX」を薬剤師ブースに移動させる。
- ・ホワイトボード等に記載されている申し送り事項を確認する。
- ・「1.5次避難所 スポセン参加者記録」に各自署名をする。



<活動終了時>

- ・17時になったら、**当日の処方箋受付枚数を記載する。**
- ・担当者は、活動終了時、シフト単位ごとに**活動報告を提出する▶▶**
- ・個人情報を含むものや機器等は半透明BOXにいれて、救護室(診療所)の流し台付近に片づける。

【処方箋を応需した場合】

- ① 診療所から処方箋を受け取る。
 - ・氏名・性別・生年月日、処方医の情報等、処方箋監査をする。
 - ・処方箋の右上に「残薬あり/なし」「退所日」「電話番号」「メイン/サブ/マルチ(メインの場合は区画)」が記載されていることを確認する。
- ☆基本的にDo処方のみ。処方歴が確認できない薬剤は出さない。別途医療機関受診が必要。
- ② 処方箋を処方箋応需対応薬局(リスト参照)にFAX送信する。
 - ・サブ・マルチアリーナの場合は「サブ・マルチアリーナの調剤方法について」の説明用紙も一緒に送信する。
 - ・メインの場合は「メインアリーナの調剤方法について」の説明用紙も一緒に送信する。
 - ・FAX送信後、電話にて配達できる日時を確認する。
- ③ 処方箋応需リストに患者名・薬局名・配達日時・配達場所等を記載する。
- ④ 処方箋のコピーをとり、「コピー」である旨を記載する。処方箋コピー以外(手帳、薬情、オンライン資格確認など)はカルテに保管する。(処方箋コピーは発行後、県職員がカルテにファイリングされます。抜けがないか確認する)

は、メインアリーナ、サブアリーナ、マルチの3か所に避難者を健康状態によって分けて対応していました。メインアリーナでは現場の薬剤師が前頁の業務進行表を作成して、支援薬剤師が活動しました。

5 講演での質問等に対する回答について

(1) 石川県薬剤師会と日本薬剤師会との調整について

日本薬剤師会が災害対策本部を現地の拠点（当初は金沢、その後は金沢と柴垣）に設置したのは、能登半島地震が初めてでした。石川県薬剤師会の対策本部が日本薬剤師会の対策本部に対してお願いしたのは、モバイルファーマシーの手配と配置、都道府県薬剤師会チームの日程と活動場所の調整の2点でした。金沢の同じ事務所のフロアに二つの本部を同居させたのは、情報の共有とお互いの意思の疎通にとって非常に有効でした。

(2) 石川県薬剤師会の県庁との関係について

石川県災害対策本部（本部長：知事）の下に「石川県保健医療福祉調整本部（本部長：健康福祉部長）」が設置されました。その中の一員としてDMATロジチームが設けられ、その傘下にDMAT調整本部があり、そこに大学病院や県薬の薬剤師が常時詰めて、災害薬事コーディネーターの役割を担い、県薬と調整しました。

(3) 石川県薬剤師会と県庁薬事衛生課との関係について

日常から石川県薬剤師会のカウンターパートナーが薬事衛生課であり、災害時にもその関係は変わりませんでした。薬事衛生課からは、避難所へ向かう薬剤師チームにOTC医薬品を持たせて配布してほしい

との要請がありました。県薬本部ではすぐにOTC医薬品を発注して、被災地の現地本部に配布しました。また、モバイルファーマシーの派遣要請も薬事衛生課から入り、日本薬剤師会に連絡しました。また、薬事衛生課に現地宿泊所を依頼したところ、水道が来ている北限の羽咋市柴垣に宿泊場所を確保できました。日薬及び県薬から派遣された薬剤師の活動は、すべて県薬本部で取りまとめて薬事衛生課に報告しました。その報告は、毎日開催された保健医療福祉調整本部会議の資料となり、全国からの薬剤師の支援内容等を医療関係者等に共有することができました。

(4) 石川県薬剤師会と厚生労働省との関係について

厚生労働省が手配したOTC医薬品については、薬事衛生課から連絡があり、厚生労働省の職員も野々市の倉庫にきて県薬のメンバー等と一緒に、大量のOTC医薬品等について配送の準備をしました。また、柴垣本部から被災地への配送についても出発の立ち会いに来て、国、県、県薬が協働して取り組みました。

(5) 災害薬事コーディネーターについて

石川県庁は当時、災害薬事コーディネーターの委嘱を行っていませんでした。県薬本部や市町の災害時の医療対策本部においても災害薬事コーディネーターが必要でしたが、長期にわたって毎日出務できる薬剤師は、ほとんどいませんでした。そこで出務してきた薬剤師の中から、課題調整に当たる担当者や現地でのリーダーが災害薬事コーディネーターの役割を交代で果たしていました。また、現地に入った都道府県チームからは、現地情勢にくわしい地元のコーディネーターの派遣をしてほしいとの

要請がありましたが、被災地の薬剤師やそれをサポートする本部には人的な余裕がないことから、市町の災害対策本部会議には都道府県チームの代表の方が出席していただきたいとお願いしました。

なお、令和6年12月1日に石川県庁が災害薬事コーディネーター養成講習会を開催したので、石川県薬剤師会から21人が参加しました。今後、養成講習会を修了した薬剤師に対して石川県知事から「石川県災害薬事コーディネーター」が委嘱される予定です。

(6) OTC医薬品の配布について

県薬本部ではOTC医薬品の配布に当たっては、避難所への配達と受領、使用方法、避難所での管理者の設定等について、県薬本部の担当薬剤師が下記のマニュアルを策定しました。また、OTC医薬品を入れた箱には、薬剤師等が不在の場合に備えておくすり相談窓口の電話番号を記載しておきました。各地の避難所では、大変喜ばれ、有効に活用されたところが多くありました。しかし、避難所によっては、開封されずに使用されなかったところ、ずさんな管理があったところもあり、薬剤師チームによっては回収してきた報告もみられました。災害時におけるOTC医薬品については、配布のスピードが大事ですが、配布後のフォローアップも大事だと実感しています。薬剤師によるOTC医薬品の服薬指導のかかわり方の程度に関しては、いろいろな意見があり、薬剤師の中でも一言で言うと配布派と回収派にいたることが分かりました。OTC医薬品については時間軸と空間軸でその必要性が異なっていました。また、有効かつ安全に使用してもらうためには、マニュアルの存在とその遵守が欠かせ

ませんでした。

(7) モバイルファーマシーの交代の是非について

被災地の5か所（珠洲、輪島、門前、宇出津、穴水）にモバイルファーマシーを常時配置していました。13台のモバイルファーマシーで延べ18台が交代していましたが、5台で充分であり、交代の必要がないのではという意見がありました。しかし、モバイルファーマシーの被災地での活動については、その管理の面から所有都道府県等の関係者の常駐が必要であることと、一つの都道府県等が継続して交代要員を派遣することが難しいことから、丸ごとの交代が必要であったと説明しました。また、モバイルファーマシーを持っている都道府県が今後備えて経験を積んでおくためにも交代が必要であることを説明しました。

お薬箱(市販薬) 2 / 2

- ・各種一般用医薬品（薬局やドラッグストア等で処方箋なしで買えるお薬）を詰め合わせたお薬箱です。便秘気味、頭痛がする、といった、医師の診療が必要というほどでもない、軽い体調不良等を感じられた際に、必要に応じてお使いください（医師から処方された医薬品を服用中の方は、使用の際は医師や薬剤師、登録販売者にご相談ください）。
- ・このお薬箱の医薬品の管理（保管環境の維持や、使用者への配布、在庫の管理等）は、薬剤師や登録販売者の方、もしくはお薬箱を設置した薬剤師や登録販売者から依頼された方が行ってください。
- ・使用者へのお薬の受渡は、可能な限り薬剤師や登録販売者の方が行ってください。
- ・お薬について相談したいことがあれば、避難所を巡回している薬剤師、近隣の薬局、ドラッグストアの薬剤師、登録販売者、医師等の医療関係者にご相談ください。周囲に薬剤師や登録販売者がいない場合は、下記の連絡先にご相談ください。

お薬相談窓口

一般社団法人

日本チェーンドラッグストア協会石川県支部

076- () (9時~19時 () 本店)

076- () (9時~22時 () 店)

作成日時：令和6年01月14日0:00

避難所におけるOTC医薬品提供マニュアル

業務の概略
 OTC医薬品・衛生用品のセット（OTCお薬箱）をOTC医薬品供給拠点で受け取り後、避難所等へ設置し、OTC医薬品が必要な被災者に届けるためのマニュアルです。本マニュアルに並び、

1. 供給チームの登録
2. OTC医薬品の受け取り
3. 避難所へのOTC医薬品の設置（現場管理者の設定）
4. 被災者への供給
5. OTC医薬品供給責任者への報告

の5ステップの実施をお願いします。

OTCお薬箱を供給する際は
 OTCお薬箱の設置状況が後でできるようにご協力をお願いします。

- OTC医薬品供給施設への事前登録
 <OTC医薬品供給施設>
 薬剤師会からの災害対策チームに協力いただいています。施設からOTCお薬箱を持ち出す際は
 ・箱番号
 ・提供チーム責任者氏名
 ・提供チーム所属
 ・提供チーム責任者連絡先（電話番号）
 を施設の薬剤師会チームに報告し、記録してもらおう。
- 避難所にOTCお薬箱を供給したら
 箱についてQRコードから、OTCお薬箱を設置した避難所を登録する。
- OTCお薬箱の供給が終了したら
 フォーマットに従い、各避難所で設定した「現場管理者」の情報を報告してください。
 報告先：

1. 事前準備
 (1) 持ち物の準備
 現場で使用する場合、「現場管理者向けマニュアル」「OTC医薬品・衛生用品管理簿」、「利用者記録簿」を避難所に印刷してください。
 また、貼り出しに必要なテープ類、段ボール封刺に必要なカッター、マジックなど文房具類は現場にない可能性も考えられますので、作業に必要な物資を持参してください。

作成日時：令和6年01月14日0:00

(2) 現地情報交換用ラインへの登録
 一般社団法人日本ドラッグチェーン会からのボランティアの皆様は、当日ボランティアに向かわれる前に、こちらのQRコードからライングループに入ってください。



こちらのグループラインでは、「チームの進行状況」を共有いただき、OTC医薬品提供責任者に状況を適宜つたえてください。また「各避難所での対応や所感」「避難所へのルート状況」等、メモ程度で構いませんので、ご共有いただけますと、非常に参考になりますのでご協力いただけますと幸いです。

作成日時：令和6年01月14日0:00

2. OTC医薬品の受け取り


<OTC医薬品供給拠点>

施設名称	国立青少年交流の森
住所	〒925-0001 石川県羽咋市栄町1-4-5-6
電話番号	070-3228-7406

(1) 受け取り前の持ち出し記録
 OTC医薬品供給拠点では薬剤師会に協力いただいています。施設からOTCお薬箱を持ち出す際は以下の内容を施設の薬剤師会チームに報告し、記録してもらおう。
 ・箱番号（外観の写真を参照）
 ・提供チーム責任者氏名
 ・提供チーム所属
 ・提供チーム責任者連絡先（電話番号）

(2) OTC医薬品セットの積み込み
 OTC医薬品がセットされた段ボール箱を避難所に向かう車に積み込んでください。
 ※1 避難所あたり、2箱で1セットであることに注意してください。
 ※2 事前に調整済みの段ボールを車内に積み込む避難所の数や車の積載容量と相談しながら、その日に回る避難所数を踏まえて、積み込んでください。

(OTC医薬品セットの外観)
 ・「お薬箱（市販薬）A（またはB）」と記載があります。「A」と「B」で1セットになります。番号→A、番号→Bと記載したシールが貼ってありますので、同じ番号であることを確認してください。
 例：20-A、20-B
 ・サイズは140サイズの段ボール箱(40cmx60cmx38cm)になります。



(お薬箱の中身)

作成日時：令和6年01月14日0:00

4. 被災者への供給

(1) 避難所等で薬剤師、登録販売者が供給する場合
 薬剤師、登録販売者が、平時のOTC医薬品の販売と同様に、被災者の体調を確認するなどし、OTC医薬品を供給する。

(2) 現場管理者が供給する場合
 ① 避難所等施設の利用者は、適宜段ボールの貼り紙から「お薬相談窓口」に電話する。
 ② 管理者を通じて利用者に医薬品を供給する。
 ※適宜「OTC医薬品・衛生用品管理簿」、「利用者記録簿」を、在庫管理や複数回利用で症状が改善していない被災者情報をOMATに伝達し、巡回診療に繋げるために活用する。

5. OTC医薬品提供責任者・厚生労働省への報告

別紙報告書に並び、可能であれば巡回当日中に「報告先」にもれなく報告する。

(報告先)
 OTC医薬品提供責任者 高松 龍貴 ryuki.takamatsu@kusuri-aoki.com

(報告事項)
 (1) 報告者氏名
 (2) 連絡先（以降は巡回避難所ごとに記入）
 (3) OTC現場管理者情報
 ① 設置した箱の番号
 ② 避難所名
 ③ OTC現場管理者氏名
 ④ OTC現場管理者連絡先
 ⑤ OTC現場管理者資格※1
 ⑥ 対応方針※2
 ※1 管理者区分（薬剤師、登録販売者、保健師または公務員）を記入。
 ※2 ②が薬剤師・登録販売者または保健師・公務員の区別により、現場での対応方針を説明。フォーマットは特に指定しませんので、避難所の対応が具体的に分かるように記入。

(8) 1.5次避難所金沢市額谷体育館について
 1.5次避難所については全国でも初めて

のことであり、試行錯誤が続きました。スポセンについては前回の県薬レポートにありましたので、今回は、額谷1.5次避難所

で支援活動に当たった先生が作成されたマニュアルを示します。全体フローチャートについて、Ⅰ 患者訪問、Ⅱ 環境測定、Ⅲ OTC相談、Ⅳ 閉め作業を下記のとおり

実施しました。また、額谷1.5次避難所における災害処方箋スキームに基づいて、災害処方箋の調剤及び配達を行い、避難者の支援活動を行いました。

額谷体育館全体フローチャート

8:30 集合（プリンターはブースに置きっぱなし）
 事務室へ訪問（保健師さんの居る部屋）のカギを取りに行く。ホワイトボードにかかっています。
 PC、個人情報事務所テーブルに取りに行く。
 訪所からOTCセット（1セット分 AとBを1箱ずつ）取りに行く。
 8:50 全体ミーティング。事務室へ集合薬剤師代表者（金沢市薬から1人+福井県・富山県から交互に1人）が参加する。
 全体ミーティング後、保健師と訪所で医療ミーティング
 保健師とのミーティング終了後、当日訪問予定の患者ファイルを預かる。

Ⅰ 患者訪問

- ① 保健師から預かったファイルの内容をチェックし、患者さんの所へ訪問。
 訪問の際には特に残薬の有無、受診予定を確認し、薬を切らさないよう保健師と連携する。
 被災者健康相談表のひな形（PC 額谷避難所フォルダの患者別カルテより未記入のものを印刷。ストックを作っておくとよい）を持参し必要事項を埋められる範囲で記録する。
- ② 保健師から預かったファイルに訪問記録を記載する箇所があるので、実施した指導内容を記載する。担当者の所に薬剤師が訪問したことが分かるよう◎○と記載しておく。
- ③ PCの患者別カルテのエクセルに聞き取り内容を入力する。エクセルは入居場所毎、患者はタブ毎で管理。
- ④ 訪問時不在の際には、不在表を部屋に置いていく。不在だった方はPC不在者リストのエクセルに記入する。
- ⑤ 不在者リストを確認し、前日訪問できなかった方の訪問を行う。
- ⑥ 訪問が実施できた患者さんのファイルとできなかった患者さんのファイルは分けて保管し、訪問ができた患者さんのファイルが分かるように分けて保健師に返却する。
- ⑦ 保健師より預かるファイルは16:00には返却する。看護師は16:30までおられるので、情報共有が必要な場合は、訪所を訪問する。
 （上記手順書、保健師さん確認済み）

Ⅱ 環境測定

- ① 1日7回 8:30 9:50 10:10 11:50 12:10 13:50 14:10に二酸化炭素濃度、気温、湿度の測定を行う。
 換気時間 10:00 12:00 14:00
 測定箇所 A・K・O・E・H・ロビー・看護室・ペット室
 PCに記録する。
- ② 測定後、受付事務員の本（もと）さんに状況報告を行う。

記入表のひな形エクセルファイルを印刷して記入する。

Ⅲ OTC相談

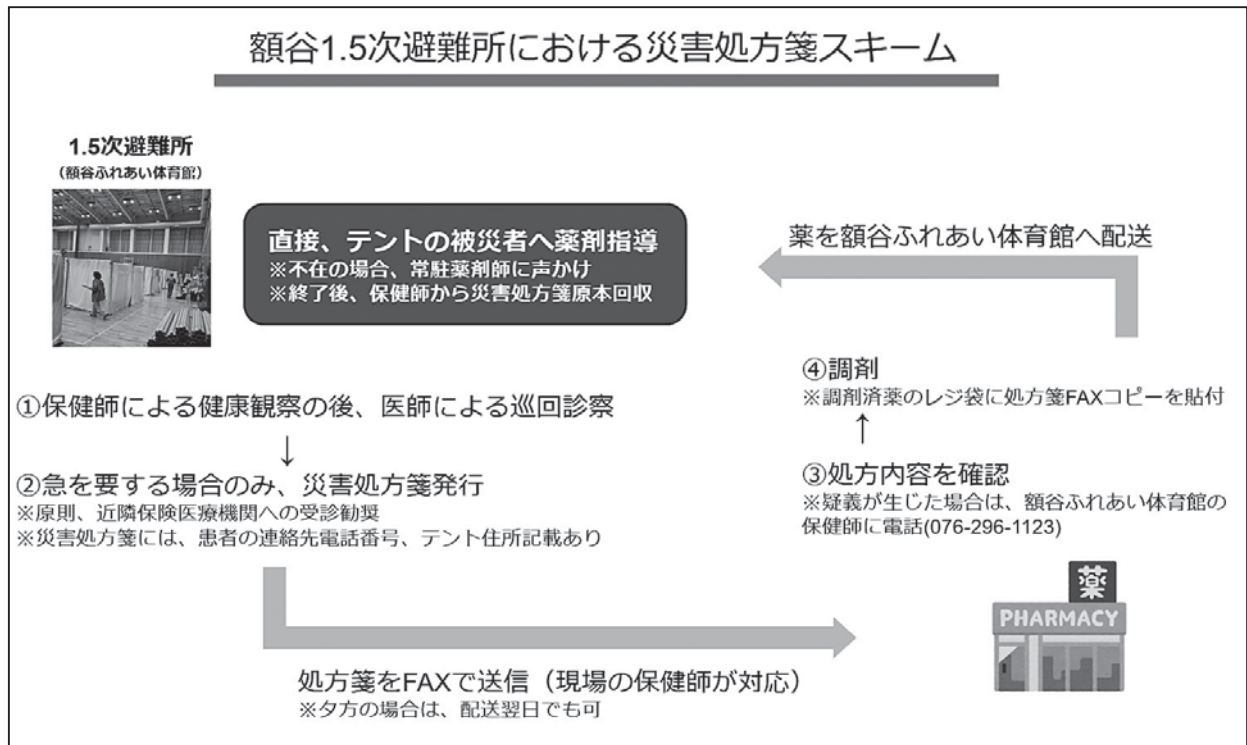
- ① 保健師及び医師から OTCが必要な患者さんに対して厚生労働省から支給された OTC医薬品を選定、お渡しする。
- ② 聞き取り内容を患者別のエクセルファイルに入力し、保健師に報告する。

※現在は保健師が受け口となって、薬剤師の所へ患者さんを紹介してもらう形だが、今後薬剤師が受け口になる可能性もあり。

Ⅳ 閉め作業（17:00 閉め）

- ① OTCセット（1セット分AとBの2箱）を訪所へ運ぶ。
 夜間 OTCが必要になった場合は、本さん（事務員）が必要に応じて患者さんにお渡し。問題なければ、薬剤師が避難所に来るまで待ってもらう。
- ② PC及び、個人情報ゴミは事務所テーブルへ運ぶ。
- ③ グラブルフォームの【石川県薬】令和6年度登半島地震災害支援活動報告（毎日）を福井県と富山県で交互に報告する。報告は8:50ミーティングに参加した人が行う。
 走行距離：福井県薬100km、富山県薬75kmと併記する。
- ④ 当日の支援内容を各県毎ラインで報告する。
- ⑤ 忘れ物に気を付けて解散。お疲れさまでした！

2024/1/22 恒田（作成）
 2024/1/23 水上（編集）



額谷 1.5 次避難所の災害処方箋調剤・配達フロー

避難所名称：額谷ふれあい体育館
住所：金沢市額谷町ヌ16
避難所連絡先：076-296-1123
常駐薬剤師：体育館入って左奥にブースあり

災害処方箋：調剤～配達の流れ

①災害処方箋発行後、体育館FAXより保健師が配達可能薬局へ送信。
備考欄に患者連絡先、テント番号など必要な情報を記載しておきます。

②処方箋応需後
必ずオンライン資格確認を実施し、処方内容に相違がない確認を行ってから調剤をお願いします。

③調剤
方法に取り決めなし（一酸化指示などに従ってください）。
調剤済薬をまとめたレジ袋に処方箋FAXのコピーを貼り付けてください。
避難所での内容確認に必要です。

④配達
原則、当日配達ですが、処方タイミングによっては翌日配達もやむを得ない
と考えています。その場合や、医薬品手配の関係などで配達が遅れる場合は
必ず保健師に連絡をお願いします。

避難所到着後、テントの場所を確認してから、患者さんに薬をお渡ししてくだ
さい。薬終了後は、保健師ブースにお寄りいただき、薬歴指導の完了報
告と、災害処方箋原本の回収をお願いします。

※午後になると、保健師ブースが施設されていることもあるため、常駐薬
剤師ブースにて、完了報告をお願いします。その場合、災害処方箋の
原本の回収は後日となります。

注意点

・冷所品に関して冷蔵庫スペースが狭く、個別管理を行うのが難しい為、可
能な限り常温保管可能な薬で対応をお願いします。
例：アセトアミノフェン、ドンペリドン坐剤→錠剤、DS等。
インスリン製剤などはこれに限りません。

・一部負担金については、災害処方箋であれば、負担金は発生しないと考
えます。

・容器代など保険外で発生する金額については、各薬局の判断に任せま
すが、必ず患者様にその旨説明をお願いします。

・体育館内は土足厳禁です。内履きをご持参ください。

・常駐薬剤師の活動時間は9：00～17：00までです。

2次避難所の被災者に対する災害処方箋運用

金沢市営の2次避難所は以下の5箇所です。
老人福祉センター万寿苑 大桑
老人福祉センター松寿荘 金石
老人福祉センター鶴方園 額谷
卯辰山公園健康交流センター千寿閣 東長江
キコ山ふれあい研修センター キコ山

2次避難所の被災者に対して災害処方箋が発行されるケースも想定されます。
その際も、額谷ふれあい体育館からFAXが送信されます。調剤した薬剤は、
額谷ふれあい体育館の保健師に渡してください。保健師が2次避難所に配達し
ます。

2024年1月23日現在

避難所支援を通して考える災害支援の一考察

奥羽大学薬学部 医療薬学分野 教授 杉田尚寛

1. はじめに

2024年1月1日の石川県能登半島地震
では、津波、火災、土砂崩れ、道路遮断な
どが多岐にわたり支援物資の輸送や支援活
動が迅速に進まなかった。さらに、震災の
影響は、広域な水道管などの破裂、破損に
より能登半島全体が断水状態に陥った。広
域で断水状況が続くことは、被災地の方々
の生活に障害を及ぼすだけでなく健康面、
衛生面、栄養面に大きな影響を与えた。筆
者が勤務する薬局では、断水問題が解消さ
れたのは震災から2ヶ月後であった。今日
でも、能登半島の一部では断水状態が続き
未だに復旧していない地域がある。一方、
災害のニーズが急性期（災害発生から3日
以内）、亜急性期（災害発生から4日～3
週間）、慢性期（災害発生から4週間～）
と時間経過に伴い支援される人員、支援体

制などは減るが、避難所の方々は被災地の
復旧作業が進まない状況で長期の避難所
での生活が続いていた。急性期から亜急性期
の避難所の状況は、テレビや新聞などで多
く発信されたが、3ヶ月、4ヶ月と時間経
過に伴い被災地の現状生活などに関する情
報発信は激減した。しかし、長期の避難所
で生活をされている方は、健康面、栄養面
ならびに環境・公衆衛生等の幾つかの課題
がみられ、今回、被災地の薬剤師が避難所
への支援をとおして薬剤師が支援できる取
り組み、体験、今後の課題を提言する。

2. 災害時の薬剤師の役割

一般的に、災害時の薬剤師の役割は、被
災者に対する医薬品の供給、医療救護所
での支援活動、不足が予測される医薬品の補
給の手配などであるが災害ニーズによって

変わることもある。特に、長期化する避難所や被災地の復興などにおいて地域薬剤師の役割はあまり知られていない。筆者が活動した被災地域は、津波・火災などの被害は無く、主に建物の倒壊、土砂崩れ、道路破損、水道管破裂等であった。なお、当時を振り返り筆者の地域は、断水世帯の割合が能登半島約5万世帯の半数を占め、仮設住宅の対応も進まない状態であった。今回、被災地の薬剤師として、長期化する避難所生活での避難所の方、運営者、行政、職種団体等の関わりをとおして避難所の環境・公衆衛生、栄養等の幾つかの課題がみられた。このような課題に対して、薬剤師の視点で多職種、行政、運営者らと協議し提言すべきこと、避難所の方々の健康に寄与できることを述べる。なお、避難所支援地域は、七尾市で開設された避難所であり、支援を行った期間は2024年1月15日から9月5日である。

3. 避難所支援の取り組み

多くの避難所は、温度管理が不十分な体育館などで避難されているため小児や高齢者らの健康面に注意が必要となる。筆者は、適切な水分摂取への取り組みとして、脱水症状の有無を確認するツールの一つとして、経口補水液（OS-1、(株)大塚製薬工場）を摂取することで体調による味覚変化に着目した。OS-1の塩分濃度は、およそ0.3%で、水分が十分に補給されている状態でOS-1を飲むと「塩味」を感じ、脱水症状の時に「味が感じない・甘味」を感じる。特にDVT（Deep Vein Thrombosis）の方（図1）には、OS-1を5mLほど試飲して頂き「甘味」を感じた方には、ペットボトル水にレモン果汁、りんご酢、ブルーベリー酢などを加え味の変化を付けること

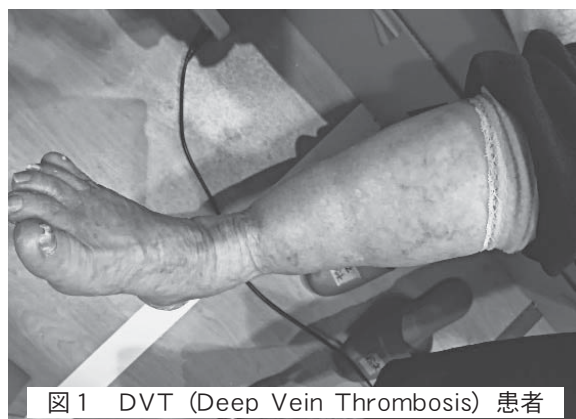


図1 DVT (Deep Vein Thrombosis) 患者



図2 飲料水にりんご酢、ブルーベリー酢、レモン液を加える

で飲水を薦めた（図2）。このような取り組みは、小児からお年寄まで避難所の方々に提供し、味の付いた水は、飲みやすく以前より飲水量が増えたと言われる方もみられた。

4. 炭水化物中心の食事

長期化する避難所生活では、健康面（血圧上昇、浮腫、筋力低下など）、栄養面（栄養過多、食欲低下など）に不安を持たれる方も多い。要因の一つに、運営者らは、避難所に運ばれる支援物資で食事管理を考え、小児から高齢者、基礎疾患などの留意点は考慮されずカロリーを優先に提供された。3月末まで避難所の食事は、運営側の采配で行われていたため、栄養に精通した医療従事者は配置されていない。そのため、食事は炭水化物中心、塩分過多の食事が多く、食物繊維や微量元素等の不足がみられた。筆者は、定期的に運営の方に過多になる栄養素と不足している栄養素を説

明すると同時に、食事工夫を協議し時には全国のNST管理栄養士にSNS（Social Networking Service）を活用して食事の相談を行った。また、避難所の方々からも定期的に食事の聞き取りを行い、食事の不安を和らげる取り組みも行った。

5. 薬物と食物

避難所には、高血圧症、糖尿病などの基礎疾患治療を継続されている方が多い。お薬相談の内訳も血圧問題をはじめ睡眠、排尿、排便から子供の成長などの相談を受けた。これらの相談において、避難所生活で注意する生活習慣、食生活、水分摂取などを説明し指導を行った。例えば、避難所の方の健康のために野菜ジュースや柑橘類を多く含むゼリーなどが安易に提供されている。避難所の食事提供や支援物資のチェックを行った際に、薬と食物の相互作用の視点から腎機能低下の方に塩分量、カリウム量をチェックすることが必要であると感じ、運営者らに、支援物資の野菜ジュース成分表示のカリウム量と注意すべき疾患などを説明した。さらに、漫然と提供されていたグレープフルーツを含むゼリーも注意すべき食品であった。この食品の容器に「降圧剤」を服用されている方は控える記載（図3）があり、この表示の意味を運営者らに説明した。小児から高齢者、基礎疾患などを留意した「薬と食物の相互作用」に薬剤師や栄養士らが介入することが必要

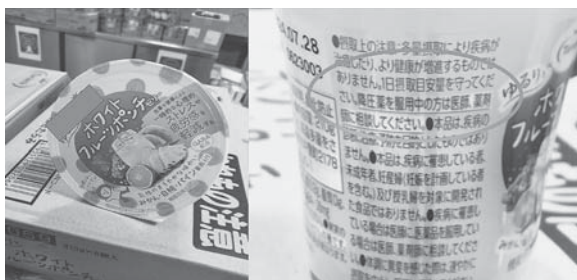


図3 薬と食事の相互作用

不可欠である。

6. 環境衛生

避難所生活が長期化すると、環境衛生の問題（空調や害虫対策など）が生じる。避難された季節は、寒さの厳しい冬であったが、長期化に伴い気温上昇から生活空間の環境衛生に配慮が求められた。行政や運営者らは、避難所の多くが体育館などの天井の高い空間であり、空間の大きさに対して何が問題であるかを感じていないと考えられる。大きな空間では、空調管理が不十分であり、定期的な避難所全体の清掃も不十分なため、生け花の花粉やほこりなどが舞う。このような空間では、食事や睡眠をされている方は、咳がでる、喉の痛み、鼻水などの症状を訴える方が多い。今後の課題の一つとして、体育館などの天井が高い施設では、空間の空気（換気及び保温、CO₂、気流・粉塵）、清潔（害虫・ダニ等）などの検査を行い、改善する対策をどのように行うか検討が必要であると考え。さらに、環境衛生に問題がある場合は、食事をする場所も検討する必要があると考える。

7. 災害時の教訓は活かされているか（世界の考え方）

筆者は、日本が参考にすべき避難所のかたち（世界と比べて）があると考え。これまで、東日本大震災や熊本地震、西日本豪雨などの災害では一時的な避難所として公民館や学校の体育館などの公共施設が使用されてきた。日本では、災害が発生すると、一般的に急性期の医療が重視され避難所の環境は後回しになる。しかし、先進国ではこうした対応はあり得ない。避難所の概念は、日本と世界では大きく異なり、世界では、「基本的には、すべて政府が支援」

である。現状の日本の避難所は、「元気が出る避難所」とは言えず「耐える避難所」である。筆者も災害体験から日本は世界から学ばなくてはならない点が多いと考える。

8. 今後の社会的な課題

これまで多くの地震災害や自然災害で、避難所生活が多く報告されてきた。果たして、これまでの教訓が活かされているのか、疑問である。今回、2024年1月1日の石川県能登半島地震を経験した薬剤師として、これまでの震災経験を活かす教訓が多く発信されてきたが、地域一体で行う医療連携、職種団体の支援体制、行政と避難所運営の連携、健康面・栄養面の支援など

は活かされていないと感じた。

9. 最後に

災害のフェーズに応じた薬剤師の活動報告では、筆者が知る範囲では、急性期から亜急性期が多く慢性期の活動報告はあまりみられない。今までの災害時の教訓として、急性期から亜急性期までの議論は行われるが、慢性期以上の教訓とは何かを議論された報告はないと思われる。改めて、地域貢献を論ずる上で、薬剤師は、薬物療法だけでなく、環境・公衆衛生、食物アレルギー、食物の相互作用、栄養療法などに対して適切な提言をできる職種である。

明かり消えた港町を照らす「灯火」～安心を届け続けるために～

にじいろ薬局 岩崎 富和

令和6年元日の能登半島地震の影響で、多くの住民が避難を余儀なくされ、人通りが途絶えた輪島市の港町。そんな中、「にじいろ薬局&ストア」の明かりが静かに町を照らし続けています。震災から10カ月が経過し、来局者は震災前の半分に減少、経営は厳しい状況ですが、「誰かが営業を続けなければ町の再生はあり得ない」という信念のもと、私は薬局を開け続けています。

私は、この町で育ち、「いつかは地元で薬局を」という夢を抱いていました。そして2012年、「にじいろ薬局&ストア」を開業し、地元の顔なじみの方々が気軽に立ち寄れる場所として、処方箋の受付だけでなく食品や雑貨も扱う「地域のコンビニ」を目指してきました。

震災発生時、私は妻の実家である北海道に滞在しており、津波の被害が心配で、現

地のライブカメラを通じて輪島港近くの実家と薬局の状況を見守っていました。停電で真っ暗になった夜の町並みに、朝市の火事の炎だけが揺らいでいた光景には、胸が締め付けられる思いでした。

なんとか3日かけて輪島に戻りましたが、建物そのものに大きな被害はなかったものの、内部の棚が倒れ、薬や食品などが床一面に散乱して足の踏み場もない状況でした。原先生、乙田先生、筒井先生をはじめ



にじいろ薬局



震災直後の調剤室

め石川県薬剤師会や全国の薬剤師会から支援に駆けつけてくださった皆様のご助言や温かいお言葉などの励ましを受けながら復旧に全力で取り組みました。

しかし、停電と断水の影響が長引き、営業を再開できたのはようやく2月半ばになってからでした。

処方箋の応需は通常の6分の1に減少し、その後も震災前の半分に届くことはありません。近隣の診療所は閉院したままで、若い世代の都市部への移住や、高齢者の施設入居も懸念されます。それでも、町にとっての「灯り」を絶やすことなく、薬局を開け続けることに決めました。

徐々にインフラが整備され、町は復旧、復興への歩みを進め始め、薬局の目の前にある輪島港周辺では仮設住宅が建設されるなど少しずつ日常生活が戻りつつありました。しかし、9月の能登半島豪雨が再び奥能登地区に甚大な被害をもたらし、私の心も一度は折れそうになりましたが、「地元が日常を取り戻し、人々が帰る場所を失わないように」という思いで、「にじいろ薬



被害に遭った朝市



仮設住宅

局」の明かりを絶やさないと決意しました。

「にじいろ薬局」は、地域の希望を照らし続ける存在でありたいと願っています。震災後や豪雨の被害を乗り越え再建への道を一步ずつ進む能登の人たちの姿を知っていただければ幸いです。

能登には「能登はやさしや土までも」ということわざがあります。能登の人々は純朴で温かく、助け合いながら暮らし、祭りや伝統を大切にしてきた歴史が表れています。元日に発生した震災や9月の豪雨による甚大な被害で心が折れそうになることがあっても、能登の人々は「ふるさとは決してなくなるしない」「諦めない」という強い思いを胸に、「一步、前へ」と歩み続けています。復旧や復興には時間がかかるかもしれませんが、必ず復活の 때가訪れると信じています。そして、変わりゆく奥能登の風景を感じにぜひ訪れてください。能登には力強い復興の歩みと、何よりも温かい人々の心があります。



薬局の前にて

能登半島震災時の学校薬剤師活動と環境衛生

笠原健招堂薬局 笠原友子

能登半島西岸に位置する志賀町富来で開局薬剤師をしています。生涯で一番長い1分間を過ごした元日の能登半島震災から、早や1年が経ちます。1年が一瞬のようでもあり、また走馬灯のように、多くの出来事が次から次へと切れ目なく湧いて続く、とてつもなく長く感じる1年でもありました。発災直後に県薬から確認に来店下さった時「笠原さん無事！」と顔も見ないまま次に向かわれ、「この地は我々に任されたのだ。」と腹をくくりました。薬剤師として、予防医学に携わる者として、今まで培ったものを住民のために使おうと心に決めて、これは全部皆さんにご披露しない方がいいと周囲に言われるくらい動きましたし、今も地元被災地の住民への支援は続いています。この中で、今後いつ起きるとも限らない災害時に必要な避難所運営に、学校薬剤師の経験が生かされると思いましたのでご紹介します。

トイレ環境の整備：災害トイレ

大津波警報の中、満潮時間をゆうに過ぎるまで高台避難していましたが、やがて学校薬剤師を担当している中学校の避難所に入りました。入ってまず行ったのが災害トイレの整備です。人は、食べていなくても排泄はあります。トイレ環境の悪化は、臭気による不快のみならず、感染症を誘発する恐れがあります。当店には常時90人分の糞尿凝固剤と黒いゴミ袋を常備しています。発災当日の夜、100人に満たない生徒数の校舎には328名の地域住民や帰省者が避難していましたが、幸いにも停電していなかったので店舗



図2-1、2-2



図3

に戻り、急きょ避難所となった中学校に持ち込んで災害トイレを作り始めました（図2-1、2-2）。1階から3階までを繰り返して、1人分を複数人分の処理に使っても処理剤は足りなくなったので、代わりに新聞紙をちぎって吸収剤の代用にしました。数人分ずつ溜めてはゴミ袋をしばり、床の流し場の上に積みます（図3）。2日は朝になるのを待って、地域住民にスマホで災害トイレの作り方を教え、店舗の復旧に戻りました。

後日確認したところによると、筆者の居た避難所ではその後、近所の井戸が使える事に気づき、トイレの洗浄に使ったと聞いています。

空気環境

学校の環境は、学校環境衛生基準に則っ



て整えられており、定期検査も実施しています。避難所の環境も、この基準に沿って整備を行います。当時CO₂測定器も過去の検査結果も、地震で飛散して手元にはありませんでした。過去のCO₂検査では、冬場の在室閉室時のCO₂濃度が高かった記憶がありましたので、感染症の発生と蔓延を防ぐために、天窓を少しずつ開けることでの室内換気を発災当日の夜のうちに住民にお願いしました。この避難所ではインフルエンザや新型コロナの発生は起きませんでした。

天窓の無い他の避難所では、仕切りのない1フロアに住民が避難しており、咳き込みやのどの違和感を訴える住民が多数見られました。冬場の避難所の換気は、避難所の主体性に頼るところがありますが、1月末に、金沢大学を通じて日本予防医学会より支援いただいた空気清浄機の避難所への設置は、空気環境の改善と、咳き込みの患者減少につながったと感じましたし、4月に実施された北里大学の測定によっても空気清浄機使用後の変化が示されています。

理科室の薬剤

破損瓶は別袋にして、今後の余震で破損し得る使用頻度の低い薬剤は、段ボール箱にまとめて、小学校中学校それぞれに鍵がかかって生徒の出入りが出来ない部屋に收容し、学校教育課の処分の判断を待ちます。12月現在、県教育委員会からは処

分を断られている状態です。

水質検査

発災2か月前の定期水質検査の際に、水道配管図の確認を学校側をお願いしていました。発災により数か月間の断水を余儀なくされましたが、図面の存在は復旧とその後の管理に役立ちました。築50年の古い鉄筋校舎の場合、配管は当時の鉄管のままです。経年劣化による水道水中の塩素の消耗が激しく、水質検査をしても遊離塩素濃度は低値安定したままですが、発災後の修理で現在の基準に則った材質の配管をすると急に遊離塩素濃度が高い校舎の一角ができます。ランチルームの北側と南側で配管が異なる場所もあり、水栓の目的別分別使用を行っています。

揮発性有機化合物（ホルムアルデヒド・トルエン・キシレン）

校舎が危険なために小学校の校舎を閉鎖し、急遽小中一貫校となっています。引越先の中学校も、方々で校舎が破損・隆起・沈降しており、補修して穴を塞いだ形で授業を行っています。その補修材料から揮発性有機化合物が高濃度で検出されました。さすがにホルムアルデヒドはF☆☆☆☆（エフ スターフォー）の規格を使っていて検出されませんでした。その分トルエンが既定の3倍検出され、天窓による空気換気や、教室内での生徒配置に気を使っています。

春には浄化槽の破損が判明し、担当校には何度通ったかわからないほどですが、環境衛生管理という点で、災害時の学校薬剤師活動の重要性を改めて感じています。

学会報告

第57回日本薬剤師会学術大会「彩」に参加して

石川県薬剤師会 副会長 藤原 秀 範

第57回日本薬剤師会学術大会が9月22日・23日の2日間、埼玉県さいたま市の大宮ソニックシティ、さいたまスーパーアリーナ、パレスホテル大宮を会場に開催されました。本大会は埼玉県で初の開催であり、特別記念講演や特別講演3題、20の分科会など、多彩なプログラムが盛り込まれていました。石川県からは口頭発表2題、ポスター発表7題が行われ、全国から現地・Web参加を合わせて8,000人以上が参加する盛会となりました。

● 奥能登地域豪雨災害の発生

大会前日の9月21日、台風14号から変わった温帯低気圧や活発な秋雨前線、線状降水帯の影響により、奥能登地域を中心に記録的な豪雨が発生。河川氾濫や土砂災害、住家流出や床上浸水が相次ぎ、15名が亡くなる甚大な被害が出ました。石川県薬剤師会は能登半島地震での経験を活かして直に対策本部を設置し、被害情報の収



輪島市町野町（石川県ホームページから）

集を開始。しかし会長や一部役員が埼玉へ移動中だったため、SNSでの情報共有やZoomによる対策会議で対応しました。

なお、原将充先生と綿谷敏彦先生は、当初予定されていた口頭発表と大会参加を辞退し、災害対応に尽力されました。お二人の迅速かつ献身的なご対応に、深く感謝申し上げます。

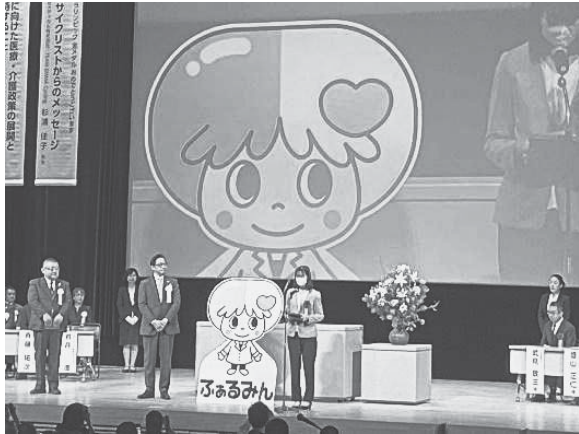
● 開会式と式典

大宮ソニックシティ大ホールで行われた開会式では、埼玉県薬剤師会の畑中典子副会長が開会を宣言。日本薬剤師会の岩月進会長は挨拶の中で、能登半島の豪雨災害へのお悔やみとお見舞いを述べられました。

続いて、埼玉県薬剤師会の斉藤祐次会長が本大会の新たな取り組みとして、「1日目午後からの登録でも生涯研修認定単位を発行」、「大会終了後の全分科会アーカイブ配信」、「アーカイブ視聴による埼玉県薬剤師会研修認定単位の発行」をあげられまし



日本薬剤師会 岩月進会長 挨拶



公式キャラクター「ふあるみん」

た。また、本大会のテーマ「彩」には、埼玉の豊かな地域性を背景に、薬剤師の未来を彩る大会にしたいという思いが込められていると述べられました。

式典では、内閣総理大臣の岸田文雄氏によるビデオメッセージをはじめ、厚生労働省、文部科学省、埼玉県、さいたま市など各団体の代表者から祝辞が寄せられました。また、日本薬剤師会の公式キャラクター「ふあるみん」が初お披露目されました。次回開催地の京都府薬剤師会への薬剤師綱領楯の引き継ぎも行われ、2025年10月に京都で開催予定の第58回大会テーマ「そうだ、薬剤師に聞いてみよう！～プロフェッショナルリズムの涵養～」が紹介されました。

● 特別記念講演

順天堂大学医学部 特任教授 天野篤先生が「人生100年を彩るために心臓との付き合い方」をテーマに講演されました。

循環器疾患の現状と、心臓病が生活習慣病と密接に関わること、さらに薬剤師が注意すべき点について具体例を挙げて説明されました。薬物療法の複雑さや注意点に加え、循環器疾患における薬剤師の役割についての提言が印象的でした。



特別記念講演 天野篤先生

● 分科会17「薬剤師が担う災害時の役割 ～能登半島地震をとおして～」

能登半島地震で支援活動に関わった先生方が多数参加されており、懐かしい顔ぶれに再会しました。そして、「能登半島豪雨は大丈夫か」、「復旧、復興は進んでいるか」など温かい言葉をいただきました。

分科会では、災害発生直後の石川県薬剤師会の対応や支援活動の実例について、以下の5つのテーマで発表が行われました。

1 「第8次医療計画における災害薬事コーディネーターの位置づけと今後の方針」(厚生労働省医薬局総務課 薬局・販売制度企画室 東 寛先生)

災害時の薬事コーディネーターの役割が、保健医療福祉調整本部での調整や医薬品供給体制の確保であることについて発表



分科会17

されました。また、コーディネーターの養成計画や活動の全国展開に向けた方針について示されました。

2 「令和6年能登半島地震における日薬の後方支援体制について」(日本薬剤師会 災害対策委員会委員長 越智 哲夫先生)

能登半島地震の特殊性(道路被害や地形的制約)を踏まえ、日薬が初めて現地本部を設置して行った支援活動や石川県薬剤師会との連携により、被災地での医薬品供給や医療支援が円滑に行われた具体例などを発表されました。

3 「能登半島地震における災害薬事コーディネーターの実際」(愛知医科大学 災害医療研究センター 助教 柴田 隼人先生)

石川県には災害薬事コーディネーターが配置されていなかったため、DMATが薬事衛生課と連携して代替活動を行った事例を発表されました。

4 「令和6年能登半島地震における医薬品流通について」(石川県薬業卸協同組合 事務局長 河村 幸一先生)

被災地への医薬品供給を途切れさせないための取り組みと、道路や輸送手段の制約の中で直面した課題や災害時の医薬品流通の重要性と今後の改善策などについて発表されました。

5 「能登半島地震における埼玉県薬剤師会の支援活動と災害対策の課題」(埼玉県薬剤師会 災害対策委員会委員 水 八寿裕先生)

埼玉県薬剤師会の後方支援の編成や医薬品供給、情報共有など具体的な支援活動などを発表されました。

分科会を通して、災害時に薬剤師が果た

すべき役割の重要性が再認識されました。特に、災害薬事コーディネーターの配置や、医薬品流通体制の確保といった課題が明確となり、今後の災害対応に向けた具体的な取り組みが議論された大変有意義な分科会でした。

● 口頭発表

本会からは、危機管理・災害対策、能登半島地震の分野で、2演題について発表が行われました。

- ・「1.5次避難所における石川県薬剤師会の活動報告」(石川県薬剤師会 北 一晃先生)

いしかわ総合スポーツセンターに設置された全国でも初めての試みである1.5次避難所で実施したOTC



北 一晃先生

医薬品の提供、服薬相談や医療支援など薬剤師の支援活動について発表しました。

- ・「令和6年能登半島地震での災害対応における現地リーダーの必要性」(石川県薬剤師会能登北部支部 原 将充先生)

能登半島豪雨の対応のため原先生は欠席となりましたが、座長が原先生からのコメントを代読し、発表に代えられました。

● ポスター発表

「さいたまスーパーアリーナ コミュニティアリーナ」に設けられたポスター会場では332演題の発表が行われ、本会からは次の7演題が発表されました。

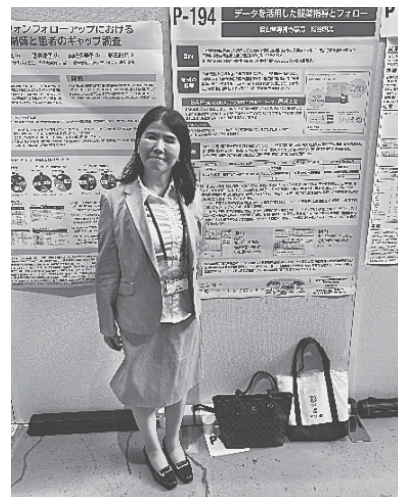
- ・「学校薬剤師による理科室整備の重要性」(アルプ薬局 北本 真紀子先生)



橋本先生のポスター前



柏原先生のポスター前



塩谷先生のポスター前

- ・「能登半島地震での石川県薬剤師会の取り組み～被災地で、薬剤師ができること～」(石川県薬剤師会 橋本 昌子先生)
- ・「石川県薬剤師会能登半島地震対策本部の活動について」(石川県薬剤師会 柏原 宏暢先生)
- ・「栄養カテテルと薬剤投与方法に関する訪問看護ステーション(石川県)での現状調査」(北陸大学薬学部 毎田 千恵子先生)
- ・「能登半島地震で実施したオンライン資格確認での調剤」(笠原健招堂薬局 笠原 秀行先生)
- ・「1型糖尿病罹患児の家族へSAP療法データを活用した服薬指導と服薬フォロー」(箔山堂専福寺薬局 塩谷 明美先生)
- ・「対人業務移行に対する薬局薬剤師の対応状況調査について、算定状況より見えてきたもの、今後の課題について」(石川県薬剤師会/瑠璃光薬局基石ヶ峰登り口店 山崎 敏誉先生)

● 展示会場と企業への出展協力依頼

「さいたまスーパーアリーナ コミュニティアリーナ」では、ポスター会場のほ

か、医薬品や薬科機器、IT機器の企業展示、埼玉県の物産や美術作品展示もあり、多くの来場者で賑わっていました。

また、2025年2月22日～24日に石川県金沢市で開催される第57回北陸信越薬剤師学会(金沢大学宝町キャンパス)に向け、乙田常務理事、谷内局長、私の3名で企業展示ブースを回り、企業への出展協力を依頼しました。

● 感想

今回の学会大会では、主に能登半島地震での支援活動を通じた危機管理や災害対策に関する分科会、口頭発表、ポスター発表に参加しました。災害時における薬剤師の重要性が多方面から議論され、災害対策への関心と期待が全国的に高まっていることを肌で感じるとともに、能登半島地震を通じて得た経験を全国の皆さんと共有し、災害時に薬剤師が果たすべき役割について改めて考える良い機会となりました。特に、危機的状況下での薬剤師の支援活動がいかに地域医療を支えるか、という重要性を再認識しました。

企業展示ブースでは、乙田先生の丁寧で分かりやすく、親しみのこもった説明のお



さいたまスーパーアリーナ コミュニティアリーナ

かげで多くの企業から北陸信越薬剤師学会大会への出展協力を得ることができました。以前MRをされていたという経歴を伺い、薬剤師としての多面的な活躍にあらためて感心しました。

懇親会には、柏原副会長と私の二人の参加でしたが、ここでも能登半島地震で支援活動に関わった多く先生方から温かい言葉をかけていただき、当時の大変さや復旧・復興の状況、災害時に薬剤師が果たすべき役割等同じ志を持つ方々との交流を通じ



越智日薬災害対策委員長、藤原、柏原副会長、山田日薬常務理事

て、災害対策への情熱や熱い気持ちが伝わってきました。

また、会場間の移動が多く、大宮ソニックシティ・パレスホテル大宮と一駅離れたさいたまスーパーアリーナを数回往復しました。さらにスーパーアリーナ内も非常に広く、2日間で3万歩以上歩いたため、普段運動不足の私にとっては健康的な大会となりました。ただ、とても疲れましたが、それ以上に大変有意義な時間を過ごすことができました。

第57回日本薬剤師会学術大会に参加しました

石川県薬剤師会 理事 塩谷明美

去る2024年9月22日から23日 埼玉県さいたま市で開催された日本薬剤師会学術大会に現地で参加しました。

前日から奥能登で大雨が降り、重大な被害がありました。被災された方々には心よりお見舞い申し上げると共に、亡くなられた方やそのご家族には、心よりお悔やみ申し上げます。

さて、今年の学術大会は大宮ソニック、さいたまスーパーアリーナ、パレスホテル大宮の3会場で開催されました。

石川県から北陸新幹線1本で乗り入れできる埼玉県での開催は交通の面で大変便利でした。



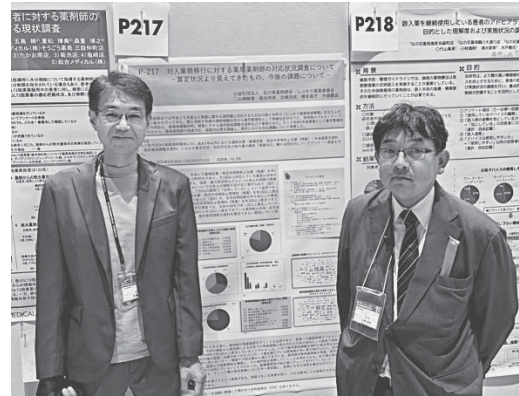
埼玉県での開催は初めてのことです。大会テーマは「彩（さい）」とのこと、彩の国埼玉県で行われる、薬剤師の未来を彩る大会という願いが込められているようです。

今回の学会の取り組みとして興味深かった事は大会1日目の研修単位が午後から参加であっても研修単位が付与される事です。様々な事情により午後からの参加という場合にも対応してもらえます。自分は午前から参加できたので、問題なかったのですが、開催場所によっては午前からの参加が出来ないことも今後あると思うため、来年からも継続してほしい方策です。

特別記念公演では順天堂大学医学部・大学院医学研究科心臓血管外科学講座特任教授 天野 篤先生が超高齢化の進む日本での心臓疾患について講演をされており、さいたまスーパーアリーナのサテライト会場でも多くの聴講者が熱心に話を聞いていました。

そして、分科会6の「女性の健康課題と薬剤師による支援」をオンデマンドで視聴しました。経済産業省では、女性特有の健康課題による社会全体の経済損失（経随伴症、更年期症状、婦人科がん、不妊治療などの健康課題に伴うもの）を年間約3兆4,000万円と試算しています。女性特有の健康課題や昨今、注目されている緊急避妊薬の薬局での販売環境整備など興味深いものでした。

話は変わり、石川県は2024年1月1日に能登半島地震の被害に遭っており、被災地に訪れ、避難された被災者へ支援していました。分科会17では薬剤師が担う災害時の役割として講演がありました。災害大国日本では地震など発災する対策が必須であり、関心の高さを伺えました。口頭発表



では、能登半島地震関連について、本会の北先生が発表されました。能登北部支部長原先生は豪雨災害の対応のため、欠席したので座長がコメントを代読されました。ポスター発表でも石川県薬剤師会副会長 柏原先生と橋本先生、幹事の笠原先生が発表されていました。ポスター会場では各先生が次々に質問を受けていました。

また、分科会9ではチーム医療や地域医療の中で活躍する薬剤師として講演がされており、興味深く聴講させていただきました。今までもそうでしたが、薬剤師は自己研鑽が必要な職業であり、今後も薬剤師の資質向上は必須です。地域包括ケアシステムが2025年には完成となる予定となっており、専門性を活かして薬剤師が地域に貢献できるかが課題であると思います。分科会9では、各分野の薬剤師による専門性を活かした地域の貢献が紹介されており、大変興味深い内容でした。

さて、ポスター発表はトータルで332の発表があり、見応えが十分な量でした。全てを拝見することは困難でしたが、様々な先生と話げできた事は自分の糧になったと思います。石川県からは7演題が発表されていました。

そのうちの一つが以下の発表です。石川県薬剤師会で昨年度まで実施されていた、しっかり服薬推進事業の内容を発表しました。開局部会 幹事の山崎先生が示説しました。しっかり服薬推進事業は元々、山崎先生が主担当をされており、その後、北嶋先生が主担当を担当していました。その間、残薬対応の重要性、経済効果を他の学会でも報告しています。今回は薬局における残薬と加算の関係について書く薬局の状況を把握し、まとめた内容を発表しています。今後の残薬対応や服薬支援を見据えた内容

です。

今回の学会は全国から参加しているため、懐かしい面々とも出会えました。また、各都道府県の先生と初めて交流できた場面もありました。学会で知り得た内容は今後の業務に生かせると毎回、感じています。

そして、埼玉県での学会参加は新たな感情を得られました。それは、埼玉県がより身近な存在になった事です。先日、東京に行く用があり、再度、新幹線に乗った際、大宮駅やさいたまスーパーアリーナを見て懐かしく感じました。いつか、埼玉県の観光名所を回ってみるのもいいなあと思った次第です。

来年度は京都での開催です。京都でも新たな知見が得られることを楽しみにして、日々の業務に励む所存です。

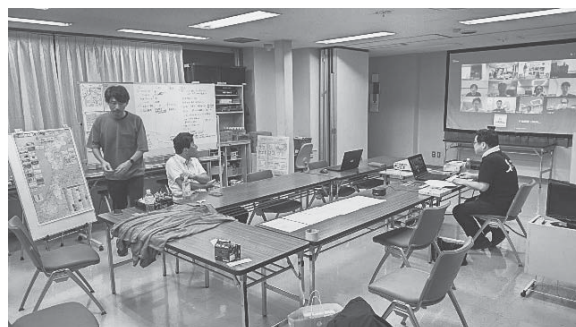
「彩」第57回日本薬剤師学術大会(埼玉県)に参加して

笠原健招堂薬局 笠原 秀行

今回、能登半島地震及び能登半島豪雨で被災された方々に深くお見舞い申し上げます。また、様々なご支援やお気遣いをしてくださった多くの方々に、厚く御礼申し上げます。多くの方が日常生活も大変な時に、参加の機会を頂けたことに深く感謝いたします。実は新幹線に乗る直前に立ち寄った県薬事務局で「能登半島豪雨対策本部」が設置されましたが、先生方のご厚意によって、私は学術大会の方へ参加させて頂けることになりました。

単身でのポスター発表は初めての経験で大変緊張しましたが、全国の様々な先生方が質問されていかれました。発表内容のオ

ンライン資格システム活用について、今後の可能性と運用方法について色々議論できました。都市部の先生には、人が多すぎて医療資源の供給が間に合いそうにないと吐露された方もいました。環境が異なればリスクや支援の困難さは大きく変わる事を改



能登半島豪雨対策本部



「避難所サバイバル」のワークショップ

めて考えなくてはいけないと感じました。

薬学生シンポジウムでは、避難所生活で健康を害するリスク・命を守る応急手当を日用品で対応して学ぶカードゲーム「避難所サバイバル」のワークショップを見学し、これから起こりうる災害に様々な発想で問題解決に取り組む学生の姿に逞しさと勇気をもらえました。和気あいあいの雰囲気と緊張感は有事においても必要なものであると思います（自分は震災時、緊張と興奮状態で心身共に硬直状態になっていました）。

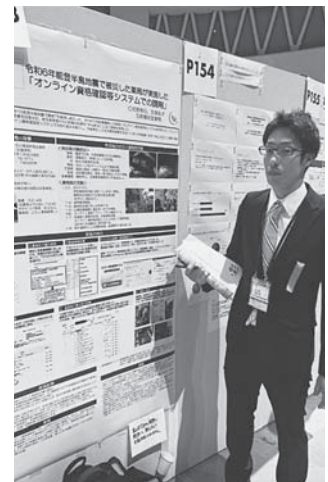
分科会「薬剤師が担う災害時の役割:能登半島地震をとおして」では、厚労省・各県災害対策委員会・DMAT・医薬品卸組合の発表を聞き、それぞれが行った活動実

施内容と課題についてディスカッションしました。

薬剤師として調剤・薬事衛生・医薬品供給をどのように担っていくかについてBCP（事業継続計画）、CSCAPPP（指揮/統制・安全・情報伝達・評価・トリアージ・準備・供給/調剤）等を踏まえた上で、医療に取り組む他職種との意識の違い（各々の視点や得ている情報の違いが判断の違いを生む）を理解しあうことの重要性を再認識しました。

全国に多種多様な課題が多くある中で、沢山の先生方が問題解決に向けて真摯に尽力されている事に尊敬と感慨深い思いをしました。

自分も復旧中であり、復興に向けていく今後の能登で微力ながらも地域医療に貢献していけるような薬剤師像を彩っていきたいと思います。



ポスター発表

第26回日本骨粗鬆症学会を終えて

北陸大学薬学部 教授 高橋 達雄

第26回日本骨粗鬆症学会（本大会）が2024年10月11日（金）から13日（日）の3日間にわたり、金沢で完全対面にて開催されました。会長は北陸大学理事/薬学部教授・三浦雅一先生、事務局長は北陸大学薬学部教授・高橋達雄、副事務局長は北陸大学准教授・佐藤友紀先生が務め、特別・教育講演15件、シンポジウム21件、ミー

ト・ザ・エキスパート12件、骨粗鬆症リエゾンサービス（OLS）関連スキルアップセミナー等13件、ランチョンセミナー23件、市民フォーラム1件、一般演題897件が行われ、参加者は約5,400名にのぼり、盛況のうちに幕を閉じました。

本大会のテーマは、石川県内で骨粗鬆症の啓発活動をしている金沢骨を守る会のス



ローガンでもある「ストップ・ザ・骨粗鬆症：Stop the Osteoporosis」とし、3年前から準備を進めてまいりました。書道家・森秀一先生による「骨」という文字を金色にあしらい、それを前面に押し出したポスターの制作、そして石川県指定無形文化財である御陣乗太鼓の太鼓の音が轟くPR動画の制作からスタートしましたが、これは本大会の参加者に学術的な面だけでなく、石川の「歴史と文化」に触れていただきたいという願いでもありました。そして、「金沢に来てよかった、勉強になった、また金沢に来たい」と思っただけのような様々なプログラムを企画・準備いたしました。さらに大会期間中には日本骨粗鬆症学会設立25周年記念式典や金沢骨を守る会・骨粗鬆症財団合同市民フォーラムなども挙行し、盛りだくさんの大会となりました。

骨粗鬆症は自覚症状がないまま進行し、

骨がもろくなり、骨折が起こりやすくなる疾患です。背骨や大腿骨が折れてしまうと寝たきりや要介護になるリスクが高まり、骨折により介護が必要となった場合にかかる費用は5年間で1,540万円と試算されています。さらに、日本では大腿骨の骨折が年間17万5,000件も発生しており、骨粗鬆症で大腿骨を骨折した場合の5年生存率は約50%というデータもあります。このような背景のもと、国が策定した第5次国民健康づくり計画「健康日本21（第三次）」では骨粗鬆症検診の受診率を全国平均で15%まで引き上げようという目標値が初めて明記されました。日本骨粗鬆症学会では骨粗鬆症の早期発見だけでなく、一度骨折すると再び骨折するリスクが高くなるため、二次性骨折予防にも注力しています。OLSは、医師だけでなく、多職種が一体となって一度骨折をした患者さんに対し、二次性骨折のリスクを説明したり、薬物療法、運動療法、食事療法をサポートしたりする取り組みです。骨粗鬆症の専門知識を学んだメディカルスタッフを骨粗鬆症マネージャーとして認定し、OLSの普及にも取り組んでいます。

OLSの普及に伴い、日本骨粗鬆症学会の12,000名を越える全会員のうち、40%が医師・歯科医師、60%が他のメディカルスタッフ（薬剤師、看護師、理学療法





士、作業療法士、栄養士、検査技師など）となっています。本大会のプログラムにおいても薬物療法、運動療法、食事療法に関連する講演やシンポジウムを多く取り入れ、OLSに特化した常設展示やスキルアップセミナーなど今まで以上に骨粗鬆症診療における多職種連携・交流を意識したプログラムを数多く企画しました。本大会に参加した多くのメディカルスタッフから「良かった!」「楽しかった!」との声を沢山いただいたのは率直に嬉しかったです。

本大会の講演・シンポジウムのうち約3割は骨に関連する他の学会もしくは研究会との共催であり、三浦先生にとっても、私にとっても、思い入れのある講演の一つがアルカリホスファターゼ（ALP）に関する研究会「ALPS研究会」との共催で開催された教育講演「アルカリホスファターゼ研究から見えてくるもの」です。ALPS研究会の設立者であり、元埼玉医科大学生化学教室教授でもある菰田二一先生のもとで、三浦先生はかつてALPの分子構造解析に関する研究を行っていました。著者も低ホスファターゼ症に対する治療薬として、骨指向性を有するALPの創薬研究を行っていたため、ALPが現在、医薬品となって低ホスファターゼ症の治療に用いられていることに強い感銘を受けています。その思いもあり、ALPS研究会幹事長であ



る大園恵一先生にご協力をお願いし、研究会と共催で、ALP研究の第一人者の先生方による講演を企画しました。教育講演では、3名の先生方にALP活性測定の変遷、骨密度の低下を伴う骨系統疾患の診断と管理、ALP補充療法を行った低ホスファターゼ症の症例を提示しながら低ホスファターゼ症についてご講演いただきました。

今年には日本骨粗鬆症学会の発足から25周年の節目の年であり、高円宮妃殿下にお成りいただき25周年記念式典を開催し、これまで骨粗鬆症学の進歩に多大なる貢献と功績を創られた名誉会員の皆さまの顕彰、妃殿下には骨粗鬆症撲滅の励ましのお言葉も賜りました。骨粗鬆症検診の受診率は全国平均で約5%ですが、石川県の受診率は12%と全国平均よりも高く、この式典を通じて骨粗鬆症を広く世間に普及し、早期での受診率15%を目指します。式典には、石川県知事と金沢市長にもご出席いただき、これまでの学会の取り組みに貢献していただいた名誉会員と事務功労者を顕彰いたしました。また、能登半島地震と能登豪雨の被災地の日も早い復旧・復興を後押しすべく、石川県へ100万円の義援金を贈呈いたしました。

大会期間中に開催した招宴・交流会では、金城楼や金沢城公園五十間長屋で金沢芸妓による舞の披露や素囃子、御陣乗太

鼓、ガルガン・アンサンブルによる演奏、石川県を代表する数々の料理と日本酒を用意し、ランチョンセミナーのお弁当にもこだわって石川県を詰め込み、参加者にはたっぷり石川県を堪能してもらいました。

最後になりましたが、本大会は各種委員の皆様や幹事会の皆様をはじめとする関係各位の多大なご支援によって無事に開催することが出来ました。また、石川県薬剤師研修センターの研修単位については、石川

県薬剤師研修センター長・藤原秀範先生にご協力を賜りました。皆様にはこの場を借りて心より御礼申し上げます。

第27回日本骨粗鬆症学会は、帝京大学ちば総合医療センター病院長・井上大輔先生を会長として2025年9月12日（金）から9月14日（日）の3日間にわたり、千葉県幕張メッセ国際会議場で開催されます。盛大な会として開催されることをお祈り申し上げます。

FAPA2024 in Seoul に参加して

石川県薬剤師会 副会長 橋本昌子

FAPA2024は10月29日から11月2日の5日間、韓国ソウルCOEXにて開催されました。テーマは、Next Generation Pharmacists in Asia : Pharmacists' Integrated Role to Enhance Care and Pharmaceutical Sciencesです。日本語に訳すと、『アジアにおける次世代の薬剤師：ケアと薬学を高度化する薬剤師の統合的役割』となります。韓国薬剤師会の会長メッセージでは、薬剤師は、薬を調剤する責任だけでなく、患者中心の総合ケアの主要な提供者として薬学の確信のリーダーとしての役割も

担っていると述べており、日本だけでなく、アジアにおいても、薬剤師の役割は、次のステージへの変化しつつあると感じます。

開会式では、それぞれの国の代表が入場しステージにあがります。日本からは、日本薬剤師会常務理事の豊見先生が和服で登壇されました。驚いたことは、インドネシアやフィリピンからの参加がそれぞれ250名以上、タイや台湾からも200名と多くの薬剤師が目を見守って参加していることです。日本からの参加は50名ほどですから、



アジアの中で取り残されてしまいそうです。みなさん頑張りましょう！！

開会式では、KPOPアイドルのダンスとボーカルのパフォーマンスもあり、会場が熱気に包まれました。

私は、今年もポスター発表に挑戦しました。最近では写真のようなeポスターとなって



おり、ディスプレイが10機ほど並んでいて、検索して映して閲覧しま

す。いろいろな発表を気軽に見ることができず、いいような悪いような・・・。

日本から参加したみなさんと会食する機会もありました。日本薬剤師会 岩月会長や山本前会長、日本薬剤師連盟 川田幹事長とも食事をする機会があり、他の国について意見を伺うことができました。

日本から何名かの先生が、講演をされていました。昨年のFAPAで大変お世話になった城西国際大学の山村重雄先生が、「日本の地域包括ケアにおける薬剤師の役割拡大」をテーマに講演されました。投薬後の評価により薬物療法を最適化するフローや、その薬物療法の評価のプロセスを学ぶワークショップの開催など、興味深いものもあり、石川県薬剤師研修センターで



も取り入れることができればと思います。高齢化対策や在宅医療は、日本が最先端なので、日本のモデルをしっかりと発信することが大切だと思いました。

最後の日は、クローキングディナーがあります。ここでは、たくさんの人と写真をとったり名刺交換したり、お土産の交換をしたりと楽しい時間を過ごしました。それぞれの国から出し物をする時間があり、日本の参加者のみなさんと一緒にステージに上がり、東京音頭を踊りました。



韓国では、食事もしました。カンジャンケジャン（生のワタリガニのしょうゆ漬け）、石焼ビビンバ、チヂミ（いろいろなチヂミがありました）、スンドゥブ、サムゲタンなど。どれも美味しかったです。

この写真は、会場横のモールにある本屋さんです。上から下まで本がぎっしりと並んでいます。ITの時代に、このような本屋さんをつくるのは、素晴らしいことだと思います。



さて、日本人が、このようなカンファレンスに参加できないことの一つに、英語の壁があります。私も、英語の勉強は、続けているのですが、なかなか自信をもって話すことができません。外国人からは、日本人は多少話せても、英語が話せないと言う、もっと自信をもって、話せませうと言えいいのに、と言われます。コミュニケーションに、正しい文法は必要ありません。アジアの進化には目を見張るものがありま

す。まずは、世界を見て刺激を受けることが大切です。始めることに年齢は関係ありません。

2年後のFAPAはタイで開催されます。FAPA 2026でお会いできることを楽しみにしています。



石川県中高生薬剤師セミナー2024

石川県中高生薬剤師セミナー2024について

石川県薬剤師会 常務理事 今庄 恵子

令和6年7月21日の日曜日に、石川県地場産業振興センター新館にて石川県中高生薬剤師セミナー2024が開催されました。

恒例となってきました本セミナーは、薬剤師偏在の問題もあり、県内の薬剤師また薬事の担い手として従事して頂けるように地元の中高生、またその保護者向けに薬剤師のやりがい、職域の広さを理解して頂き、将来の進路に薬学部も検討して頂こうと始まった催しです。回を重ねるごとに皆様のおかげをもちまして、参加人数は大幅に増えており、今年は、108の方が参加

されました。リアル参加以外にこのセミナーはWEB参加（サテライト薬局からの参加）もありますので、実際にはそれ以上の方が関わられたと思います。

さて、実際のセミナーの様子ですが、新館コンベンションホールには、階段状の観客席があるのですが、こちらは少し減らしてスペースの半分ほどは、講演後に行われる相談会のブースを広めに設けました。これは、個別の相談がゆったりと出来るように配慮したのですが、いくつものブースを皆さんに回って頂きたいのに、順番待ち





をしないと相談が出来ない、待ち時間が無駄であるとの昨年までの反省より、今年は整理券も準備したことで、参加者の時間の無駄や列を作られてしまう相談される側の焦りなども解消できたように感じます。

では、本題の内容ですが、石川県薬剤師会 中森会長のご挨拶に始まり、橋本副会長より『薬剤師の概要紹介と現状の説明』をお話いただき、第一部として、現役薬学部生からは薬学部に入るには？学生生活は、勉強はどのようにしているのかなど参加者が興味を持たれていることを中心にお話いただきました。その後、実際に薬学部を卒業し、様々な分野、職域で活躍されている若手薬剤師からのメッセージを聞いていただきました。具体的な分野は、薬局・病院・県職員・医薬品研究に携わる方たちでした。たとえば、薬局では、薬局



という店舗の中にいそうなイメージだけど現在は患者さんのご自宅へ伺うことも普段の業務になっているため、地域活動も含めて外に出る機会は多く、研鑽の機会にも多く恵まれるというお話しでした。それぞれでの立場で、より具体的に薬学部を卒業した後の仕事、生活が分かるお話をしてくださいました。いろんな分野で活躍されている方たちのお話を聞かせてもらうのですが、毎年参加している私もへえー、いろんなところで薬剤師は活躍しているんだなどと感心してしまいます。

その後、第二部として相談会を開催いたしました。ブースは、県庁・企業・病院全般・総合開局（薬局）・大学からは金沢大学・北陸大学・個別の病院では公立穴水総合病院・公立能登総合病院の8ブースが揃いました。



各代表者が順番に30秒で所属ブースのアピールを行い、その後、参加者が思い思いのブースに立ち寄り相談を行うという流れでした。相談会が始まると親子や友達同士、あちらこちらで話を聞き、再集合してパンフレットなどの配布物などを見せ合い、各ブースの報告を笑顔で行っている光景も見られ、和気あいあい大盛況のうちに閉会の時間となってしまいました。

最後に柏原副会長より閉会のあいさつをしていただき、皆さん方帰途につかれまし

たが、その光景を見ていると、個別に相談されて疑問が解消され、やる気に満ちて笑顔で帰られる参加者の姿がまぶしく感じました。心なしか親御さんの笑顔がより輝いて見えた気もします、子どもの明るい未来を想像できたのかもしれませんが。参加者、その周りの方も含め今後の石川の医療に繋がってくれることを願って報告を締めたいと思います。

末筆になりますが、ご協力いただきました方へ御礼を申し上げます。

「石川県中高生薬剤師セミナー2024」 サテライト会場として参加して

フラワー薬局南ヶ丘病院店 岩 木 浩 平

2024年7月21日（日）、当薬局は石川県中高生薬剤師セミナーのサテライト会場として昨年に引き続き参加をしました。今年は、県薬からの参加者募集に加え、当薬局独自で近隣の中学高校にも声をかけた結果、中学生5名、高校生15名、保護者2名の計22名と、多くの参加者を迎えることができました。

まず、石川県地場産業振興センターで開催された本会場のメインセミナーをモニターで視聴しました。この中では、薬剤師全般の仕事内容や、病院・薬局・行政など各職域での薬剤師の役割について詳しい説



サテライト講義時

明が行われました。視聴後には、参加者全員による質疑応答が行われ、活発な意見交換が見られました。

次に、当薬局での薬剤師の仕事を具体的に体験していただくため、参加者を3つのグループに分けて以下の体験プログラムを実施しました。

<体験プログラムの内容>

● 薬剤師業務体験コーナー

処方箋を受け取ってから薬剤師が行う「処方監査」や「調剤業務」を3つの症例を使って体験していただきました。症例は以下の通りです。

- ロキソプロフェンの1日量と1回量の間違い
- ベネットの月1回処方における日数間違い
- フェキソフェナジンDSの1歳児への倍量処方



薬剤師業務体験コーナー

参加者には、印刷した添付文書やタブレット端末の添付文書アプリを活用してもらい、処方監査の重要性を学んでいただきました。体験を通じて、患者様に誤った薬が渡らないようにする薬剤師の役割の重要性を実感していただけたと思います。

● 調剤機器の操作コーナー

当薬局が導入している自動薬剤ピッキング装置「Drug Station」を操作していただきました。

- 個別払い出しモードで薬剤を検索し、払い出す操作
- 模擬処方に基づき、処方内容を送信して自動払い出しモードを体験

さらに、端数を判断するカメラ機能や、重量で錠数を確認する天秤機能など、調剤ミスを防ぐ仕組みを実際に操作してもらい



調剤設備の説明



ハンドクリーム調剤体験

ました。また、自動散薬分包機「DimeRo II」や自動錠剤分包機「PROUD」による全自動調剤の様子を見学していただき、薬剤師業務が対物業務から対人業務へと変化していることを説明しました。

● ハンドクリーム調剤体験コーナー

好きな香りや効能を考慮して選んだアロマオイルを使用し、ハンドクリームの調剤を体験しました。

基剤であるプロペトを正確に計量し、軟膏ヘラを使ってアロマオイルを混ぜる作業、さらに完成品を軟膏ツボに詰める作業や薬袋の記入を実施しました。皆さんは慣れない作業に最初は緊張していましたが、次第に笑顔が増え、楽しみながら体験していただきました。

今回のセミナーを通じて、薬剤師という職業の魅力や、地域医療における薬局の役割について理解を深めてもらい、将来の薬剤師を目指すきっかけとなる場を提供できたと思います。特に、実際の薬剤師業務を体験していただくことで、参加者の中には「薬剤師になりたい」という思いを持つ方もいたように思います。今後も地域の中高生に薬剤師の魅力を伝え、未来の薬剤師育成の一助となる活動を続けてまいります。

薬剤師国家試験にチャレンジ

北陸大学薬学部 実践実学系 准教授 杉 山 朋 美

本紙上で解説する問題は、令和6年2月17～18日に行われた第109回国家試験の中から担当者が教員目線で選択した問題です。問題数も少なく、内容も偏っているかもしれませんが、昨今の国家試験にどのような問題が出されているのかを確認する機会として、また実務実習指導のご参考にして頂ければ幸甚です。

《チャレンジ》

超高齢社会を迎え、健康寿命の延伸や高齢者の健康サポートにおける薬剤師の役割が期待されている。薬剤師国家試験では第104回（令和元年2月実施）に「ロコモティブシンドローム」に関する問題が出題されて以降、「サルコペニア」、「フレイル」というキーワードを含む出題が増えている傾向にある。これからの薬剤師には高齢者医療や健康指導、介護予防・フレイル対策に関する知識と実践力を求められていることが伺える。第109回（令和6年2月実施）ではフレイルに関する事例をもとにした実践問題が出題されたので、取り挙げて解説する。

問226－227

68歳女性。身長150cm、体重41kg（BMI 18.2）。独居。喫煙歴無し。飲酒はしない。最近、体重の減少と体力の低下が気になっていたところ、テレビでフレイルの特集を見て、自分も該当するのではないかと心配になり、健康サポート薬局の薬剤師に相談に来た。薬剤師はこの女性に生活習慣について尋ね、以下の情報を得た。

- ・近頃、固いものが食べにくくなったので豆腐のような軟らかいものを好んで食べている。
- ・運動習慣は週に1回程度、散歩を行ってきたが、最近疲れやすくなったので外に出ない日が多くなった。
- ・年をとるとともに友人が少なくなったので、他者と交流する機会は、ほとんどない。

問226（衛生）

フレイルに関する内容として、正しいのはどれか。2つ選べ。

- 1 フレイルは、加齢に伴う身体的、精神的な機能低下のことである。
- 2 フレイルは、要介護になった状態のことである。
- 3 フレイルは、回復することのない病態である。
- 4 フレイルの進行を防ぐことは、健康寿命の延伸につながる。
- 5 フレイルは、過栄養により防ぐことができる。

問227 (実務)

薬剤師がこの女性に行うフレイル予防に関する提案の内容として、適切なのはどれか。

2つ選べ。

- 1 タンパク質の摂取量を減らす。
- 2 咀嚼機能と嚥下機能の低下を防ぐため、口腔体操などを行う。
- 3 日常生活において、できるだけ紫外線を浴びないようにする。
- 4 疲労を回避するために、運動は現状よりも控える。
- 5 地域の活動に参加して、適度に人との交流を行う。

***** 【正答と解説】 *****

問226 正答は1、4です。

(解説)

選択肢1：正。フレイルとは英語で虚弱を意味する frailty をもとに作られた言葉で、加齢に伴う身体機能（予備能力）の低下によるストレス等に対する抵抗力・回復力が低下した状態で、生活機能障害、要介護状態などの転機に陥りやすい状況である。身体的フレイル、精神・心理的フレイル、社会的フレイルの3つの特徴が絡みあい、ADL低下や生活能力の低下がみられる。

選択肢2：誤。フレイルは、健康で活動的な生活をしている状態（健常）と要介護状態の中間の状態であり、要介護に至る前段階とされる。

選択肢3：誤。フレイルは不可逆的に老い衰えた状態ではなく、早期に発見して栄養、運動、社会参加などの適切な介入により再び健康な状態に戻ることができる可逆性を有している。

選択肢4：正。健康寿命とは「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義されている。フレイルの進行を防ぎ、あるいは回復して健康な状態に戻して自立した日常生活を送れる期間が延びることは、健康寿命の延伸につながる。

選択肢5：誤。フレイルの要因には低栄養（栄養不足、栄養障害）があり、適切なエネルギー量、タンパク質の摂取を確保し、栄養バランスの良い食事摂取が予防につながる。一方、過栄養になると肥満や糖尿病などの疾患の発症につながるため、適切ではない。日本人の食事摂取基準（2020年版）において高齢者では低栄養・フレイルの予防及び生活習慣病の発症予防の両方を考慮して、エネルギー摂取の基準として目標とするBMIの範囲を21.5～24.9kg/m²と設定されている。

問227 正答は2、5です。

(解説)

選択肢1：誤。タンパク質の摂取量減少は筋肉量の減少をもたらし、筋力、体力の低下につながり、フレイルの悪化やサルコペニアの発症を招く恐れがある。高齢者にはフレイル予防の観点から十分な量のタンパク質摂取を推奨するため、日本人の食事摂取基準(2020年版)ではタンパク質摂取について推奨量と目標量が設定されている。

選択肢2：正。咀嚼・嚥下などの口腔機能の維持は食事摂取に関係し、低栄養を防ぐことにもつながる。咀嚼・嚥下困難、口腔乾燥、残存歯数の減少、滑舌低下などの口腔機能が低下した状態であるオーラルフレイルの予防に、口腔体操は有効である。

選択肢3：誤。紫外線に当たると体内でビタミンD₃が合成され、食事由来のカルシウムの消化管吸収を助けるため、骨や歯を丈夫に保つのに役立つ。適度な日光浴は血中のビタミンD不足を補い、骨粗しょう症の予防にもつながる。

選択肢4：誤。運動不足は筋力、体力の低下につながりやすく、フレイル予防の観点から過度な運動制限は適切ではなく、適切な身体活動(生活活動とスポーツなどの運動)の維持・継続が必要である。健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023において、高齢者には歩行またはそれと同等以上の強度の身体活動を1日40分以上行うことが推奨されている(1日約6,000歩以上に相当)。家事や買い物、掃除などの生活活動に加え、ウォーキングなどの有酸素運動、スクワットや軽い筋トレなど筋肉に負荷のかかるレジスタント運動を定期的に行うことを勧められる。

選択肢5：正。フレイルの要因には孤独・孤立、独居、孤食、閉じこもりなどの社会的フレイルがある。家族、友人を含め他者との交流、コミュニケーションを保つことは社会的フレイルの予防につながる。そのため趣味、習い事、就労、ボランティア活動など多様な日常・社会的活動に参加、継続することが推奨される。

参考資料：

- ・フレイルに関する日本老年医学会からのステートメント 一般社団法人日本老年医学会(平成26年5月)
- ・日本人の食事摂取基準(2020年版)「日本人の食事摂取基準」策定検討会報告書「日本人の食事摂取基準」策定検討会(令和元年12月)
- ・オーラルフレイルに関する3学会合同ステートメント 一般社団法人日本老年医学会、一般社団法人日本老年歯科医学会、一般社団法人日本サルコペニア・フレイル学会(令和6年4月)
- ・健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023 健康づくりのための身体活動基準・指針の改訂に関する検討会(令和6年1月)

(文責 杉山 朋美)

金沢マラソン2024「もてなしメッセ」におけるブース出展活動報告 石川県薬剤師会・金沢市薬剤師会・スポーツファーマシスト委員会合同

石川県薬剤師会 常務理事、金沢市薬剤師会 専務理事
スポーツファーマシスト 伊藤 昭一



2024年10月27日（日）に開催された金沢マラソン2024に伴い、受付が開始された25日（金）と26日（土）に金沢駅もてなしドーム地下イベント広場で、オープニングセレモニーや歓迎イベント「もてなしメッセ」が行われました。

このイベントには協賛企業をはじめとする約30のブースが出展し、石川県薬剤師会、金沢市薬剤師会及びスポーツファーマシスト委員会も合同でブースを出展して、アンチドーピング啓発活動を実施しました。

《ブースへの出展目的》

ブースへの出展目的は、ランナーやその関係者に「うっかりドーピング」の危険性を周知するとともに、スポーツファーマシストが薬の相談に対応できる専門職であることを広く認知してもらうことでした。石川県には約100名のスポーツファーマシストが登録されていますが、活動機会や認知度がまだ十分とは言えない状況です。

今回の出展は、金沢市議会議員で薬剤師の宇野裕基先生からの提案を受けて初めて実現しました。準備段階では、東京都薬剤師会や江戸川区薬剤師会、JSPO（日本スポーツ協会）から情報提供を受け、県内のスポーツファーマシストにも協力を呼びかけました。その結果、21名が参加し、各時間帯ごとに6～9名がスタッフとして対応しました。

《ブースの内容》

ブースには横断幕やパネル、のぼり旗2本を設置し、次の啓発資材を配布しました。

- ・使用可能薬リスト
- ・小冊子「読む薬」
- ・啓発パンフレット「意図しないドーピング」
- ・ノベルティ（宣伝入り絆創膏）

これらをナイロン袋にまとめたセットやリーフレットを、ブース前を通る参加者に配布しました。



また、健康意識の高いランナーの関心を引くために、次の健康測定機器を活用しました。

- ・骨密度測定器
- ・血管年齢測定器
- ・野菜摂取度測定器

健康測定機器の導入により、アンチドーピング啓発だけでなく、健康管理への意識向上を促す工夫を行いました。

《成果と反響》

「もてなしメッセ」では、金沢マラソン参加者約15,000人とその家族など関係者約25,000人がブース前を通過し、薬剤師会のブースにも数千人が立ち寄る大盛況となりました。用意した啓発用リーフレット5,000枚は短時間でなくなり、アンチドーピングへの関心の高さがうかがえました。また、健康測定機器が来場者に大変好評で、骨密度や血管年齢の測定には特に高い関心が寄せられました。一度測定が始まると、長蛇の列ができるほどの人気ぶりでした。

一方で、初日の25日には混雑が原因でメイン通路が一時ふさがれる事態も発生し

ました。しかし、スタッフの増員と誘導の工夫により、混乱を最小限に抑えることができました。

《問題点と今後の課題》

一般ランナーの中には「ドーピング」という言葉自体を知らない方も多い状況でした。このため、パンフレットや啓発資材の配布を通じて、ドーピングの危険性や薬剤師への相談の重要性を周知することができました。

今回の初出展は大成功でしたが、来年以降は以下の改善点を踏まえてさらに充実した活動を目指します。

- ・骨密度測定器と血管年齢測定器をそれぞれ2台に増やす。
- ・スタッフ体制を時間帯ごとに15名程度に増強する。
- ・測定希望者の誘導や機器操作、パンフレット準備を効率的に行うための運営強化。

《今後について》

金沢マラソン2024での活動を契機に、スポーツファーマシストやドーピングに関心のある薬剤師をさらに募り、活動を活発化させるための委員会を設立する予定です。石川県薬剤師会・金沢市薬剤師会は、



スポーツファーマシストの体制強化を進め、アンチドーピング啓発活動を地域に根

ざした取り組みとしてさらに発展させていきます。



2024いしかわ介護フェスタに参加して

株式会社スパーテル 四反田 耕 司

去る11月9日（土）に石川県産業展示館3号館にて石川県主催の「2024いしかわ介護フェスタ」が開催されました。

本年も石川県薬剤師会として展示ブースを設置し、北陸大学薬学部：内手昇教授を含め延べ17名の薬剤師が参加しブース運営を行いました。

運営は以下の内容です。

1) こども薬剤師体験（大人も数人参加して頂きましたが）

ラムネやマーブルチョコを薬に見立てて薬包紙に包む作業をしました。

薬包紙での包み方を事前に皆で確認し、小さなお子様には手を取りながら一緒に包みました。お子様にとっては皆初めての経験で、出来上がるととても嬉しそうな笑顔

で席を立っていくのが印象的でした。またドラえもんのお薬袋に入れてあげると、より一層の笑顔で、何人かは「薬剤師になりたい！」と言っていました。

一番人気のあった内容で午前中だけでも50人以上の参加者がいました。



2) シップの貼り方のコツを体験

シップを張る際に平面よりもむしろ関節に貼る事が多いので、首・肩・膝・足首等への貼り方のコツを薬剤師からアドバイスをを行いました。

介護フェスタでしたので、中高年の来場者も多く貼り方についての関心は高く、多くの参加者がありました。

シップに切れ目を入れて関節の可動部に上手くフィットするようにアドバイスをすると、次回からこうしますと喜んで離れて行く方がほとんどでした。

こちらも人気があった内容で午前中だけで30人以上が体験をしていきました。

3) 脳トレアプリを使用して脳年齢のチェック

こちらは高齢者よりむしろ若年層に人気がありました。特にこのフェスタ参加し将来の就職先を考えている高校生なども参加されていました。

実年齢と脳年齢の差に一喜一憂していて、楽しんで席を立たれる方が多かったです。

4) お薬相談コーナー

お薬の使い方、飲み合わせ、服用の効果等についての相談を受けました。

特にポリファーマシーに関する相談があ

り、それに関するパンフレットをお渡しし、服用に関する啓蒙活動を実施しました。

私は昨年も参加させて頂きましたが、昨年よりも来場者が多くまた会全体のイベントも色々あり会場も全体的に活気がありました。

田鶴浜高校の生徒さんによる手話パフォーマンス、吉本芸人のspan!さんによるトークショー、介護ロボットの実演・体験、介護技能グランプリ等色々なイベントが実施されていました。

今回のブース運営者の皆様は「来年もブース運営に参加したい」と話していたように初めて会った薬剤師同士なのに旧知の間柄の様に楽しくブース運営が出来ました。

また来年是非集いましょう。また新規参加の薬剤師も必ず楽しめますので是非ご参加ください。



令和6年度 (第65回) 石川県防災総合訓練レポート

石川県薬剤師会 河北支部長 中村 安博

本年1月の能登半島地震 9月の能登豪雨にて被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。

令和6年11月10日(日)に行われた、防災総合訓練に参加しましたので報告します。

【概要】

1 訓練目的

地震、津波及び風水害等各種災害の発生に際し、災害応急対策に万全を期すため、災害対策基本法並びに石川県地域防災計画及び津幡町地域防災計画等に基づき、防災関係機関及び地域住民の参加のもと、総合的な防災訓練を実施し、関係機関等の連携強化を図るとともに、広く県民の防災意識の高揚を図る。

2 日時

令和6年11月10日（日）8：00～12：00

3 場所

津幡町一円（津幡簡易グラウンド、条南小学校、条南公民館、中条公園、津幡町福祉センターなど）

4 共催

石川県、津幡町、国土交通省北陸地方整備局

5 参加機関：101機関

参加人数：14,281人

6 訓練想定

津幡町を中心に、未明から明け方にかけて線状降水帯が形成・維持され、急激な降雨が発生。気象庁から「顕著な大雨に関する

情報」が発表されたことから、県では災害対策本部を設置。こうした中、8時00分に森本・富樫断層帯を震源とするマグニチュード7.2の地震が発生し、津幡町で震度6強が観測された。この地震により甚大な人的・物的被害が生じたほか、土砂災害が発生し、道路が寸断されたことにより、孤立集落が発生した。

【石川県薬剤師会の訓練及び活動】

1 参加機関・参加者

石川県薬事衛生課、石川県薬業卸協同組合、石川県医療機器協会、日本産業・医療ガス協会、石川県薬剤師会：谷内一大、竹端裕、綿谷敏彦、柏原宏暢、伊藤昭一、笠原秀行、中村安博、西島宗和、丹羽靖子、吉田泉介（敬称略）

2 場所

条南小学校体育館

3 訓練内容

- ・救護所等でのお薬相談
- ・災害用医薬品等の輸送訓練

『シナリオ』

- ① 災害発生
- ② 石川県薬事衛生課より石川県薬剤



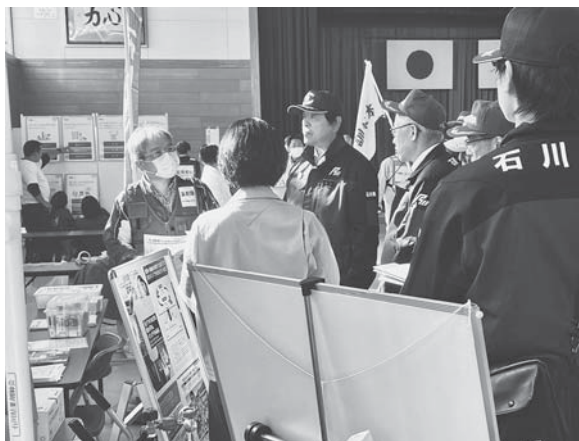
災害用医薬品・医療機器等輸送訓練



救護所等でのお薬相談



医薬品等の検品・仕分け作業



馳知事への訓練説明



参加した先生方

師会事務所に避難所（条南小学校）への薬剤師派遣依頼あり。

- ③ 石川県薬剤師会事務局長より会員薬剤師に連絡。9名の薬剤師が避難所に参集。
- ④ 災害対応時に情報を管理する「テクノロジー」にて経時活動記録を作成。緊急用一般用医薬品の設置。お薬相談窓口の開設。
- ⑤ 各機関より医薬品、医療機器、在宅酸素等の搬入。受け取り。
- ⑥ 搬入した品目の点検、仕分け。

4 活動内容

- ・一般参加者に対しての「お薬手帳」啓蒙活動。
- ・訓練本部視察団（石川県知事、津幡町

長他）への訓練内容の説明。

【感想】

今回は、能登半島地震、能登豪雨の発生後では初めての県防災訓練となりました。

薬剤師会に限らず、全ての参加機関、一般参加者が災害への備えの重要性を強く認識して訓練に取り組んでいたように思います。

薬剤師会としても、モバイルファーマシーの設置など、災害対応について今後とも注力していく必要性を感じました。

最後になりましたが、被災された皆様方の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

令和6年度石川県災害薬事コーディネーター養成研修

石川県薬剤師会 副会長 綿谷敏彦

令和6年12月1日（日）に石川県地場産業振興センター本館1階第7研修室にて開催されました。参加者は26名（病院薬剤師会6名、加賀支部1名、小松能美支部1名、白山ののいち支部2名、金沢支部8名、河北支部1名、羽咋支部2名、七尾鹿

島支部2名、能登北部支部2名、一般1名）です。

第8次医療計画に基づく指針において、災害薬事コーディネーターが「災害時に、都道府県並びに保健所及び市町村が行う保健医療活動における薬事に関する課題解決



のため、都道府県が設置する保健医療福祉調整本部並びに保健所及び市町村における保健医療活動の調整等を担う本部において、被災地の医薬品等や薬剤師及び薬事・衛生面に関する情報の把握やマッチング等を行うことを目的として、都道府県において任命された薬剤師」と定義され、保健医療福祉調整本部等への参画が求められることになりました。

今回の研修は、保健医療福祉調整本部等において災害時の円滑・適切な医薬品提供・衛生管理の充実を支援する災害薬事コーディネーターを石川県として養成することを目的としています。

朝の9時過ぎに始まり夕方17時までみっちり演習を行いました。以下の内容で、講師の先生が講義をされて、引き続き各グループで設問に対する回答を考えるとという流れを繰り返して進みました。

演習1：我が国の災害医療提供体制

演習2：災害時の初動と共通言語

演習3：本部での調整活動

演習4：状況把握と資源の再配分

演習1では、我が国の災害医療提供のための法制度を理解した上で、災害救助における医療の提供は多職種が協働で行うもの

であり、災害対応における共通の知識や理論、倫理観が必要であることを学びました。

演習2では、大規模災害発生時の初動をシミュレーションし、＜CSCATTT＞とは何かを学びました。

●Medical Management

(医療提供体制の確立)

C : Command & Control

(指揮系統の確立と連携先の確認)

S : Safety

(安全の確保・維持)

C : Communication

(通信の確保、情報の共有・連携)

A : Assessment

(評価)

●Medical Support

(医療サポートの実践)

T : Triage

(患者の選別と順位決定)

T : Treatment

(搬送のための処置・安定化)

T : Transport

(被災地内外への搬送)

なお、薬事では＜TTT＞を＜PPP＞として動きます。

●Pharmaceutical Support

(薬事サポートの実践)

P : Pharmaceutical Triage

(薬物療法のサポート順位決定)

P : Preparation

(ヒト・モノの準備・調剤／公衆衛生)

P : Provide Pharmaceuticals

(ヒト・モノ・情報の提供)

演習3では、過去の事例に基づき、保健医療福祉調整本部での活動をシミュレー



シオンしました。拠点の病院が浸水被害を受け調剤業務（一包化）が行えない、さあどうする！となったときに、医薬品の輸送体制や近隣薬局の開局状況の確認、分包機を扱うメーカーへの問い合わせと必要な書類の準備などを行い、医薬品供給フロー図を作成しました。

また、県外から支援に来る災害支援薬剤師の受援調整に関しては、様々なニーズに適切に対応するためにどの様な専門性をもった薬剤師をどこのリーダーとして配分するかも思案しました。参集する薬剤師は、病院薬剤師、薬局薬剤師、ドラッグストア勤務薬剤師、行政薬剤師、学校薬剤師、実務家教員など多岐にわたっています。その人たちの力を十分に活用できるよ

うな配置が必要です。

演習4では、収集した情報を分析して災害の全体像を把握し、どのように対応する（指示を出す）かをシミュレーションしました。毎日報告される避難所のアセスメントシートを時系列にまとめ、今後の展開を想定して支援薬剤師への指示を考えました。

こうしてあっという間に演習は終了しました。災害時の薬事マネジメントで大事なことは『災害を俯瞰し、状況を読み、流れを見て、柳腰で対応』とまとめられました。日頃から幅広い視野を持ちつつも狭く深く見る目も持ち合わせ、時間の流れを読む（先を見通せる）ことができるよう、日々努力していこうと思います。

末尾に、今回の研修におきまして講義をしてくださった講師の先生方、各グループでファシリテーターを務めてくださった先生方、事前準備と当日の進行をしてくださった薬事衛生課の皆さま、そして各支部や職域から参加された先生方や遠方から視察に来られた方々、関わってくださったすべての皆さまに深く感謝申し上げます。



「G08認定薬剤師研修システム」の導入について

石川県薬剤師研修センター長 藤原 秀 範

石川県薬剤師会では、「G08認定薬剤師研修システム」の導入を進めており、2025年3月から本稼働を予定しています。

本システムでは、G08認定薬剤師の登録を紙面ではなく電子化することによって、研修シールを廃止して研修単位取得情報をシステム上で管理します（図1、2）。

本会の会員情報ともリンクし、G08研修会受講とG08認定薬剤師の単位を一元管理し、受講と同時に単位が自動加算されます。

2025年4月以降に開催される研修会からは、他プロバイダーでの単位取得に使用できる「単位証明書・受講証明書」（図3）も本システム上から発行できます。

また、G08研修会実施機関においては、申請から終了報告までを電子化し、一元管理することで効率的で利便性の高い運用を実現します（図4）。

本システムの導入により、認定薬剤師やG08研修会の管理業務が効率化されて、認定薬剤師等のステークホルダーの利便性が向上し、認定薬剤師の新規取得や更新手続きが簡便になるとともに、研修会の管理がスムーズになります。

主な機能とシステムの特徴は、次のとおりです。

《主な機能》

◆ G08認定薬剤師管理システム

- 単位取得情報の管理
- 新規・更新申請の管理
- 研修シールに代わる「単位証明書・受講証明書」の発行
- 期間延長申請の管理 等

◆ G08研修会管理システム

- 研修会実施計画の登録
- 研修会の申込・参加者管理
- 研修会実施報告の管理 等

《システムの特徴》

- **WEB上でのやりとりと半自動処理**：すべてのやりとりがWEB上で行われ、手続きが半自動で処理されます。
- **データの一元化**：データは一元化され、データベースに保存されます。
- **24時間アクセス**：ログイン情報を持つ管理者・ユーザーは、24時間いつでもどこからでもアクセス可能です。
- **高いセキュリティ**：データは強固な隔離領域に保存され、セキュリティが確保されます。

《今後の予定》

月 日	システム	内 容
2/3(月)～14(金)	研修会管理システム	テスト期間
3/3(月)	研修会管理システム	スタート（4月以降の研修会実施計画の申請）
3/24(月)	認定薬剤師管理システム	スタート（4月以降の新規・更新申請等）

※ 紙面による認定薬剤師申請の受付は、2025年3月21日（金）までをお願いします。

※ 研修会実施機関においては、事前に研修会実施機関登録申請にかかる書類の提出が必要です。

《参考》

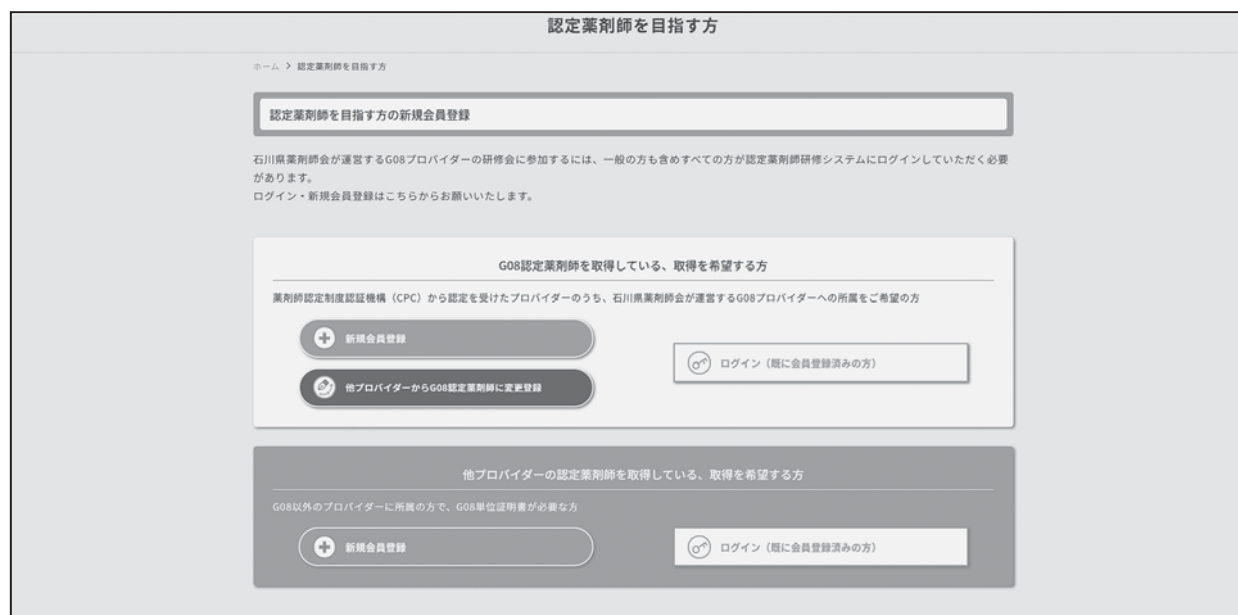


図1 G08認定薬剤師を目指す方

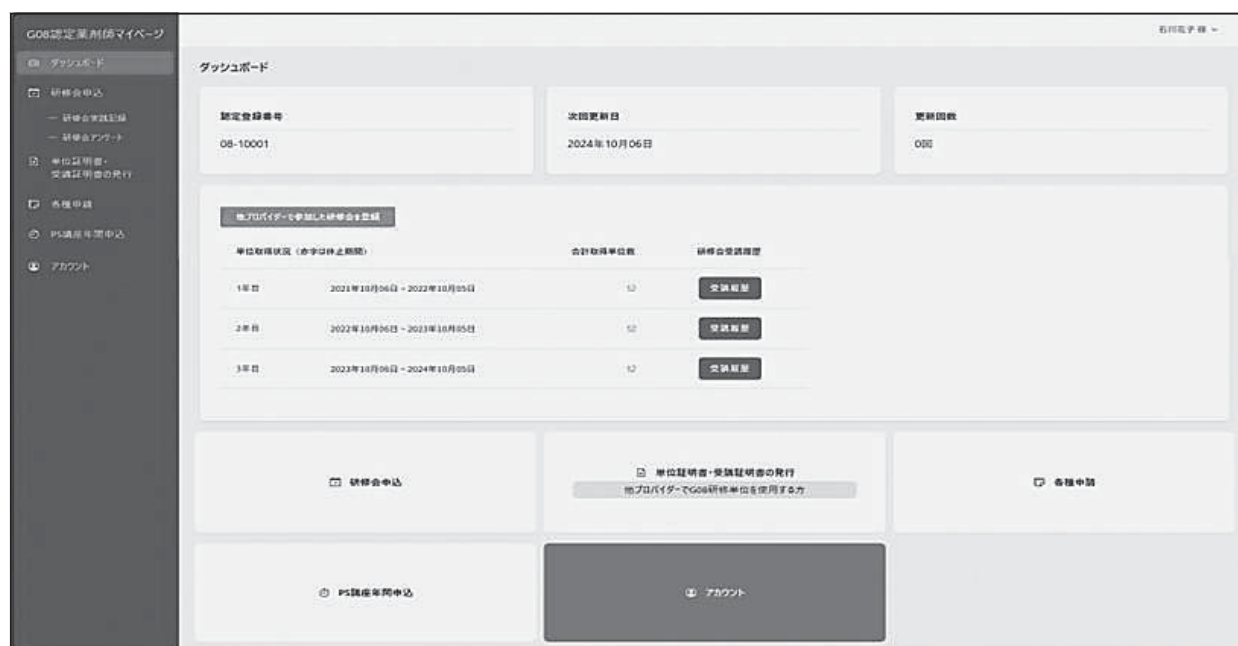



図2 G08認定薬剤師マイページ



認証 G08

発行番号 25001401

単位証明書・受講証明書


受講者氏名： 石川 泉葉
(薬剤師名簿登録番号：第 123456 号)

研修単位番号	25-0014-S
研修単位数(区分)	2単位 (1.集合研修)
研修会日時	2025年4月●日(日) 13:00~16:00
研修会の名称	薬剤師 PS 講座イノベーション (4月)
研修会詳細	【講義1】精神疾患の薬物療法と服薬指導のエッセンス 【講義2】フォローアップコミュニケーションの基礎
講師氏名	【講義1】●●大学附属病院 薬剤部 ●●●● 【講義2】●●大学薬学部 教授 ●●●●
単位使用機関名	G01:日本薬剤師研修センター

発行日：2025年4月●日

上記のとおり相違ないことを証明する。

公益社団法人 石川県薬剤師会
会長 中森 慶海



(印影は黒色です。)

図3 単位証明書・受講証明書

G08研修会管理システム

🏠 ダッシュボード

📄 研修会

📄 研修会報告書 (2)

👤 アカウント

石川県健康福祉部薬事衛生課 様 >

研修会一覧

新規登録

開催日 - 開催日 研修会の名称 全てのステータス 🔍 検索 検索条件リセット

27件中1～10件表示されています

ステータス	開催日	研修会の名称	受講予定者数	申込人数	単位	事務処理	操作メニュー
● 受付中	2024年12月31日	受講薬剤師で研修期間後に開催予定のメッセージング研修会	100	0	3	受付終了	📄 📄 📄 📄
● 受付中	2024年10月1日	新規認定申請中のメッセージング研修会(研修期間内)	100	0	3	受付終了	📄 📄 📄 📄
○ 終了	2024年9月25日	小松総業薬剤師会 学術講演会50	100	0	3	-	📄 📄 📄 📄
● 報告完了	2024年9月15日	七尾市医師会・七尾市薬剤師会WELF学術講演会40	100	0	3	-	📄 📄 📄
● 報告完了	2024年10月18日	小松総業薬剤師会 学術講演会38	100	0	3	-	📄 📄 📄
● 報告完了	2024年10月25日	令和5年度輪島・穴水地区糖尿病診療セミナー-36	100	0	3	-	📄 📄 📄

27件中1～10件表示されています

図4 G08研修会管理システム 実施機関の研修一覧

令和5年度県民啓発講座のアンケート結果

県民啓発講座実行委員会 石 浦 祐喜子

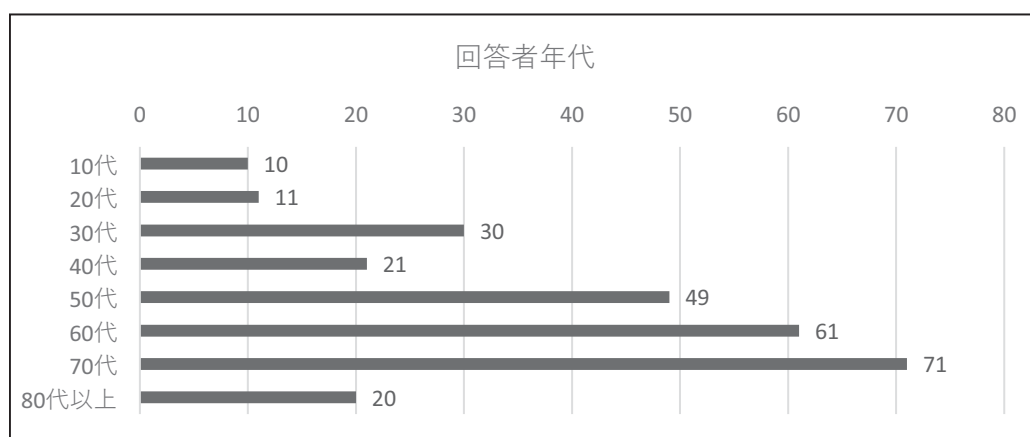
令和5年度 県民啓発講座で配布したチラシのアンケート集計結果を報告いたします。

チラシ配布：保険薬局・公民館等 11,913枚

配布期間：令和5年12月15日～令和6年1月31日

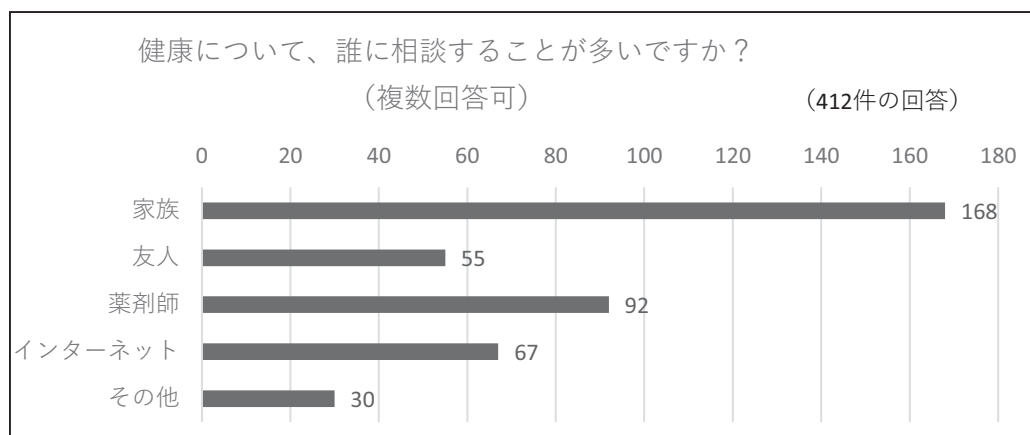
アンケート回答数：274件

- ・QRコードによる回答 146件
- ・はがきによる回答 128件



1. 健康について、誰に相談することが多いですか？（複数回答可）

A. 家族 B. 友人 C. 薬剤師 D. インターネット E. その他



2. 誰に相談しているかの理由

- 〈家 族〉
- ・身近にいる
 - ・相談しやすい
 - ・信頼できる
 - ・医療関係者である

- 〈友人〉
 - ・相談しやすい
 - ・同性で同じ年代で話しやすい
 - ・知識が豊富
- 〈薬剤師〉
 - ・薬に詳しい
 - ・専門の知識があるから
 - ・親身になって相談にのってくれる
 - ・信頼できる
- 〈インターネット〉
 - ・自分ですぐに調べられる
 - ・好きな時間に調べられる
 - ・短時間にいろいろな情報を入手できる
 - ・家族や、友人に知られたくない
- 〈その他〉(かかりつけ医、保健師、看護師)
 - ・専門家である
 - ・知識と経験がある
 - ・信頼できる

3. 薬局があることで助かったことはありますか？

- (1) 薬の相談ができる
(飲み合わせ・副作用・相互作用・薬の効果等)
- (2) 薬を一包化してもらえる
- (3) 薬がすぐに受け取れる
- (4) 病気などの相談が気軽にできる
- (5) 急な発熱などの時に市販薬が買える
- (6) 健康相談・いろいろアドバイスしてくれる
- (7) コロナの検査・キットの購入
- (8) 特にない (25件)

健康相談の相手は、家族と答えた方が最も多く、次いで薬剤師、インターネット、友人の順でした。その理由として、家族・友人では、身近にいて相談しやすいと回答した人が多くいました。薬剤師では、薬の知識があり信頼できる、インターネットでは、すぐにいろいろ調べられると回答した人が多く見受けられました。

薬局があることで助かったことは、飲み合わせや副作用など薬の相談ができると回答した人が半数近くいました。

このアンケートで薬局がとても頼りにされていることがわかりました。これからも、薬や健康に対する幅広い知識を持って、地域の方々や患者様のお役に立ち、信頼される薬局・薬剤師になっていきたいと思えます。

白山市福祉健康まつりに参加して

白山ののいち支部 副支部長 中谷光博

2024年9月29日（日）松任総合運動公園で白山市福祉健康まつりが開催され、薬剤師が担当する区画に昨年に引き続き参加させていただきました。

今年のテーマは「被災地復興応援と地域防災」で、能登半島地震や9月の豪雨災害で被災した能登の復興を支援する多様な催し物がメインアリーナ、サブアリーナ、屋外テント村の各エリアに分かれて実施されました。

幸いなことに天候にも恵まれ、今年も多くの来場者で賑わい、各エリア非常に活気に満ちていました。

白山ののいち支部では、毎年恒例のこども薬剤師体験や、血管年齢測定、野菜摂取測定（ベジミル）、お薬なんでも相談（午前のみ）のイベントをサブアリーナで行い、薬剤師と北陸大学の実務実習中の学生が担当しました。



お菓子を分包する様子

毎年多くの方に来ていただいておりますが、今年はこちらもこども薬剤師体験183名、血管年齢チェック156名、野菜摂取測定（ベジミル）126名、お薬相談（午前中のみ）10名が参加し、昨年同様に多くの来場者があり、大変盛況な結果となりました。

こども薬剤師体験では、薬袋の作成とお菓子（マーブルチョコ）の一包化を子供たちに体験してもらいました。

分包機から出てくる一包化されたお菓子に対して不思議そうに覗き込んでいる子供、興味津々で見る子供、親に自慢する子供、お菓子をもらって喜んでいる子供など、リアクションも様々だったのがとても印象的でした。

親御様からは「お薬って出てくるのに時間がかかるのってなんでなのかな？って思ったけど、今日のお薬でなんとなくイメージができました。」などの意見も寄せられ、普段のコミュニケーションの重要性を再認識し、薬剤師としての課題を感じる機会ともなりました。



母親と一緒に分包する様子



子ども薬剤師体験コーナーの様子



血管年齢測定・野菜摂取測定の様子

血管年齢測定・野菜摂取測定では、10代後半～80代まで幅広い年代の方に参加していただき、結果を基に何か気になることはないかお聞かせいただくと「野菜は摂っている方だと自分では思っていた」「前に測ったときは血管年齢がもっと実年齢に近かった。何が原因でこんなことになるのか」「健康診断で動脈硬化指数があるがそれと血管年齢は関係あるのか」「野菜と血管年齢は血圧にも影響するのか」「便秘にいい野菜はなにかあるか」「食べる順番も大事とよく聞くが、何を意識すればいいのかわからない」「医者から運動しろと言われるが足も悪いしなかなか難しい。何かできることはあるか」「天気が悪い時にできる運動はなにかあるか」「自分は今こういう状態だが良いサプリメントはなにかないか」等本当に様々なご意見をいただきました。

うまく返事ができないこともありましたが、そんなときは他薬剤師にも相談したり、必要に応じて医師相談窓口、食生活改善窓口に案内させていただくことで、それぞれの健康改善に少しでも貢献できたと感じましたが、今回のような相談を当たり前にしていただけるような場所としての薬局が今後一つでも増えて欲しいと願います。

それぞれのコーナーでの課題として、子供薬剤師体験コーナーでは、列にただ待っていただくのももったいないので、待機時間を薬剤師ネームプレートの作成（持ち帰り可）、子供用の白衣を用意することで、参加者にリアルな体験を提供し、質の高い時間を過ごしてもらうことができるのではないかと感じました。

また、血管年齢測定、野菜摂取測定では共通して、アドバイスをする時間がどうしても限られてしまうため、測定する場所、アドバイスをする場所を分けることで、より適切なアドバイスを提供することができるのではないかと考え、今後支部で検討していきたいと思えます。

地域貢献の一環として今回、白山市福祉健康まつりに参加させていただき、医療人、薬剤師としての自覚を持って日々の業務に取り組んでいます。まだまだ多くのことができる実感し、薬剤師としての在り方を考え直す良い機会となりました。

今回参加いただいたお子様の中から、1人でも多く医療業界、願わくば薬剤師になりたいと言ってもらえることにつながればと期待し、皆様お一人お一人の健康増進につながることをできるよう、今後も自己研鑽に努めていきたいと思えます。

「ビニールひもで括り付けてある貧弱ないかだ」～ゴールとは何

石川県薬剤師会 中 森 慶 滋

今朝、中庭にある階段を下りてきたとき、雨が降ってきたことに気がついた。今日は雨になることを昨日の天気予報で見たことを思い出した。一週間後の日曜日の天気はどうだろうか。マラソンが行われる10月27日は今のところ曇りで最高気温は21℃とある。

僕にとって、冷たい雨だと足がすぐに攣ってしまいそうで嫌なのだが、それ以外はあまりの低レベルのためどのような環境に置かれようと関係ない。マラソンとは後半どう耐え抜くかということではないからだ。

金沢マラソンの話である。身分不相応なのに今年も応募した。今回で5回目、4回連続当選していたのでそろそろ外れるものと思っていたら、当選のメールが携帯に入っていた。それからは練習を組み立てようと思うのだが今年はなかなかモチベーションが上がらない。何をしても最後はボロボロの状態ではゴールすることは分かり切っている。

目の前に対岸まで遥かに離れた海が広がっているところにいるとしよう。オリンピック選手は高速艇でほんの2時間程度で渡ってしまう。3時間台、4時間台で走り切れる人はそれなりの機能を持った船で出発することになる。

5時間台のランナーからはひどくなる。こんなのでよくこの海を渡ろうとするもの

だと見物客が集まってくるだろう。北朝鮮で使われていた古い木造船ならまだいいものの、あるものは手漕ぎボート、またあるものは帆がついただけのデンギーヨット、そして山中湖に浮かぶ白鳥の足漕ぎボート。どうやってこの荒海を乗り越えようというのだろうか。行けないことはないかもしれないがこれはどう考えても無謀な挑戦でしかない。そのことが4回金沢マラソン（あと一回は能登万葉マラソン）に出てやっと分かったのだ。奇跡は絶対に起こらない。

5時間後半でゴールする僕は丸太を寄せ集めたいかだに乗って行くようなものである。しかも丸太を繋ぎとめているのは漁網に使う頑丈な麻やポリエチレンではなく、梱包に使うビニールひもで括り付けてある貧弱ないかだなのだ。それでも少しずつランニングマシンで距離を伸ばしてきた。3日前には21.4km走ったのであるが膝の裏側が痛くなっている、明日も走るつもりなのだが今朝になって左のふくらはぎが痛い。痛み止めのテープ剤を貼る。去年は28km越えを何度も走ったのに今年は走れなくなっている。

痙攣止めの漢方薬をどういった時飲もうか、栄養の入ったジェルをどのタイミングで飲もうかなどと考えるのだが、そんなことは僕にとって途中で全く意味がなくなり、最後はゴールを目指すゾンビ状態でフラフラになってしまう。

僕にとってゴールとは、いかだを結わえていたビニールひもがあっさり外れてしまい、かろうじて残った一本の丸太にしがみついているところを救助された。そんな感じだ。

それでもいいからなんとか走り抜きたいと思っている自分がある。そしてもし今年も完走したなら「フルマラソン6回、最後まで決してあきらめずゴールを目指し完走した。」と心の隅に自分だけわかるように記憶しておこう。

マラソンを陸上競技種目から市民も出られるように制限時間を7時間（第2ウエーブは6時間45分）とし市民マラソンとしたために僕のような勘違いした市民ランナーも参加できるようになった。しかしこのことを純粋に感謝しようと思う。

そしてマラソン当日を迎えた。

「ゴールは僕にとって何を意味するのか」

金沢マラソンは、完走したもののこれまでになく惨憺たる結果であった。トンネルを越えたあたりの序盤に足を攣ってしまい、絶望の中、絶対完走するんだというかすかな希望を胸に前へと進んだ。山側環状道路で足の痙攣がふくらはぎ全体を覆ってしまい、まったく動けなくなってしまった。そのとき真剣に棄権しようと思った。あまりの悲惨な状態と思われたのか、何人かの人から「大丈夫ですか」とか、「がんばれ」と声をかけられた。山側環状の道路わきに二名のランナーが横になりドクターの到着を待っていた。ドクターとすれ違う。「二人か」という声がうしろから聞こえた。

おばあさんがあなたに言っているのですよと言わんばかりに僕の目の前にうちわを振ってくれて「がんばれ」と声をかけてくれる。これでもうマラソンに応募することはないだろうと思う。こんな状態の僕が出場しているなんて抽選に外れた人に申し訳ないと思う。足が動ける角度を探し出し足を動かしていく。無理するとすぐに痙攣がやってきて立ち止まってしまう。エイドで何かを食べた。そして水を飲んだ。芍薬甘草湯を何度も飲むが痙攣は収まらない。

ときおり吹いてくる風が心地よい。秋の清々しさだと思う。上半身にダメージはない。太ももは大丈夫なのだが、ふくらはぎの筋肉にはわずかの刺激で収縮し筋肉の機能を果たしていない。エイドに並べてあるテーブルを片付けだしているのを目にする。ショックを受ける。ここまで遅かったことはこれまでになかった。

前へ前へと自分に言い聞かせる。情けないという感情に支配される。人生の負け組だ。マラソン参加の資格はそもそもないのにと自分を絶望の状態に追い込んでいる。もう少し行くと折り返しのコースがあるはずだと全体の位置関係を把握している自分に気がつく。この記憶は僕の中にとどめておくべきなのだろうか、それともあっさり忘れ去ってしまった方がいいのだろうか。今回は能登の万葉マラソンよりも悲惨だ。同級生の友人たちの中には腰痛やひざの痛みで歩行することすら苦しんでいる者もいる。「年甲斐もなく」という言葉が頭をよぎる。マラソンに出場するという薬剤師会のメンバーの顔を思い浮かべ、彼らはゴールしているのだろうかと思う。何かを食べたいとか、音楽をゆったりと聴きたいとか

いう欲望はない。ただゴールしてこの肉体的、精神的な苦しみから逃れたいのが今の自分の最大の望みだ。

急にランナーたちが早く走り出した。いったいどうしたのだろうと彼らの背中を見ていた。どうやら関門を通過したようだ。関門通過時間の4分前。女性の比率が多いことに気がつく。明らかな老人が次々と二人僕を抜いていく。みんなよく頑張っている。マラソン最後部の勇者たちだと思う。それでもなお早くゴールをという気持ちが伝わってくる。競技場の照明の足場が見える。小雨が降っている。体全体が雨に覆われ気持ちがいい。競技場に入っていく。「おかえりなさい」と声をかけられる。僕は帰って来たんだとその時思う。

どこに帰ってきたのだろう。ゴールってなに。生きることは苦しみの連続ではないのか。そのとき小4の自分、母親を病気で失い深い孤独と絶望の中にいた少年慶滋を思い出す。

ゲストランナーたちとハイタッチする。猫ひろしさん、野口みずきさんがいる。彼

らも仕事なのだ。こんな僕のようなランナーの気持ちは彼らには一生わからないだろう。いや彼らはもっとハイレベルの苦しみを経験してきて、その苦しみを乗り越えた人生の勝者なのだ。壮観な男性ランナーがハイタッチしてくれる。名前は知らないが彼はきっとランナーたちのレジェンドなのだろう。ほくりくアイドル部が元気よく手を振ってくれている。村山金沢市長に挨拶する。

スタートの号砲より第二ウエーブ15分後でスタートロスが6分なので6時間39分でのゴールだがネットでは6時間33分。あと6分遅かったらゴールできなかった事になる。

様々な教訓があった。負けるという意味。人生とは、そして生きることの悲惨さ。ただひたすらゴールを目指したこと。自分の実力を知るという事の大切さ。それでもゴールを目指したではないかと思う自分がいたこと。

そして再び思ったのである、ゴールとは僕にとっていったい何なのだろうか。

生と死を考えるオンライン講演会 (第75回地域緩和ケアカンファレンス) の紹介

金沢大学附属病院 緩和ケアセンター長 山田圭輔

はじめに

令和6年11月3日に石川県薬剤師会の後援を頂き、金大病院緩和ケアセンターと薬剤部の主催で「生と死を考える」をメインタイトルにしたオンライン講演会を開催した(図1)。筆者が「医療の枠を超える

哲学とパブリックコンパッション」、梅下翔先生(石川県済生会金沢病院薬剤部)が「医療とケアの視点から見る死生観に関して生じ得るジレンマ」、清水研先生(がん研究会有明病院腫瘍精神科)が「死と向き合う患者のこころのケア」のタイトルで講

令和6年度石川県高度・専門医療人材養成支援事業
令和6年度石川県がん診療連携拠点病院緩和ケアセンター

第75回 地域緩和ケア カンファレンス

日時 令和6年11月3日(日)
13:00~14:30

形式 Webexによるオンライン開催
参加希望者は氏名、メールアドレス、所属をメールで
送付一日、メールアドレスに接続用のURLが届きます。

参加申込み方法 【申込期限:11月1日(金)】
事前の参加申込み用URLまたはQRコードからお申込みください。
※当日「キャンセル」に接続用のURLが届きます。
申込み用URL: <https://forms.gle/FsJpSCGGdpBuc5dd6>
QRコード

テーマ **生と死を考える**

開会挨拶(13時00分)..... 山田 圭輔 (金沢大学附属病院 緩和ケアセンター)

講演① (13時05分~13時20分)
**医療の枠を超える哲学と
パブリックコンパッション**
山田 圭輔 (金沢大学附属病院 緩和ケアセンター)

講演② (13時25分~13時50分)
**医療とケアの視点から見る
死生観に関して生じ得るジレンマ**
梅下 翔 (石川県済生会金沢病院 薬剤部)

講演③ (13時55分~14時20分)
死と向き合う患者のこころのケア
清水 研 (がん研究会有明病院 腫瘍精神科)

質疑応答など(14時20分~14時30分)..... 司会: 清水真佐子 (金沢大学附属病院 緩和ケアセンター)
機田 和也 (金沢大学附属病院 薬剤部)

(主催) 金沢大学附属病院緩和ケアセンター、(同) 薬剤部
(共催) 北陸緩和医療研究会、石川県地域緩和ケア研究会 (後援) 石川県薬剤師会

図1. オンライン講演会のチラシ

演を行った。

近年の緩和医療では、病院の中だけでなく、各自の日常生活や地域社会をも対象としてとらえ、広く老病死や喪失を受けとめ支えあうコミュニティを創造することを目標としている。生老病死は、昔から現在も未来にも続く人間の苦悩であるが、医学部や薬学部（あるいは医学会や薬学会）で学び、語られる機会は非常に少ない。

筆者は、金大医学類5年生を対象に「生と死を考える」のテーマで、自由に考え、語り、レポートにまとめる実習を続けてきた。医学生に対して、生老病死を考える際には、1) 科学的な知性（分析的、客観的、学問的等）ではなく、哲学的な知性（類比的、主観的、俯瞰的視点等）を用いること、2) 健康や生命の維持を目標とするだけでなく、老病死と喪失を支えあうコミュニティを創造するために、教育を通して各自の行動に働きかける取り組み（こ



図2. 臨床実習時の記念写真（1班，2024年11月）

れをパブリックコンパッションと表現している）が重要であることを伝えている。

今年度も秋から金大病院で医学生の臨床実習が始まった（図2）。本稿では2024年度の医学類5年生のレポートを紹介する。医師や薬剤師などの多職種で生と死について語り、考え、学びあうことが、老病死や喪失を受けとめ支えあうコミュニティを創造するきっかけになると考えている。

金沢大学医学生のレポート

1) ひめゆり学徒隊

太平洋戦争末期の沖縄では住民を巻き込んだ地上戦が繰り広げられた。ひめゆり学徒隊は、看護要員として動員された女学生らの通称で、教師含め240名が動員され136名が死亡した。生き延びた元学徒の方々は、長らく自身の体験を語ることはなかった。生きていることに対し罪悪感を抱き、友人と一緒に死にたかったと思ひ苦しんだ。

戦後40年を経て、元学徒の方々は後世に沖縄戦のことを伝えねばならない、友人の生きた証を残したいと思うようになり、1989年に沖縄県糸満市に「ひめゆり平和祈念資料館」が開館した。戦争体験を語る中で、苦しく感じることもあったが、次第に伝えることのやりがいも感じるように

なったそうだ。元学徒の方々が生きることにより前向きになり、体験を語ることで自分が抱えていた苦痛を多少なりとも和らげたのではないだろうか。

戦争だけでなく震災や事故などトラウマをもつ人は多くいる。この先に出会う患者も、皆異なる人生を歩んでおり、死生観も十人十色である。医療者として、①患者の話に耳を傾けること、②多様な考え方を否定しないこと、③周りに流されるのではなく自分の意見も必ずもつことを心がけ、患者やチーム医療のスタッフと良好な信頼関係を築いていきたいと考える。

2) PLAN75 (第95回アカデミー賞・外国語映画賞部門日本代表作品、2022年)

未来の日本を舞台とした作品である。政府は、75歳以上の高齢者が自ら命を絶つことを支援する政策「PLAN75」を施行し、超高齢化社会を食い止めようとする。78歳のミチは、身寄りのない未亡人でホテル清掃員として働いていたが、高齢を理由に解雇されてしまう。社会の支えを失った彼女は、孤立しながらも「生きたい」という小さな願いを抱き続けるが、徐々に「自由」とされる選択肢へと追い詰められていく。経済的困難や疎外感の中で孤独を感じた人はどのように生きようとするのか、周囲の人はどのような支援ができるのかを問いかけ、その葛藤に焦点を当てている。

PLAN75のような政策はなかったとしても、過去や現代の日本でも、上記のような葛藤を繰り返しており、医療現場はその縮図のようなところかもしれない。医療者は、患者の選択の裏にある本音や、孤独や自己否定の感情にも意識を向けなければならない。医療者の役割は、患者が生きる理

由を見つけ、尊厳を持って人生を全うできるように寄り添うことであり、生と死を問う選択を安易に受け入れるのではなく、「共に生きる理由」を模索する姿勢が、真の支援として求められているのだと感じた。

3) 能登半島地震

誰もが分かっている、誰にも等しく訪れる今生の別れが死である。だが現代を生きる我々は、死をどこか遠い他人事のように感じている。自分の死はもちろん、親や兄弟、祖父母なども、いつまでも元気で共にいるようにすら感じている。しかし、死は確かに身近に存在している。金沢から車で1.5時間の場所にある輪島市門前町は、今年元日の能登半島地震に襲われた。「おめでとう」「お参りに行ってくる」「久しぶりに会えたね」、どこでも見られるお正月の家族団欒の楽しいお祝いの気分が一瞬で恐怖と絶望に変わった。

11月になりイルミネーションが煌めく金沢の街とは対照的に、門前町では今でも復旧作業が続いている。私は何度も復旧のお手伝いにでかけ、カオスを肌で感じた。死を感じた時、自らの生を再び考えることができる。私は生きているのではなく生かされていると考えるに至った。

死には、災害のように突然訪れる死と、癌のようにある程度予期されうる死がある。いずれの死でも、逝く側と遺される側の双方に心のざわめきがある。能登半島地震での死と、病院実習での患者さんの死に接した経験から、当事者と自身の心のざわめきに触れた。人の心がざわめく時、他者にも自身にもどう接するのか、これからも現場で活動しながら、模索を続けたい。

4) 銀河鉄道の夜 (宮沢賢治)

同級生たちが星祭りを楽しむ中、一人で町はずれの丘へ向かったジョバンニは、気がつくやうに銀河鉄道でカムパネルラと共に旅をしていた。本当の幸(さいわい)について話す中で、ジョバンニは「みんなの幸のためならば、僕の身体なんか百ぺん灼いてもかまわない」と述べている。一緒にどこまでも行こうと語りかけるが、カムパネルラは姿を消しており、彼は元の丘で目を覚ます。その後、カムパネルラが川に流された友人を助けて、自らが死に至ったことを知る。宮沢賢治は、死とは透明な複合体に戻ることで、また別の姿になるまでの過程であると捉えている。人間の死をこのように捉えることで、自己犠牲も自然な営みであり、幸福につながると考えている。

人の死は絶対的な終わりを意味すると考える人が、私を含めて大半だろうが、上記の考え方は死に向き合う大切な心構えだと感じた。死が迫った状況において、この世での自分の役割をやり、次の役割が自分を待っていると思うことは、苦しみを受容して気持ちを切り替えることに繋がると思う。

臨床実習でも患者の死に立ち会う機会があったが、今後はさらに増え、より近くで見届けることになるだろう。死とは、また別の姿になるまでの過程であるという考えを紹介したが、患者にこれを押し付けるわけではない。患者が自分の死を受容し、前向きな気持ちで人生を締めくくれるように、患者に寄り添い、向き合うことで患者の痛みを理解したい。

5) 新世紀エヴァンゲリオン劇場版 (旧劇場版)

14歳の少年碇シンジは、汎用人型決戦

兵器エヴァンゲリオンに搭乗し、迫りくる謎の敵、使徒と対峙する。その中でシンジはいくつもの辛い現実に対面し、拒絶し、怒り、逃避し、乗り越えようとする。シンジの姿からは、死という受け入れがたい理不尽な現実を目の当たりにし、否認、取引、怒り、抑うつを経て受容に向かう患者さん達と似たものを感じた。

本作品を通して「人は苦境の中をいかに生きることができるか」に関する一つの答えを見出した。それは「受け入れがたい現実であっても、受け入れ次第で、真実へと変化させることができる」ということだ。人は現実を咀嚼して、自身の中に真実を作り出す。多く人は、晴れの日気分がよく、雨の日憂鬱であると思込んでしまうが、現実を咀嚼する方法を上手に行うことができれば、自身の中の真実をより良いものにできる。受け入れ難い現実も、自分を見つめ直すことで、受け入れられる真実にできるかもしれない。

ただし、現実を真実にするのは当人であり、無理やり各人の咀嚼方法を変化させることはできない。医療者が行える支援は、各自の中で現実を解釈した真実があることを理解したうえで、現実を否定するだけでなく、どのように受け入れることができるかを共に考え、提案していくことだと考える。

6) 日曜日の太陽 (THE NEUTRAL)

日本のロックバンド THE NEUTRAL の曲を紹介した。この歌の内容を要約すると「いつもの待ち合わせ場所に、君はもう来ない」というもので、一見すると失恋ソングのようでもあるが、実は自殺した親友に手向けた歌である。私には、身の回りの人が自殺したという経験はないが、ニュー

スなどで自殺の報道を見ると少なからず悲しい気持ちになる。特に2020年に三浦春馬さん、竹内結子さんが立て続けに原因不明の自殺をしたとの報道があり、非常に驚いた。私は特に彼らのファンというわけではなかったが、自分よりも遥かに優秀で、素晴らしい人生をおくっているはずの方々なぜ自死を選ばなければならなかったのか、彼らよりも遥かに無能で怠惰な私がなぜのうのうとお気楽に生活しているのかと、当時コロナ禍で殺伐とした自粛ムードがあったのも手伝ってか、考える必要のないことまで考えてしまい、非常に落ち込んだ。

自殺者の中で最も多い原因理由は、健康面での問題である。私が医師として関わっていく患者の中にも、人生に絶望して自殺を図ろうとする方は少なからずいると思われる。人は、いつか自らの死を受け入れなくてはならないが、私は患者が自らを傷つけることなく穏やかな最期を迎えられることを心から願う。

7) 桂歌丸師匠の落語

私が高校生の頃、落語家の桂歌丸師匠は、慢性呼吸不全や腸閉塞などで入退院を繰り返していた。今回、高座に復帰した歌

丸師匠の落語を聞きに行った時のことを紹介した。通常は、噺家は出囃子と共に舞台のそでから中央の座布団まで歩いて登場する。しかし歌丸師匠の出番の際は、出囃子が鳴り響きながらも幕は閉じたままで、お弟子さんたちが車椅子に乗った師匠を運び、準備が完了したら幕を開け、座布団に座った師匠が登場する仕様だった。

歌丸師匠は、経鼻チューブで酸素投与を受けており、筋力低下のため正座ができなくなっていた。身体はやせ細り、先が長くない印象を受けた。しかし、噺が始まるとその迫力に圧倒された。幾度と入退院を繰り返し、身体が衰えようとも長年培ってきた芸は衰え知らずであった。

歌丸師匠は医師から舞台復帰を諦めるように言われていた。しかし彼にとっては、身体的苦痛よりも、噺家を辞めることの方が苦痛が大きかったのだろう。医師は、病気を治したり症状を改善させたりすることを重視しがちである。しかし彼のように、身を削ってでも大切にしたい生きがいを持っている人もいる。私は、患者さんの生きる上で大切にしているものを尊重し、考えなしに無理と言うのではなく、希望を叶えることができるように試行錯誤できる医師になりたいと思う。

薬局を飛び出してこども達に薬剤師の仕事を知ってもらおう!!

株式会社スパテル 村 井 陽 子

てまり薬局では、薬局店舗内で行っていた「こどもお薬教室」の開催を、地域施設からの依頼を受けて、薬局外で開催するという取り組みを一昨年から行っています。

2024年度は、小松市立西部児童センター、石川コミュニティセンター、野々市

市立野々市小学校PTAの3か所から依頼があり、それぞれ7月、8月、11月に開催しました。

お薬教室の内容は、

- ① 薬剤師の業務、薬についての紙芝居式講義



- ② チョコレートやグミを分包機で一包化
- ③ ジュース用粉末を散剤として分包
- ④ カルピスを使って水剤の調整
- ⑤ パン用のクリームを使った軟膏調剤

参加人数は、3か所合計170名！（小学1年生～6年生）

夏休み期間中の平日や土曜日の薬局営業中の開催のため、運営スタッフを確保するために実務実習生や薬学生にボランティアとして参加してもらいました。

子ども達は、紙芝居中の薬剤師の仕事や薬についての問いに、元気に手を挙げて答えてくれましたし、お菓子を使っての調剤体験では、説明を一生懸命聞き、ひとつひとつ丁寧に作業を行ってくれました。また、子ども達の笑顔にスタッフもいつも以上の笑顔が見られたと思います。

終了後のアンケートでは、



「薬をつくるのがこんなに難しいと思わなかった。これからは大切に飲みます」

「どの体験もとても楽しかった」

「薬剤師の仕事に興味を持った」

など、うれしい感想が書かれていました。薬局に来て薬をもらったことがあるにもかかわらず、「薬剤師が何をしている人なのか？」「薬はどうやって作られているのか？」を知っている子ども達は少なく、最初に薬剤師の仕事の説明を行い、調剤体験を合わせることで、薬剤師について、そして薬についての知識や服薬の意識が高まることを実感しました。

「将来薬剤師になりたいと思った人は？」の問いかけにすべての会場で手が上がりました。この中から、未来の薬剤師が出ることを願っています。

イギリスの医療事情、薬局・薬剤師事情について

瑠璃光薬局基石ヶ峰登り口店 山崎敏誉

2024年11月19日～24日 一般社団法人日本保険薬局協会の主催するヨーロッパ研修に参加させていただきました。訪問地はイギリス ロンドンとスペイン バルセロナです。イギリスでの滞在がメインで、ロン

ドン大学、ロンドン大学附属病院、コミュニティ薬局（BOOTSというチェーン薬局）、王室御用達の老舗薬局（John Bell & Croyden）、英国薬剤師協会と視察してきました。ここでは主にイギリスの医療事



バッキンガム宮殿



タワーブリッジ

情・薬剤師・薬局事情について研修してきたことを紹介したいと思います。

【イギリスの医療事情について】

イギリスは英国（イングランド）、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドからなる連合王国で、国土は24.3万km²で日本のおよそ2/3、人口は2021年現在約6,733万人の国です。医療についてはNHS（国民保険サービス：国営の医療保険制度）で全体の9割、自費サービスが残りの1割を占めています。イギリスの総医療費について、2014年には1,292億ポンド（日本円で約25.5兆円）であったのが2021年には2,870億ポンド（日本円で約56兆円）と年々増加傾向にあります。医療費の支払いについては原則無料、処方薬については有料（1処方1か月分で定額9.9ポンド（日本円で約2,000円））です。日本のようにどの病院やクリニックにいつでも自由に受診できるわけではなく、一旦近隣のGP（かかりつけ医・固定）を受診することになります。イギリス全体でこのようなGPのいる診療所が約8,000カ所あり、専門的な医療が必要かどうかの判断をしています。一人のGPあたり、500～2,000人の登録患者を受け持っています。すぐに受診で

きるわけではなく予約制となっていて、2～3日は当たり前、2週間以上待つてから受診するケースもあるようです。GPを介さずに受診するときには自費診療となります。そのため少しの風邪といった軽微の疾患の場合は、GPの受診よりも薬局・薬剤師に相談するケースが多くあります。

【イギリスの薬剤師・薬局事情について】

イギリスには約67,000人の薬剤師がいます。その70%は薬局薬剤師であり、20%が病院勤務（国家公務員）、残りが製薬メーカーその他に勤務しています。近年はGP（かかりつけ医）と同じ診療所で働く薬剤師も増えており、診察前の患者相談（治療にかかる臨床的アドバイス、ポリファーマシーなど）やGPの処方支援などを行っています。薬剤師テクニシャンという病院・薬局での調剤補助を担う国家資格もあり、専門学校で養成が行われています。薬剤師となるには、4年制の薬学部を卒業し1年間の実務研修（インターン）を経てから薬剤師国家試験に合格することが必要です。薬剤師免許も更新制で毎年1年間の実績報告を行うことで更新されます。（主に薬局の）薬剤師の役割としては、調剤、リピート処方（アメリカのリフィル処



独立薬局の様子

方と同じ)、大衆薬の販売などが必須であるが、また適切な病院の紹介や年に6回の禁煙・紫外線防止キャンペーンなどの実施、使用しなかった薬の回収、インスリンの使用済みの注射針の回収なども行っています。高度サービスとしてはカウンセリング、医療器具の使用見直し、ストーマケアなども行っています（カウンセリングルームが設置されている薬局に限定）。また付加サービスとしては緊急避妊薬の提供（GPに行っていると間に合わない場合があるので）、血圧測定、血液検査の実施、予防接種の実施、妊娠判定、クラミジア、ピロリ菌の検査、麻薬剤の管理、抗生剤の提供など多岐にわたります。特にコロナ禍の影響もあって薬剤師の予防接種のニーズは広がったそうです。見学した薬局におい

てもエソメプラゾール、エルデカルシトールなど日本で胃腸用医薬品となっている薬のスイッチOTC、新型コロナ抗原検査薬以外にも甲状腺検査薬・ピロリ菌検査薬など検査薬が、患者の手の届くところに陳列されていました。

また2010年から薬剤師は26日間のコースと実際の処方医のもとでの12日間の実務研修を行うことで独自に処方箋を書くことができる処方証明書を発行してもらえることができるようになり、2011年では2～3%の薬剤師が、2018年には約11%の薬剤師が、コロナ禍を経て2023年には25%の薬剤師が登録を受けています。そして2026年からは新卒を含むイギリスのすべての薬剤師で独立して処方箋が発行できるようになります。大学で4年間のカリキュラム、1年間のインターンの中に臨床にかかる内容が付加され、就学年数などには変更がありません。この背景には、医療ニーズの増加の中での医師不足、医師の業務を補完する目的もあったように思います。診断は医師にしかできないので、慢性疾患などについては診断のついでに患者に対しての対応となるようです。英国薬剤師協会にはほぼすべての薬剤師が加入しており、薬剤師の生涯教育の支援や医薬品の開発支



薬局のカウンセリングルーム

援、薬剤師による処方支援、各種キャンペーンなどを担う役割を担っています。薬剤師のキャリア支援として、新卒のレベル薬学修士—学部卒業（4年+1年の基礎訓練）から、5年目のポストレジ基礎カリキュラム、コアの上級薬剤師のカリキュラム（ゼネラリスト、スペシャリストとしての資質養成）、その上のコンサルタント薬剤師カリキュラムまで段階的に支援を行っているようです。薬剤師の再登録についても、英国薬剤師協会の支援プログラムを経て復帰していけるようです。薬剤師を生涯にわたり支援する仕組みがここにあるようでした。

【終わりに】

この研修を通して、イギリスの薬局・薬剤師は地域住民の健康を担うために多くの

役割を担い、実践している様子を知ることができました。法的・社会的背景・医療事情の違いもありますがイギリスの薬局薬剤師は、医療需要の増大・医師不足の中、地域医療を担い補完する大切な役割をしてくれていると思われます。日本の医療制度は、好きな医療機関を患者側の意思で安価に自由に受診できる点で大変恵まれているといえますが、医療費増大の流れの中での疲弊や制度の変革も課題となっています。薬局薬剤師として日本の現行の制度化においてもまだまだやれることが多くあると思います。

これからも薬局薬剤師として住み慣れた地域での患者の健康支援に向けて、また医師や多職種と共に地域の医療を支える役割の一助となれるよう、研鑽と実践を一層深めていきたいと思いました。

第10回石川県パドルテニス選手権大会 「復旧」・「復興」・「復活」に出場して

石川県薬剤師会 藤原秀範

令和6年10月31日（木）、第10回石川県パドルテニス選手権大会が金沢市総合体育館で開催されました。この大会には、輪島市をはじめ県内各地から10のクラブが参加し、団体戦16チーム、個人戦では116名の選手が熱戦を繰り広げました。例年、輪

島市パドルテニス協会が主管して輪島市で開催されている大会ですが、元日の能登半島地震や9月の豪雨の影響で開催が危ぶまれていました。しかし、「復旧」「復興」「復活」をスローガンに掲げ、輪島市のクラブチームからも多くの選手が参加して、大会が開催されました。

輪島市から参加した選手の中には、自宅が全壊し避難所から出場された方もいました。練習の機会がほとんどない厳しい状況の中でも、選手たちは培った技術と気持ちを頼りに素晴らしいプレーを披露し、「復旧」「復興」「復活」への強い意志を感じさ



開会式（県パドルテニス協会会長、副会長）



試合会場の様子



表彰式

せる戦いぶりは、見る者の心を打ちました。

私自身も、この大会には特別な思いを持ちながら参加しました。初任地が輪島保健所（現：能登北部保健福祉センター）であったこと、能登半島地震で県薬災害対策本部の支援活動に従事していたこと、そして珠洲市や能都町、穴水町の甚大な被害を目の当たりにした記憶が蘇ったからです。

個人戦では、一般男子ダブルスにエントリーし、大学テニス部の先輩（元メーカー勤務の薬剤師）とペアを組みました。第7回大会では先輩と組んで3位だったため、今回はリベンジを目指しましたが、業務に追われ練習不足の不安を抱えての出場となりました。一般男子の部には各クラブの強豪7ペアがエントリーし、4試合の勝敗、直接対決、総得失ゲーム数の差で順位を決定します。

初戦は優勝経験のある強豪との対戦でしたが、リラックスしてボールに集中することを心がけ、先輩が要所で決めてくれたおかげで接戦を制しました。その後の試合でも集中力を維持し、見事全勝で優勝を勝ち取ることができました。この勝利は、先輩との「薬薬連携？」があってこそその成果であり、心から感謝しています。

団体戦では男子ダブルス、女子ダブルス、ミックスダブルスの3試合を行い、2勝したチームが勝利となります。予選は4グループに分かれ、各グループの1位が順位決定戦に進出します。私は男子ダブルスでも先輩とペアを組み2勝を挙げ、団体3位になった輪島市のチームとのミックスダブルスでは接戦の末に勝利しましたが、チームとしては惜しくも予選敗退となりました。それでも、練習不足という厳しい環境の中で輪島市の選手たちが見せてくれた

第10回石川県パドゥルテニス選手権大会(31日・金沢市総合体育館)北國新聞社後援金沢で団体16チーム、個人116人が熱戦を繰り

長田・藤原と
細川・横関V

各クラスの優勝者

△女子ダブルス ①細川・横関②

△女子シングルス ①藤原②

△男子シングルス ①長田②

△男子ダブルス ①細川・横関②

△混合ダブルス ①細川・横関②

△団体 ①レインボー②ヒュー

△個人▽男子ダブルス ①長田・藤原②山田博之・上平純史(やまとクラブ)▽シニア男子ダブルス ①丸田恒彦・北村士郎(レインボー)②丸田恒彦・山形啓一(かほく倶楽部)▽シニア男子シングルス ①丸田恒彦②山形啓一(かほく倶楽部)▽シニア女子ダブルス ①荒木謙一・山下三三(能登倶楽部)②下村健一・高橋(夫ヒューティ)③鈴木健明・地崎隆人(津幡クラブ)

△女子ダブルス ①細川・横関②

△女子シングルス ①藤原②

△男子シングルス ①長田②

△男子ダブルス ①細川・横関②

△混合ダブルス ①細川・横関②

△団体 ①レインボー②ヒュー

△個人▽男子ダブルス ①長田・藤原②山田博之・上平純史(やまとクラブ)▽シニア男子ダブルス ①丸田恒彦・北村士郎(レインボー)②丸田恒彦・山形啓一(かほく倶楽部)▽シニア男子シングルス ①丸田恒彦②山形啓一(かほく倶楽部)▽シニア女子ダブルス ①荒木謙一・山下三三(能登倶楽部)②下村健一・高橋(夫ヒューティ)③鈴木健明・地崎隆人(津幡クラブ)

西出紀子・松本まさみ(能登倶楽部)▽シニア女子ダブルス ①徳丸芽子・奈美(レインボー)②杉本奈美・川岸典子(かほく倶楽部)▽シニア女子シングルス ①中野二恵(レインボー)②小上防博(シニア女子ダブルス)①ラビ②藤堂敏子・岡本正子(ヒューティ)③吉本カツ子・斎藤道子(加賀野クラブ)

北國新聞 朝刊
20241101

「復活」を感じさせる生き活きとしたプレーには、大いに勇気づけられました。

この日は、私の60代最後の日でもありました。個人戦と団体戦を合わせて計7試合を戦い全勝、さらに個人戦で優勝を成し

遂げるといふ、忘れられない一日となりました。そして翌日の11月1日、私の70歳の誕生日には試合結果が新聞に掲載され、古希の記念日をより一層特別なものにしてくれました。

【パドルテニスとは】

パドルテニスを分かりやすく表現すれば、サッカーに対するフットサルのようなテニスの縮小版スポーツです。テニスをアレンジした競技は数多くありますが、板状のラケット（パドル）やテニスボールと同じくフェルト付きながらも空気圧の柔らかいボールを使用すること、コートがテニスの約1/3であること等いくつかの点を除き、基本技術やルールがほとんどテニスと同じなので、安全で親しみやすいラケットスポーツです。

(出展：一般社団法人日本パドルテニス協会)

冷蔵庫の奥に長いあいだ放置されていた魚の干物がまだ食べられるかどうかを精査するような目で

中 森 慶 滋

村上春樹氏の短編集「一人称単数」を再読した。その中の「ウイズ・ザ・ビートルズ With The Beatles」から。付き合っている彼女の妹と三人で一度映画を見に行ったことがあるときのことが出てきた。その時気に入っていた彼女には兄と妹がいた。

僕のガールフレンドには兄が一人と、妹が一人いた、妹は中学校の二年生だったが、姉よりも五センチほど背が高かった。そして年齢の割に身長が伸びすぎた女の子が大概そうであるように、とりたてて可愛い見かけではなかった。

「ウイズ・ザ・ビートルズ
With The Beatles」村上春樹著

そんな妹のことを次のように表現していた。それが読んだこの本の中でいちばん印象に残った小説の一節である。

妹は僕に対して、あまり好ましい感情を持っていないようだった。顔を見合わせるたびに彼女は、いつも奇妙に感情を欠いた目で・・・冷蔵庫の奥に長いあいだ放置されていた魚の干物がまだ食べられるかどうかを精査するような目で・・・僕を見た。そしてその目つきは僕をいつも、何かやましい気持ちにさせた。なぜかは分からない



が、彼女が僕を見るとき、彼女は僕の外見をほとんど無視して（たしかにそれほど見るべき外見ではなかったにせよ）、僕という人間の内奥をまっすぐに透視しているみたいに感じられた。

「ウイズ・ザ・ビートルズ
With The Beatles」村上春樹著

最近印象に残った映画がある。

映画「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」この映画をAmazon Primeで見た。親とぎくしゃくして人生に希望を感じなくなっていた母子家庭の女子高生の百合は、母親とけんかして、いつも通う通学路にあった洞窟に駆け込んだ。そこは戦時中に掘られた防空壕であった。天候は荒れ雷が落ちたとき戦争末期の1945年6月14日にタイムスリップする。百合は昭和の戦時下で素敵な青年に恋をする。その青年は特攻兵として戦地に赴いていったというストーリーである。映画を見た僕はそれから原作を読んだ。

高市早苗氏は総裁選挙でこの映画を紹介し「いま私たちが平和で暮らしているのは特攻で命を懸けてこの国を救おうとした人たちの犠牲の上に成り立っている。」と書いた。これを聞いたとき僕はこの映画を見ようと思ったのだ。主演女優の福原遥の演技に深く共感し涙が流れた。この映画は2023年の12月8日、つまり真珠湾攻撃が行われた日に封切られた。

特攻に出撃する日が決まったとき百合（福原遥）は特攻で戦地に向かう彰に「あの百合の花の丘で会える？」と誘う。そして満天の星の下、百合は今から一緒に逃げてほしいという。「日本は負けちゃうんだ



よ、特攻で死ぬなんて意味のないことなんだよ」と彰に言う。

その時その丘からは満天の星が輝いていた。

「…………うわ…………っ」

私は思わず叫んだ。

「何これ、すごい…………」頭上に、満天の星空が広がっていた。

深い藍色の空を隙間なく埋め尽くす、星、星、星。

小石のように大きなきらめきを四方に放つ星から、細かな砂粒のように小さな星まで、数え切れないほどの星が輝いていた。

私が知っている夜空とは、星の明るさもその数も、圧倒的に違っている。

「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」

汐見夏衛著

そして二人は恋に落ちた。

彰が特攻に行く前に二人は永遠の別れをする。それで納得したつもりだったので、百合は飛行場にはいかないという。掃除をしていた時に戸棚から「百合へ」と彰が書いた手紙が落ちてきた。その瞬間百合は飛行場に行くことにする。

間に合って。お願いだから、間に合って。

（神様だか仏様だか知らないけれど、私は祈った。

こんなにも救いのない、無惨な狂った世界を作った神様。彰の死を無情にも見過ごそうとしている、残酷な神様。

せめて今日くらいは、最後まで、私の願いを叶えてよ。

基地の飛行場、滑走路が見えてきた。

自分の呼吸音がうるさい。息が苦しい。全身が痛い。苦しい。苦しい。

「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」

汐見夏衛著

「百合の花」を手に抱えゼロ戦に乗り込んだ彰は機上から百合の姿を見つけ敬礼し飛び立っていった。

そして……。

防空壕で目覚めた百合は現代の日本に戻っていることに気がつく。

当たり前のように学校に通えて、きれいな青空をのんびりと眺めることができる。

お腹いっぱいにご飯が食べられて、たっぷりとお湯を張ったお風呂に入ることができる。クーラーのきいた涼しい部屋でごろごろマンガを読んで、夜遅くまで電気をつけていたって命の危険なんかない。空襲の恐怖に怯えながら浅い眠りについて、いつでも逃げられるように大事な荷物をまとめておく必要もない。

本当に幸せだ、と実感する。

私たちは、日常的に命の危機を感じながら生きたりする必要がない。こんなに満ち足りた生活をしていて、あの頃の私は、

いったい何が不満だったんだろう？現代の日本は、本当に幸せだ。

（略）

ここが、彼らの守ろうとした世界だ。

ここが、彼らが自らの命を犠牲にしてまで叶えようとした平和だ。

空の真ん中を、飛行機が飛んでいくのが見えた。白い飛行機雲が青い空にぽっかりと浮かび上がる。

私は空を仰いだまま、ゆっくりと目を閉じた。

臉に感じる太陽の熱。

あの時代には、こんなふうののんびり空を見上げることさえできなかった。空を切り裂くように横切っていく爆撃機にみんなが怯えていた。

でも、今は違う。この日本では、誰ひとり飛行機の影に怯えたりはしていない。

「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」

汐見夏衛著



第64回北陸信越薬剤師大会・第57回北陸信越薬剤師学術大会 開催要綱

テーマ Think QUALITY 私はこのように聞き視て考え そして活動した

主催 北陸信越薬剤師会・公益社団法人石川県薬剤師会

会期 令和7年2月22日(土)～24日(月・振休)

会場 金沢大学宝町キャンパス 十全講堂、医学部記念館
〒920-8640 金沢市宝町13-1

日程

2月22日
土曜日

17:30	19:00	19:30	21:00
WEB開催	World Session I	休憩	World Session II

2月23日
日曜日

12:30	13:30	14:45	15:45	16:00	18:00
十全講堂 (WEB/ハイブリッド)	受付	薬剤師大会	特別講演	休憩	シンポジウム①
		機器展示			
医学部記念館 (現地のみ)		ポスター閲覧			

2月24日
月曜日(振休)

8:00	9:00	10:30	11:00	12:30
十全講堂 (WEB/ハイブリッド)	受付	シンポジウム②	休憩	シンポジウム③
		機器展示		
医学部記念館 (現地のみ)		ポスター閲覧	ポスター 示説	ポスター閲覧

World Session



テーマ「世界の薬剤師と能登半島地震から考える」

Session I 「各国の災害対応」

Session II 「世界から日本の薬剤師を考える」

特別講演



演題「Positiveに生きる。能登半島地震で私が考えたこと」

講師 葦原 海氏 (モデル/パフォーマー)

シンポジウム①

テーマ「能登半島地震が我々に残したもの」

シンポジウム②

テーマ「いきるといふこと・・・能登半島地震を経験して」

シンポジウム③

テーマ「生成AIが変える新世紀薬剤師の未来」

参加者の声

あなたの声を参加登録の際にお聞かせください。

「あなたが人にやさしくなった時」「病気が生き方を変えた気付き」などを、参加登録の際にお書きください。それをまとめ、みんなで共有したいと思います。

学術大会

シンポジウム・一般演題(ポスターのみ)

開催方式

現地参集及び一部WEB配信のハイブリッド方式での開催となります。

参加費

参加登録料(現地・WEB) 8,000円・北陸信越薬剤師会会員 5,000円(薬学生 無料)

参加申込

参加登録は事前にアスyakLIFEで行い、登録料は指定した方法でお支払いください。

大会事務局

公益社団法人 石川県薬剤師会 〒920-0032 石川県金沢市広岡町イ 25 番地 10
TEL: 076-231-6634 メールアドレス: kenroku@plaza-woo.jp

その他

詳細については、石川県薬剤師会ホームページをご参照ください。
(<http://www.ishikawakenyaku.com/>)



石川県薬剤師会
ホームページ

会務・事業予定（令和7年1月～3月）

公益社団法人 石川県薬剤師会

月	日	曜	本会会務等	一般会務等
1	1	水		令和6年能登半島地震・令和6年奥能登豪雨犠牲者追悼式（日本航空学園能登空港キャンパス：中森会長）
	6	月	第10回開局常任幹事・支部長会（Web開催）	
				2025年度実務実習に関する説明会（Web開催：藤原副会長）
	14	火	第10回常務理事会（Web開催）	
	15	水		第4回都道府県会長協議会（日本薬剤師会：中森会長） 新年賀詞交歓会
	16	木		第2回都道府県薬剤師連盟会長会（AP日本橋：中森薬連会長、橋本薬連副会長兼幹事長） 本田あきこ中央後援会 令和6年度第2回役員会（AP日本橋：中森薬連会長、橋本薬連副会長兼幹事長）
	19	日	健康サポート薬局に係る研修会（Web開催）	
	22	水		第3回薬学教育協議会北陸支部総会（Web開催：藤原副会長）
	26	日	第10回薬剤師PS講座イノベーション研修会（石川県薬剤師会とWebのハイブリッド開催）	
	31	金		金沢大学白衣式（金沢大学：柏原副会長）
2	1	土		第33回認定薬剤師認証研修機関協議会（山上会館：藤原副会長）
	2	日	第2回理事・支部長・職域部長・薬連評議員合同会議並びに第3回理事会（Web開催）	
	9	日		JPLフォーラム（AP日本橋：）

月	日	曜	本会会務等	一般会務等
	13	木		本田あきこ中央後援会事務担当者連絡会議 (Web開催：谷内事務局長)
	14	金		第4回石川県四師会交流のつどい(場所未定：)
	16	日	第11回薬剤師PS講座イノベーション研修会(石川県薬剤師会とWebのハイブリッド開催)	
	22	土		第64回北陸信越薬剤師大会/第57回北陸信越薬剤師学術大会(金沢大学十全講堂、医学部記念館)
	23	日		
	24	月		
3	13	木		薬事情報センター実務担当者等研修会(Web開催：橋本副会長、藤原副会長)
	15	土		第105回日本薬剤師会臨時総会(ホテルイースト21東京：綿谷副会長)
	16	日		
	26	水		日本薬剤師連盟定時評議員会(場所未定：中森薬連会長、橋本薬連副会長兼幹事長) 第2回本田あきこを激励する会(場所未定：中森薬連会長、橋本薬連副会長兼幹事長)
	30	日	第129回臨時総会(石川県地場産業振興センター) 保険業務研修会(Web開催)	

連盟だより

北陸三県若手薬剤師指導者育成フォーラム2024開催報告

石川県薬剤師会 開局部会 常任幹事 北 一 晃

令和6年9月8日(日)、北陸三県若手薬剤師指導者育成フォーラムが石川県で開催され、富山、福井、石川県の若手薬剤師が集まりました。当初、能登半島地震の影響で日程が延期されましたが、コロナ禍も収束し、マスクを外して顔を合わせながら活発な議論が行われました。

来賓として石川県選挙区衆議院議員の小森たくお議員、金沢市議会議員のうだひろき議員、そして日本薬剤師連盟副会長の荻野構一先生をお迎えし、それぞれご講演いただきました。小森議員は実際の活動を通じてのSNS運用について、うだ議員は政



治への関心や興味を、荻野先生は薬剤師連盟や議員活動、そして政治との関わりについて語られました。

本フォーラムでは「困難を超え、SNSで未来を創るー明日を変える行動ー」というテーマのもと、2つのディスカッションテーマが掲げられました。

1. SNSを通じて社会や災害時の薬剤師活動をどう周知させるか

各県の薬剤師が震災時にどのように支援活動を行ったか、発災県としての石川県と支援する側に立った富山県、福井県の経験を共有し、SNSを活用して伝えるべきこと、今後の改善点について議論しました。

2. SNSを活用し、薬剤師議員の活動を周知し、選挙にどのように臨むか

参議院選挙が迫る中、薬剤師議員を国政に送り込むため、SNSを活用してその活動を広める方法について議論しました。

各グループから多様な視点が提示され、自由な発想で意見が交わされました。参加者の皆さんは、講師陣から学んだ知識をもとに、震災や薬剤師の役割を自分事として捉え、積極的にディスカッションを行いました。また、SNS活用に関する議論では、創造的で自由な発言が飛び交い、硬くならず意見を交わす貴重な場となりました。

参加者一同が今後の活動に向けてさらなる飛躍を遂げることを期待致します。

北陸三県若手薬剤師指導者育成フォーラム2024に参加して

笠原健招堂薬局 笠原 秀行

今回「テーマ：困難を越え、SNSで未来を創る－明日を変える行動－」へ参加しました。

石川県1区衆議院議員の小森たくお議員と金沢市議会議員のうだひろき議員からはSNS運用や政治への関心・興味について、日本薬剤師連盟副会長の荻野構一先生からは調剤報酬改定（薬剤師の生活担保の源）についてそれぞれ話を聞かせて頂きました。

その話を踏まえた上で行った2つのディスカッション「SNSを通じて社会や災害時の薬剤師活動をどう周知させるか」、「SNSを活用し、薬剤師議員の活動を周知し、選挙にどのように臨むか」について、意見を交わし見識を広めました。

「参議院議員は職域（薬剤師）の代表」、「選挙区は選挙区のための利益だけを考える」、「衆議院議員は各区の利益を考える人であり発言力が大きい」など、政治に普段から関心ある人にとっては当たり前の事でも、中学時代の公民で赤点だった自分にしては新鮮な知識でした。

今まで、政治の話は小難しいという漠然

とした理由で拒否反応を起こしていました。

しかし、身近で政治絡みの事件が起きてから自分の生活・人生に密接に関わっている事を実感した後は興味関心を持ち、行動を起こすようになりました。

また、話し合いの中で、某大手ドラッグストア勤務の先生から「勤務薬剤師は自身にメリットまたは大きなデメリットが無ければ、情報はあっても選挙への関心は薄く、行動を起こす（選挙について考え、議論し、投票に行く）人が少ないかも知れない。」というご意見も頂いて、自分自身と重ねて考えました。日常をそれほど大過無く過ごせば、無関心がまかり通ってしまいます。

今回のフォーラムに参加して自分の意識・行動がどう変化したかという、大きな変化は今のところありませんが、自分にとって未来への種は撒けたと思っています。

また普段意見が聞けない方々と話せた事によって、自分の考え方に深まりと広がりを得られ、次の行動への足掛かりになると



思っています。

皆さん、政治に関心がなくても自身の人生をどうしていきたいのか考えたことはあると思います、その時に自分の事柄を挙げている政治家・政党のSNSを覗いてみてはいかがでしょうか。言葉・公約よりも普段の行動で、考え方が推し量れると思います。

話が大きくなりとりとめのなくなっ

てまいりましたが、今の意識から行う行動が未来の日常を築いていくと考えているので、自分も本当にささやかではありますが、少しでも良い方向へ進んでいけるよう1mmの前進を心がけていきたいと思っています。

多忙の中来てくださった議員の先生方、企画運営に携わった先生方、参加者の先生方、裏方の事務員の方々、皆さま本当にありがとうございました。

本田あきこ オレンジ日誌

参議院議員・薬剤師 本田 顕子



■ 来年度予算の確保に向けて

< 9月 >

8月30日、各府省から来年度予算の概算要求書が財務省に提出されましたが、国民に最先端の医薬品・医療機器を迅速に届ける観点での取組に重点を置いた要求となりました。

「創薬構想会議」の中間とりまとめ等を踏まえ、文部科学省ではアカデミアを中心に創薬力向上につながる研究の充実や人材育成の強化に関する要求がなされ、厚生労働省では実用化促進策や治験実施環境の整備などに加え、ドラッグラグ・ドラッグロス解消に向けた開発支援事業などかなりの数の新規・増額要求となっています。

また、厚生労働省は「創薬力強化」と共に「安定供給」を一丁目一番地として位置づけて、供給情報を迅速に共有する仕組み構築や品質確保策のほか、新規要求としてβラクタム系製剤の備蓄や海外依存度の高い原薬の確保に取り組む企業への支援策などを要求しています。

薬剤師関連では、電子処方箋の全国的普及拡大と導入済み薬局での利用促進に関する事業およびシステム改善が新規要求となり、電子版お薬手帳の普及拡大も継続します。そして、いわゆる「骨太の方針2024」における「調剤録等の薬局情報のDX・標準化の検討を進める」を踏まえた対応は、薬局機能の高度化を図る一環として調査・検討を進めるための増額要求につながりました。

そのほか離島・へき地等での実効性ある薬剤提供を行うための新規事業、薬剤師確保のための支援体制の整備、病院薬剤師の確保および評価向上などを推進するとともに、地域医療介護総合確保基金については国と地方あわせて1,029億円の要求となっており、地域薬剤師会による復職・求職支援、薬剤師確保が困難な病院・薬局への派遣、在宅医療推進など地域医療構想の実現につながる取組への活用が可能です。

今後、年末の予算編成に向けて要求内容の必要性や予算規模などについて政府内での協議・調整が進められますので、薬価中間年改定の取扱いを含めしっかりと議論を重ねてまいります。引き続きのご指導・ご助言をお願いいたします。

(参考)

●「創薬構想会議」中間とりまとめ（概要）

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/souyakuryoku/pdf/chuukantorimatome_gaiyou.pdf

●厚生労働省 令和7年度概算要求資料（医薬局分、医政局分）

<https://www.mhlw.go.jp/wp/yosan/yosan/25syokan/dl/gaiyo-05.pdf>

<https://www.mhlw.go.jp/wp/yosan/yosan/25syokan/dl/gaiyo-02.pdf>

■彩りと希望あふれる薬剤師の未来のために ~学術大会 in さいたま~ <10月>

9月22、23日の両日、日本薬剤師会学術大会が埼玉県さいたま市で開催されました。

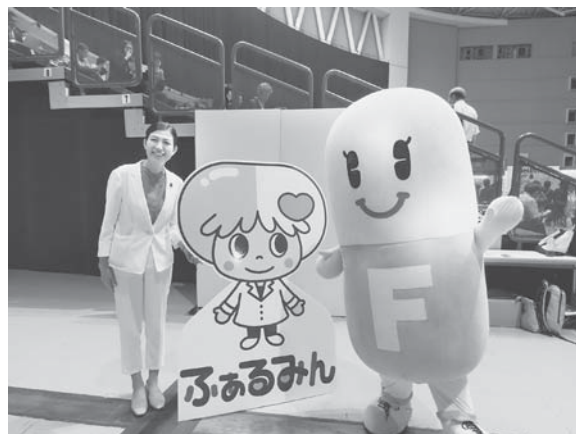
57回目を迎えた今回の学術大会の開会式では、大会長の岩月進日本薬剤師会会長および大会運営委員長の齊藤祐次埼玉県薬剤師会会長のご挨拶の後の来賓祝辞にて、イタリアでのG7文化大臣会合出席されている盛山正仁文部科学大臣に代わり文部科学省を代表して挨拶をいたしました。

昨年10月に文部科学大臣政務官を拝命してから約1年にわたり、科学技術・文化芸術分野を中心に行ってきました公務についてはこれまでブログ等でお伝えしてきましたが、今回の開会式では、ウェブ参加の先生方を含め大勢の薬剤師の先生方に文部科学省と薬剤師の関わりをお伝えできたと思っています。大臣祝辞（代読）では、文部科学省で進めている薬剤師の偏在解消につなげるための養成プログラムや来年度予算要求のことに加え、今年度から始まっています薬学教育モデル・コア・カリキュラムは「薬剤師の未来を彩る」今回の学術大会のテーマに通じるものであることに触れさせていただきました。

2日間の大会期間中、多くの時間を展示会場で過ごしました。今回の学術大会でお披露目された日本薬剤師会の公式キャラクター“ふあるみん”ともコラボしながら、薬連ブースを訪ねてきていただいた都道府県薬剤師会の先生方は元より、出展企業・団体の方々やポス



学術大会開会式での大臣祝辞代読



ポスター会場・展示会場にて

ター発表されている若手薬剤師の皆さんとも交流させていただくことができました。また、学術大会に合わせて開催されました14大学の同窓会会場にも回らせていただき、彩り豊かな出会いの時間をいただきました。皆様ありがとうございました。

薬剤師の医療における礎を築かれた石井道子先生の生誕の地で開催されました学術大会での多くの方との触れあいをしっかりと継承し、そして新たな出会いを「未来」に生かし、薬剤師の「彩りと希望あふれる未来」へとつなげてまいります。

■今年1年、そして2025年へ

<11月>

今年も残りひと月程となりました。

元日に能登半島地震が発生してから間もなく1年。全国各地で発生した大規模災害からの復旧・復興は、厳しい生活環境にありながらも被災地の皆様の強い心と全国からの温かいご協力で支えられながら、これまでもこれからも総力を上げて取り組む課題です。11月に防災庁設置準備室ができました。防災対策は元より、被災後速やかに医療体制を整えて減災につなげられる組織とすべく私も力を尽くします。

昨年10月下旬に文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官を拝命してから1年が過ぎました。その約1ヵ月前まで議員生活で初めて政府側に身を置いて公務に勤しんだ直後の思いがけない人事でしたが、政治に志を立てたきっかけが薬学教育6年制の私にとって、文科省の一員として、衆参両院での国会対応のほか、創薬推進の基盤づくりや、研究・文化・芸術分野の最前線で活躍する皆様との関係構築などができたことは今後につながると考えています。

今年は医療、介護、障害福祉サービスのいわゆる「3報酬改定」に加えて、第8次医療計画の下で地域の実情に即した医療提供体制が動き出した年でもあり、医療政策と報酬上の評価を連動させた形で地域医療構想を実現へと導く大事な時期に当たります。引き続き、物価高対策や賃上げ対応につながる経済対策を講じつつ、地域医療介護総合確保基金の活用等を通じて薬剤師の不足・偏在を解消し、薬剤師の職能が遺憾なく発揮できる環境整備に取り組んでまいります。

総裁選、衆院総選挙と続いた大きな論戦の場において、社会保障制度に関する政策の重要性がどの程度国民の皆様が届いたかを顧みると、来年に向けて自らが伝えていく必要性を感じています。

年末には来年度予算案の編成が控え、年明けの通常国会には薬機法改正法案の提出が見込まれており、中間年改定、薬局DX、医薬品の濫用防止などへの対応が求められています。

引き続き皆様からご意見・ご指摘をいただきながら、参議院議員としての5年余りの経験と実績を生かし、来夏に向けて更にそれらを重ね続けて、国民のいのちと暮らしを守るために頑張っております。

本気だ！ ホンダ！！

これからもよろしくお願ひ申し上げます。



政幸だより

参議院議員・薬剤師 神谷 政幸



■輸液製造工場を視察しました

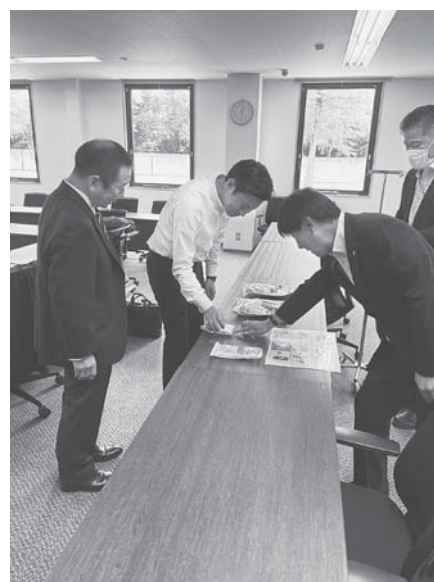
<9月>

令和6年7月17日、株大塚製薬工場様の輸液製造工場を視察させていただきました。輸液製剤は「医薬品産業ビジョン2021」においてベーシックドラッグに定義されており、生命の安全確保に直結する医薬品です。輸液は昨今の原材料やエネルギー価格の上昇によって、大きな影響を受けている医薬品の一つでもあります。

今回の視察の印象として、一番に工場の設備の大きさに驚きました。安全な無菌製剤を医療現場に届けるため、緻密かつ責任の重い仕事に従事されているスタッフの皆様に、改めて敬意を表したいと思います。工場では各種データを従来の手書きから、自動的に記録できる方法にシステム変更するなど、信頼性向上のための投資も積極的に行っておられました。製造された輸液製剤は、東京と大阪の近くに新設した巨大な物流倉庫に数か月分が備蓄されていると伺いました。災害発生時にも十分対応できるよう、輸液製剤の安定供給に努めておられる姿勢に感銘を受けました。

今回の視察で原材料やエネルギー価格の上昇以外にも、輸液製剤が採算を取りにくい点を理解することが出来ました。大きな設備で無菌的に製造するためには高額な投資が必要であり、高コスト構造となります。輸液製剤は大容量の製剤であることから、製造所や倉庫も大規模の設備が必要で、輸送にもコストがかかります。品質確保のため将来的にも継続した設備更新が必須であり、無菌性を保つためには、滅菌工程の設備等の疲労やダメージに対応する必要もあります。

感染症の流行や地震・噴火などの突発的な有事に対して、被害を最小限に抑えることは我が国にとって戦略的に重要です。輸液製剤は救命・救急医療に必要不可欠な医薬品であることを改めて認識し、生命に直結する安定確保が必要な医薬品の供給問題に、しっかりと対応して参ります。



■長崎県五島列島（ドローンを利用した医薬品配送）

<10月>

令和6年8月8日と9日の両日、長崎県五島列島を訪問し、離島での医薬品供給体制と病院薬剤師の派遣事業を視察しました。今回は五島列島で実施されているドローンを利用した医薬品配送についてご紹介します。長崎県薬剤師会の井手副会長、日本病院薬剤師会の武田

会長、長崎県病院薬剤師会会長で長崎大学病院の大山薬剤部長とご一緒に訪問させていただきました。

豊田通商株式会社は、グループ会社「そらいいな株式会社」を五島市に設立し、令和4年5月からジップライン社製のドローンを使用した医療用医薬品の配送事業を開始しました。このドローンは各目的地別に1日2～4便体制で運用されており、発注から2時間以内の配送が可能です。現在、医薬品の配送コストは医薬品卸、及びそらいいな社の協力によって賄われており、拠点設立時には助成金も活用されました。特に長崎大学病院等、島外の医療機関を受診した患者さんの処方薬が地元にはない場合でも、ドローン配送によって医薬品の安定供給が確保されています。福江島のドローン基地での発着試験飛行を視察した後、意見交換の場を設けていただきました。

翌日、中通島でうおのめ薬局を経営される五島薬剤師会会長の濱崎和久先生からお話を伺った後、有川港で医薬品を入れたパラシュート付きの箱の投下による配送現場を視察しました。ドローンの積載量は約1キロで、これまでに配送された医薬品の品質に問題はなく、配送は大きな助けとなっています。

今年6月に開催された国家戦略特区諮問会議では、長崎県と福島県が全国で初となる「新技術実装連携“絆”特区」に指定されました。現在は海上のみが飛行ルートとなっていますが、特区指定により、将来的には有人エリアでの目視外飛行が可能となり、さらなる利便性の向上が期待されています。離島やへき地での医薬品供給体制を、今後も引き続き支援してまいります。



■離島における薬剤師不足解消への取り組み

<11月>

令和6年8月8日と9日の両日、長崎県五島列島を訪問しました。前回はドローンを利用した医薬品配送についてご紹介しました。今回は病院薬剤師の派遣事業をご紹介します。

長崎大学病院薬剤部では2019年10月から福江島の富江病院に現在まで延べ9名の薬剤師を、中通島の上五島病院には2022年10月～2023年6月まで延べ2名の薬剤師を派遣してこられました。

富江病院は薬剤師1人施設です。薬剤師の派遣期間は約半年間で、内服・外用調剤、注射薬調剤、麻薬管理、抗がん薬管理、医薬品の購入管理、そして外来患者の服薬指導など、幅広い業務を行っています。医師、看護師、検査技師などの多職種はもちろん、近隣の保険薬局とも密接に協力して仕事に取り組んでおられました。

院長先生は、派遣薬剤師が調剤業務のほかマニュアルの整備や看護師向けの資料作成、バンコマイシンの投与設計なども行っており、大学病院で教育を受けた薬剤師が地域の病院に

派遣されることで、抗がん薬や麻薬などの薬物療法に関する知識が充実し、職員の薬物療法に対する意識も向上していると評価されました。また、医療安全の面でも良好な結果が得られています。離島では人材が少なく、薬剤師1人の施設では採用が非常に難しく、薬剤師の教育も困難です。大学病院からの薬剤師派遣は非常に助かっているとおっしゃっていました。

上五島病院では、複数の薬剤師が配置されています。奨学金制度を利用して、今後、数名の薬剤師の採用が確保されてはいるものの、将来を見据えて継続的に薬剤師を採用し続けることが重要と伺いました。薬剤師確保のための対策は取られていますが、まだ十分とは言えません。政治の立場からもしっかりと支援してまいります。

結びに、この場をお借り致しまして、今回の視察にご尽力いただきました長崎大学病院の大山薬剤部長と日本病院薬剤師会の武田会長に御礼を申し上げます。



政治家個人の政治力とは

金沢市議会議員・薬剤師 宇 冨 裕 基

2024年元日に発生しました令和6年能登半島地震に続き、9月に発生した令和6年奥能登豪雨により、お亡くなりになられた方、被害にあわれた方に、心よりお悔みとお見舞いを申し上げます。復旧復興の最中、またしても能登半島を襲った災害。被災者の皆様の声をお聞きすると、その心痛は大変なものであります。2025年が希望の年になることを願うとともに、1日も早い復旧復興、そして創造的復興に向けて、できることを実践していくことをお誓いいたします。

災害時には、政治家個人の政治力を実感する機会が多くありました。急性期には人命救助のため、自衛隊、消防組織、医療組織などの派遣をはじめ、道路、水道、電気

などインフラの応急復旧に向けて、知事や市長、町長の迅速な決断が求められました。慢性期に入れば、被災者への心身にわたる生活サポートや医療介護福祉ケア、避難所の持続的な運営、仮住居の確保など、生活に密着している県市町議員の声が重要になりました。その後の被災住居の修復、取り壊し、道路、港湾などの本格復旧のためには、国からの莫大な予算を引き出す必要があります。首長はもちろん、国会議員の役割も大きくなっています。災害は1つとして同じではなく、既存のマニュアルや規則が通用しないことが多々ありますが、その都度に改定をしている時間はありません。それを乗り越えられるのは、政治の力です。「こんな状況だから、頼むこっちゃ何

とかしてくれんけ？」という現場の声に、「分かった。あなたのためなら何とかするわ！」と答えてもらうためには、理路整然とした言論だけではなく、普段からの関係づくり、実績、信頼関係などが重要で、最終的にはいわゆる人と人とのウェットなつながりです。これは人間が社会生活を営む以上、普遍的な真理であり、政治家個人の政治力の1つであると感じました。

そのような中、9月8日(日)若手薬剤師指導者育成フォーラムが金沢市で開催されました。石川1区衆議院議員の小森たかくお代議士にもご参加いただき、北陸の若手薬剤師の方々がワークショップで意見を交換しあいました。どのように有権者に政治への興味関心を持ってもらうか、投票行動につなげてもらうかなど、社会的にも難しい課題を話し合い、アイデアを出し、発表する有意義な会でした。すぐに答えが見つかるわけではありませんが、自分の意見を考え、他人の意見を聞き、意見交換することが重要であり、大いに理解と親交が深まったと思います。この人と人とのつながりが、何かあったときに助け合うことができる土壌を育むはずであり、このような機会を作っていただいた関係各位に感謝を申し上げます。



若手薬剤師指導者育成フォーラムにて、意見交換



金沢マラソン2024事前登録会場もてなしドームにて、アンチドーピングの啓発活動



金沢マラソン2024当日の朝、まだ元気な状況

さて、話は変わりますが、先日金沢マラソン2024に参加しました。初マラソンということで不安もいっぱいありましたが、応援のおかげで何とか完走することができました(その様子は、YouTubeでも公開しておりますので、「うだひろき マラソン」で検索してご覧ください。) 薬剤師会からも、中森会長をはじめ多くのランナーが参加しました。また、金沢市薬剤師会主催で、石川県薬剤師会のご尽力のもとに、マラソン前日と前々日にはもてなしドームでスポーツファーマシストの啓発活動も実施することができました。事前準備から当日運営まで、関わってくださった方々に御礼申し上げます。

引き続き薬剤師が十分に職能を発揮し、市民の健康を守っていくために、私も努力してまいります！

Think QUALITY

薬剤師学会大会 金沢



私はこのように聞き視て考え
そして活動した



■特別講演
「Positiveに生きる。
能登半島地震で私が考えたこと」
葦原 海 氏 (モデル / パフォーマー)
16歳の時に、事故で両足を切断した葦原 海さん。
失ったもの得られたもの



■シンポジウム
「能登半島地震の Quality とは」
① 能登半島地震が我々に残したもの
② いきるといふこと・・・能登半島地震を経験して





QRコードから葦原 海さんの動画が視聴できます。



■ Zoom World Session
「世界の薬剤師と
能登半島地震を考える」
A. 各国の災害対応
B. 世界から日本の薬剤師を考える



■シンポジウム
「生成 AI を薬剤師業務に活かす
可能性を考える。
生成 AI は新世紀薬剤師をさらに
次のステージへと導くのか。」
座長 上村 直樹 (東京理科大学 嘱託教授)

会期、会場が変更になりました

2025年(令和7年)
2/22土 ▶▶ 24月 振休
金沢大学医学類宝町キャンパス(十全講堂、医学部記念館)

大会長 **中森 慶滋** (公益社団法人 石川県薬剤師会 会長)

開会式
「鎮魂」パッパ無伴奏チェロ組曲第一番プレリユード 演奏

第 64 回北陸信越薬剤師大会・第 57 回北陸信越薬剤師学会大会
大会事務局 / 公益社団法人 石川県薬剤師会 〒920-0032 石川県金沢市広岡町イ 25 番地 10 TEL : 076-231-6634 メールアドレス : kenyaku@plaza-woo.jp

原稿を募集しています。

- ◇「県薬レポート」では、この小冊子をより一層愛されるものにしたいと願って、読者の皆様から広く原稿を募集しています。
- ◇テーマや内容、体裁は自由です。評論、随筆、意見、提言、店頭体験談、趣味の話、詩、短歌、俳句、川柳、或いはマンガ、イラスト、カット、写真等々何でも結構です。ただしあまり長いものは御遠慮の程を……。
- ◇原稿はデータで石川県薬剤師会までメールでお送りください。

その他：採否は編集委員会におまかせください。

「県薬レポート」編集委員会
委員：綿谷 敏彦、藤原 秀範、橋本 昌子
伊藤 昭一、野村 政明、塩谷 明美
吉野 貴大、坂野由宇希
石川県薬剤師会ホームページのURL
<http://www.ishikawakenyaku.com/>
eメール・アドレス
kenyaku@plaza-woo.jp